

平成26年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成27年度調査）の
速報案について

○ 廃用症候群に対するリハビリテーションの適正化、リハビリテーションの推進等による影響や維持期リハビリテーションの介護保険への移行の状況を含むリハビリテーションの実施状況調査

・調査の概要	1頁
・病院調査、診療所調査	6頁
・一般病棟調査	48頁
・回復期リハビリテーション病棟調査	64頁
・NDBデータ	101頁
・調査票	102頁

平成 26 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 27 年度調査）

廃用症候群に対するリハビリテーションの適正化、リハビリテーションの
推進等による影響や維持期リハビリテーションの介護保険への移行の状況を含む
リハビリテーションの実施状況調査

調査結果概要（速報）（案）

※数値は暫定値であり、一部、変わる可能性があります。

■■■ 目次 ■■■

I 調査の概要	1
1 目的	1
2 調査対象	1
3 調査方法	2
4 質問項目	2
II 結果の概要	5
1 回収の状況	5
2 病院調査、診療所調査の結果	6
(1) 施設の概要	6
(2) 一般病棟における ADL 維持向上等体制加算の届出	14
(3) 回復期リハビリテーション病棟における加算の届出や患者の受入れ状況	16
(4) 入院患者のリハビリテーションの実施状況	24
(5) 外来患者の「維持期リハ」の実施状況	26
(6) 通所リハビリテーションの実施状況	42
3 一般病棟調査の結果	48
(1) 病棟の概要	48
(2) ADL 維持向上等体制加算	49
(3) 在棟患者の状況	51
(4) 患者の嚥下機能の維持、向上等	52
(5) 患者への予後等の説明や退院時の説明	56
4 回復期リハビリテーション病棟調査の結果	64
(1) 病棟の概要	64
(2) 患者への予後等の説明や退院時の支援	68
(3) 患者の状況	72
(4) 平成 27 年 1 月入棟患者の状況	91
(5) 入棟時の状態（入棟時に A 項目が 1 点以上の患者）（平成 27 年 4 月～6 月）	98
(6) 入棟時の状態（入棟時に A 項目が 0 点の患者）（平成 27 年 4 月）	100

I 調査の概要

1 目的

平成 26 年度診療報酬改定では、急性期病棟におけるリハビリテーション専門職の配置等についての評価の新設及び回復期リハビリテーション病棟における評価の見直しが行われた。また、リハビリテーションの外来への早期移行を推進する観点から、外来における早期リハビリテーションの評価の見直しが行われた。さらに、要介護被保険者等に対する維持期の脳血管疾患等リハビリテーションを含む疾患別リハビリテーション等の適切な評価が行われたところである。

これらのリハビリテーションの評価の見直しによる保険医療機関の提供体制、維持期リハビリテーションの提供状況及び患者の状態の改善状況の変化について調査を行った。

<調査のねらい>

- ・ 各種リハビリテーション料の算定状況（入院・入院外）の把握
- ・ 各種リハビリテーション料を算定している保険医療機関におけるリハビリテーションの提供体制の把握
- ・ 外来のリハビリテーションの提供状況の把握
- ・ リハビリテーションを提供している施設の患者の状況の把握
- ・ 介護保険への移行状況や移行を支援する取組の実施状況の把握

2 調査対象

<病院調査>

- ・ 全国の病院のうち、7対1入院基本料（一般病棟入院基本料、特定機能病院入院基本料（一般病棟に限る）及び専門病院入院基本料）、又は10対1入院基本料（一般病棟入院基本料、特定機能病院入院基本料（一般病棟に限る）及び専門病院入院基本料）を算定する病院のうち、「ADL維持向上等体制加算を算定する施設」悉皆（46施設）と「ADL維持向上等体制加算を算定しない施設」無作為抽出した施設（354施設）を合わせて400施設
- ・ 上記以外で、回復期リハビリテーション病棟を有する病院の中から無作為抽出した800施設

<診療所調査>

- ・ 全国の診療所のうち、脳血管疾患等リハビリテーション料または運動器リハビリテーション料を算定している診療所の中から無作為抽出した600施設。

<一般病棟調査>

- ・ 上記、病院調査の対象施設が7対1入院基本料（一般病棟入院基本料、特定機能病院入院基本料（一般病棟に限る）及び専門病院入院基本料）、又は10対1入院基本料（一般病棟入院基本料、特定機能病院入院基本料（一般病棟に限る）及び専門病院入院基本料）を算定する病棟を有する場合にはその病棟を対象とする。1施設に該当の病棟が複数ある場合は、ADL機能向上等体制加算の算定の有無別に各1病棟、合計最大2病棟を対象とした。

<回復期リハビリテーション病棟調査>

- ・ 上記、病院調査の対象施設が、回復期リハビリテーション病棟を有する場合は、その病棟を対象とする。1施設につき1病棟を対象とした。

3 調査方法

- ・ 対象施設に対して、調査票をまとめて郵送で発送し、郵送にて回収した。
- ・ 調査実施時期は平成27年7月6日～平成27年8月25日であった。

4 質問項目

区分	主な調査項目
(1) 病院調査	<ul style="list-style-type: none"> ○施設概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ 開設者、病院機能評価の認定、併設施設・事業所 ・ 医師、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士、ソーシャルワーカー等の職員数 ・ 病床数、病棟数 ・ 届出リハビリテーション料 ○一般病棟におけるADL維持向上等体制加算の届出状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 届出病棟の有無 ・ 対応困難な要件、届出していない理由 ○回復期リハビリテーション病棟における加算の届出や患者の受入状況等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 体制強化加算の届出の有無、対応困難な要件、他部門への影響、職員の増員の有無、届出していない理由 ・ リハビリテーション提供体制の届出の有無、届出いなかった理由、対応 ・ リハビリテーション総合計画入院時訪問指導加算の算定の有無、困難な要件、算定の影響、算定しなかった理由 ・ 患者の受入状況 ○入院患者に対する各種リハビリテーションの提供状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種リハビリテーションの算定状況 ・ 維持期リハビリテーションの要介護被保険者等のうち、介護保険への移行困難者数及びその理由 ○外来患者に対するリハビリテーションの提供状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 外来患者数 ・ 各種リハビリテーションの算定状況 ・ 標準的算定日数を超えた期間 ・ 維持期リハビリテーションの要介護被保険者等のうち、介護保険への移行困難者数及びその理由

	<p>○通所リハビリテーション（介護保険）の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通所リハビリテーションの実施の有無、実施日数、実施延べ数 ・ 今後の実施意向、実施しない理由
(2) 診療所調査	<p>○施設概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開設者、併設施設・事業所 ・ 医師、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士、ソーシャルワーカー等の職員数 ・ 病床数 ・ 届出リハビリテーション料 <p>○外来患者に対するリハビリテーションの提供状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外来患者数 ・ 各種リハビリテーションの算定状況 ・ 標準的算定日数を超えた期間 ・ 維持期リハビリテーションの要介護被保険者等のうち、介護保険への移行困難者数及びその理由 <p>○通所リハビリテーション（介護保険）の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通所リハビリテーションの実施の有無、実施日数、実施延べ数 ・ 今後の実施意向、実施しない理由
(3) 一般病棟調査	<p>○病棟の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 算定診療報酬 ・ 病床数 ・ 平均在院日数、在宅復帰率 <p>○ADL維持向上等体制加算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 届出の有無 ・ 届出による職員の意識変化の有無 ・ 常勤専従で配置している職員の職種、配置職員の業務内容 <p>○患者の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者数 ・ リハビリテーションが提供されていない患者数、その状態等 <p>○患者の嚥下機能の維持、向上等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者の嚥下機能の維持、向上に係る取り組み ・ 経口摂取回復促進加算の届出の有無、届出をしていない理由 <p>○患者の予後等の説明や退院時の支援等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 退院予定患者について、行っている取り組み ・ 患者への説明内容、説明者 ・ 回復期リハビリテーション病棟への転院打診を断られた理由 ・ 回復期リハビリテーション病棟への転院の適応を考えられたが、紹介し

	<p>なかった理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域包括ケア病棟への転院打診を断られた理由
<p>(4) 回復期リハビリテーション病棟調査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○病棟概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ 算定診療報酬、加算 ・ 病床種別 ・ 病床数 ・ 平均在院日数、在宅復帰率、ADLが向上した重症患者の割合 ○患者の予後等の説明や退院時の支援等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 退院予定患者について、行っている取り組み ・ 患者への説明内容、説明者 ○患者の状況等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者数 ・ 回復期リハビリテーション病棟入院料の算定患者数、算定していない患者数、その状態の内訳 ・ 廃用症候群の患者の対象となるリハビリテーション料 ・ 摂食・嚥下障害の臨床的重症度に関する分類別人数 ・ 食事の状態別患者数 ・ 患者の嚥下機能の維持、向上に係る取り組み ・ 経口摂取回復促進加算の届出の有無、届出をしていない理由 ・ 患者のADL、疾患別リハの実施単位数（月別推移） ・ 入棟時の状況

II 結果の概要

1 回収の状況

図表 1 回収の状況

単位：件

調査区分	発送数	有効回答数	有効回答率
①病院調査（病院数）	1,200	604	50.3%
②診療所調査（診療所数）	600	301	50.1%
④一般病棟調査（病棟数）	—	479	—
③回復期リハビリテーション病棟調査（病棟数）	—	432	—

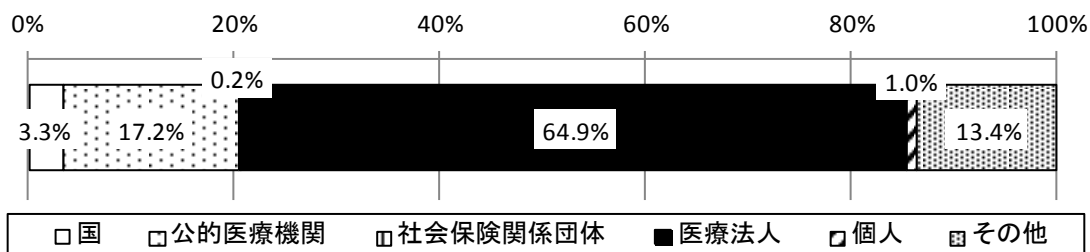
2 病院調査、診療所調査の結果

(1) 施設の概要

1) 開設者

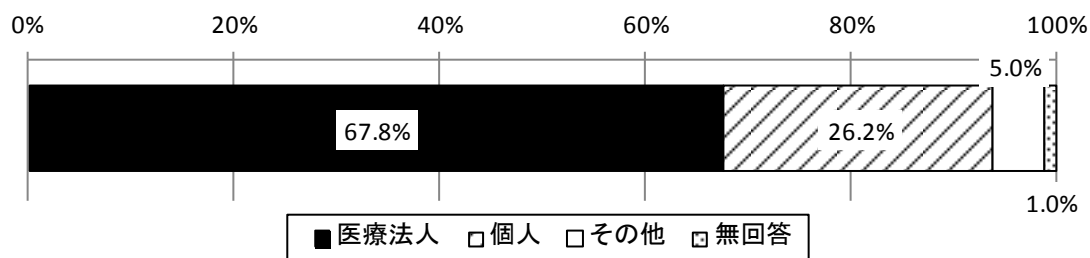
【病院】

図表 2 開設者【病院】(n=604)



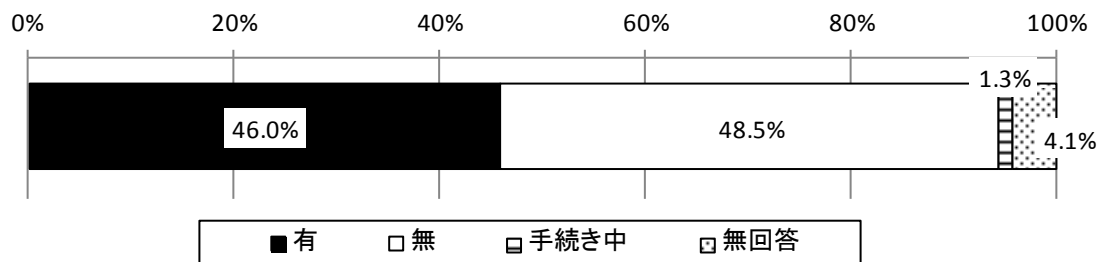
【診療所】

図表 3 開設者【診療所】(n=301)



2) 病院機能評価の認定の有無

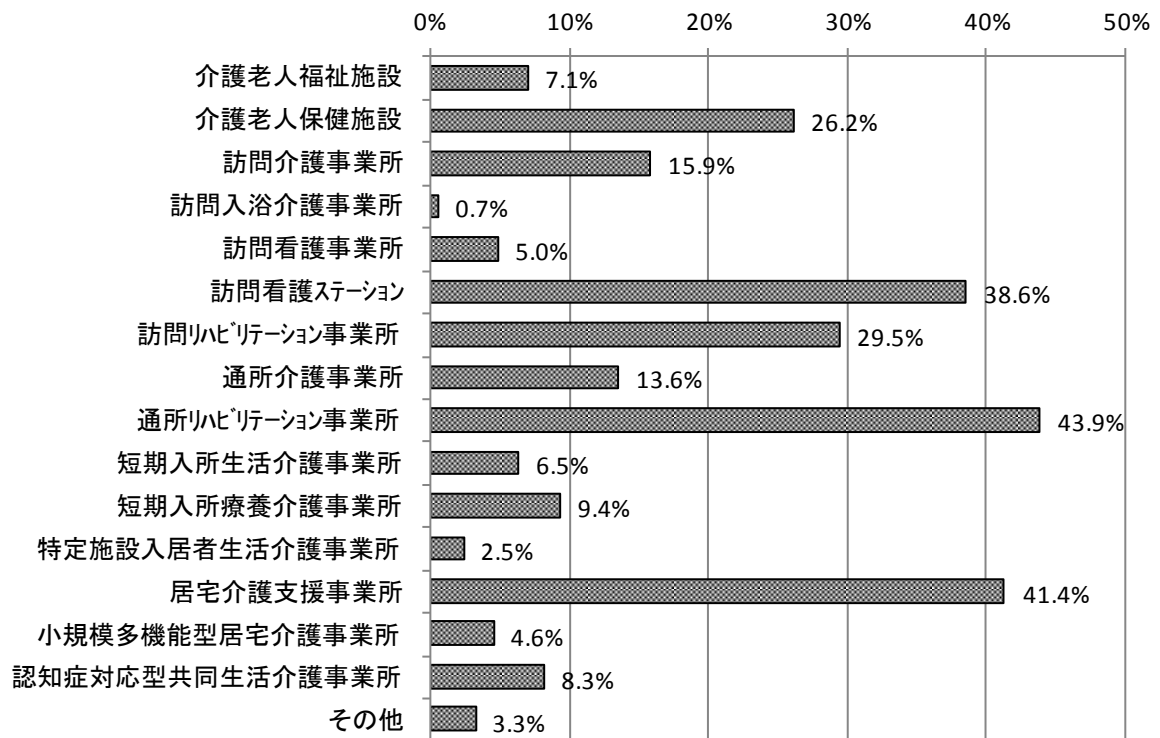
図表 4 病院機能評価の認定の有無 (n=604)



3) 同一・隣接敷地内の介護施設・事業所

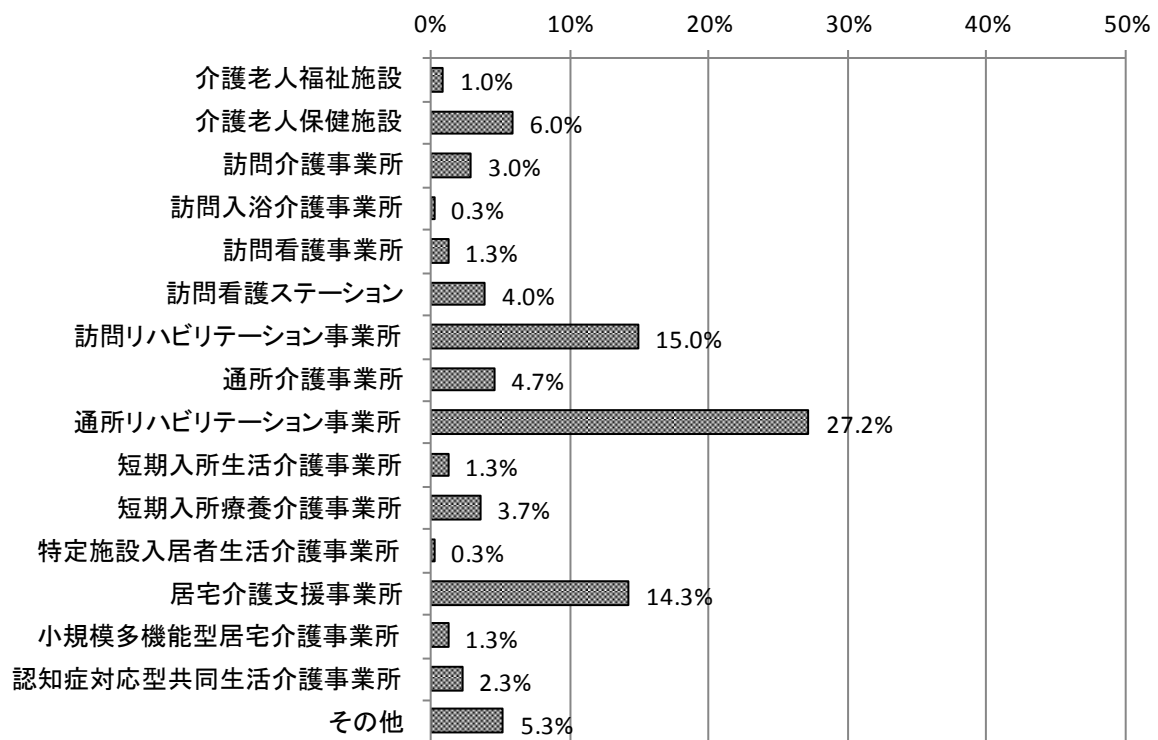
【病院】

図表 5 同一・隣接敷地内の介護施設・事業所【病院】（複数回答）（n=604）



【診療所】

図表 6 同一・隣接敷地内の併設施設・事務所【診療所】（複数回答）（n=301）



4) 職員数

【病院】

図表 7 職員数【病院】(n=562)

単位：人

	常 勤			非常勤		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
1) 医師	27.0	58.1	9.0	11.4	77.9	3.0
【再掲】リハビリテーション科専門医	0.6	1.1	0.0	0.1	0.2	0.0
2) 理学療法士	24.4	17.5	20.0	0.4	1.9	0.0
3) 作業療法士	13.6	11.5	11.0	0.3	1.7	0.0
4) 言語聴覚士	5.5	5.2	4.0	0.2	0.5	0.0
5) ソーシャルワーカー	4.1	3.2	3.0	0.2	1.0	0.0
【再掲】社会福祉士	3.3	2.8	3.0	0.2	0.9	0.0

【診療所】

図表 8 職員数【診療所】(n=233)

単位：人

	常 勤			非常勤		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
1) 医師	1.4	0.9	1.0	0.3	0.6	0.0
【再掲】リハビリテーション科専門医	0.2	0.5	0.0	0.0	0.3	0.0
2) 理学療法士	3.0	2.6	2.0	0.2	0.5	0.0
3) 作業療法士	0.4	0.9	0.0	0.0	0.2	0.0
4) 言語聴覚士	0.1	0.6	0.0	0.0	0.2	0.0
5) ソーシャルワーカー	0.1	0.4	0.0	0.0	0.5	0.0
【再掲】社会福祉士	0.1	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0

5) 病床数・病棟数

【病院】

①病床数

図表 9 病床数 (n=594)

単位：床

	回答件数 (病院数)	平均値	標準偏差	中央値
一般病床	594	153.5	177.5	98.5
7対1入院基本料	594	74.1	158.9	0.0
10対1入院基本料	594	35.5	68.3	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	594	8.7	22.1	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	594	8.7	19.9	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	594	1.7	14.3	0.0
療養病床(医療保険適用)	594	48.9	60.8	32.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	594	12.2	31.2	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	594	12.3	23.9	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	594	1.4	8.6	0.0
療養病床(介護保険適用)	594	6.4	25.1	0.0
精神病床	594	9.9	54.2	0.0
結核病床	594	0.4	2.9	0.0
感染症病床	594	0.2	0.9	0.0
合計	594	219.2	181.8	160.5

図表 10 病床数 (0床を除く)

単位：床

	回答件数 (病院数)	平均値	標準偏差	中央値
一般病床	504	180.9	179.4	119.5
7対1入院基本料	169	260.4	200.8	197.0
10対1入院基本料	231	91.4	83.2	60.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	95	54.3	23.9	49.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	113	45.9	19.4	43.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	19	54.4	60.8	40.0
療養病床(医療保険適用)	329	88.3	56.4	78.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	101	72.0	37.7	57.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	148	49.2	21.6	48.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	19	44.6	19.6	48.0
療養病床(介護保険適用)	61	62.4	51.6	50.0
精神病床	48	122.0	151.9	59.0
結核病床	16	13.4	11.7	11.0
感染症病床	25	4.2	1.3	4.0
合計	594	219.2	181.8	160.5

②病棟数

図表 11 病棟数 (n=594)

単位：棟

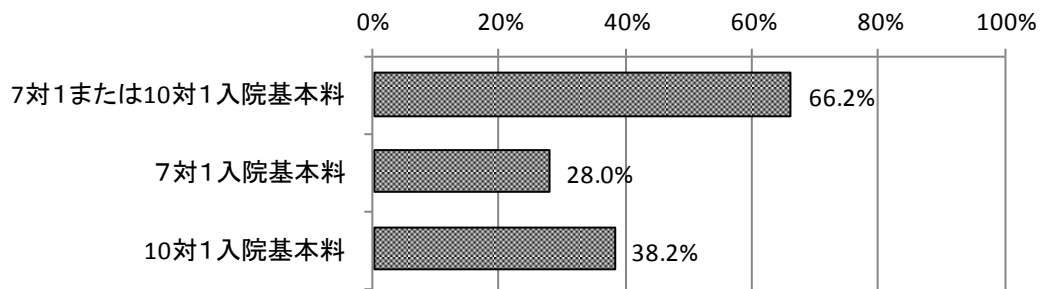
	回答件数 (病院数)	平均値	標準偏差	中央値
【一般病床】7対1入院基本料	594	1.7	3.9	0.0
【一般病床】10対1入院基本料	594	0.8	1.5	0.0
【一般病床】回復期リハビリテーション病棟入院料1	594	0.2	0.5	0.0
【一般病床】回復期リハビリテーション病棟入院料2	594	0.2	0.4	0.0
【一般病床】回復期リハビリテーション病棟入院料3	594	0.0	0.3	0.0
【療養病床】回復期リハビリテーション病棟入院料1	594	0.3	0.6	0.0
【療養病床】回復期リハビリテーション病棟入院料2	594	0.3	0.5	0.0
【療養病床】回復期リハビリテーション病棟入院料3	594	0.0	0.2	0.0

図表 12 病棟数(0棟を除く)

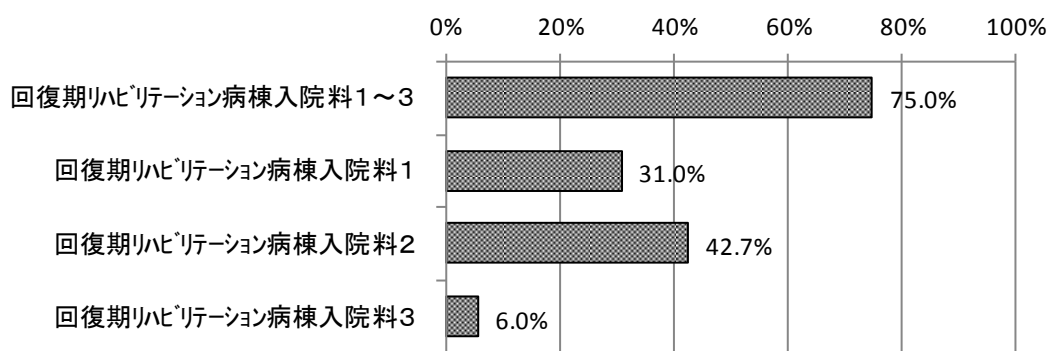
単位：棟

	回答件数 (病院数)	平均値	標準偏差	中央値
【一般病床】7対1入院基本料	169	6.1	5.1	4.0
【一般病床】10対1入院基本料	231	2.0	1.9	1.0
【一般病床】回復期リハビリテーション病棟入院料1	95	1.2	0.5	1.0
【一般病床】回復期リハビリテーション病棟入院料2	112	1.1	0.3	1.0
【一般病床】回復期リハビリテーション病棟入院料3	19	1.3	1.4	1.0
【療養病床】回復期リハビリテーション病棟入院料1	101	1.5	0.7	1.0
【療養病床】回復期リハビリテーション病棟入院料2	148	1.1	0.4	1.0
【療養病床】回復期リハビリテーション病棟入院料3	19	1.1	0.2	1.0

図表 13 7対1または10対1入院基本料の病床を有する病院 (n=601)

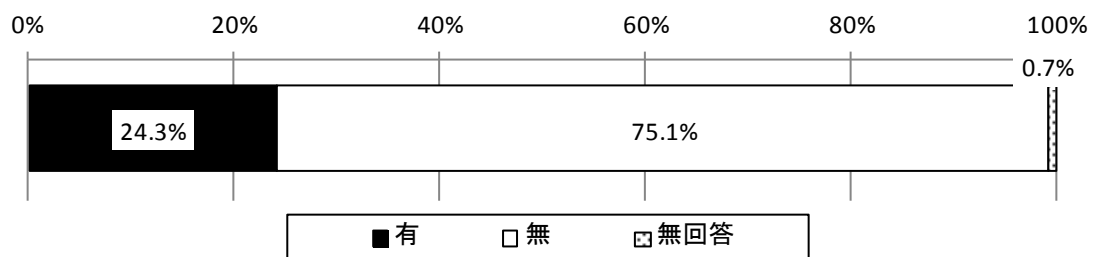


図表 14 回復期リハビリテーション病棟入院料を算定する病床を有する病院 (n=601)



【診療所】

図表 15 病床の有無 (n=301)



図表 16 (病床有の場合) 病床数 (n=73)

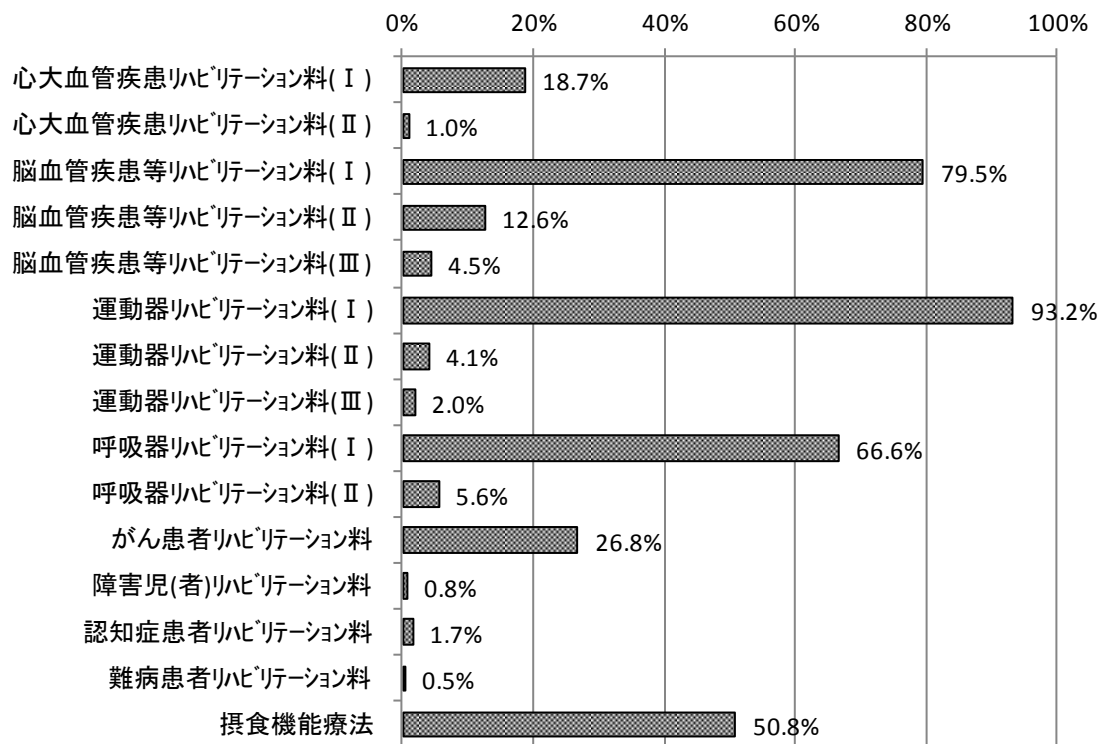
単位：床

平均値	標準偏差	中央値
17.2	4.4	19.0

6) 届出リハビリテーション料

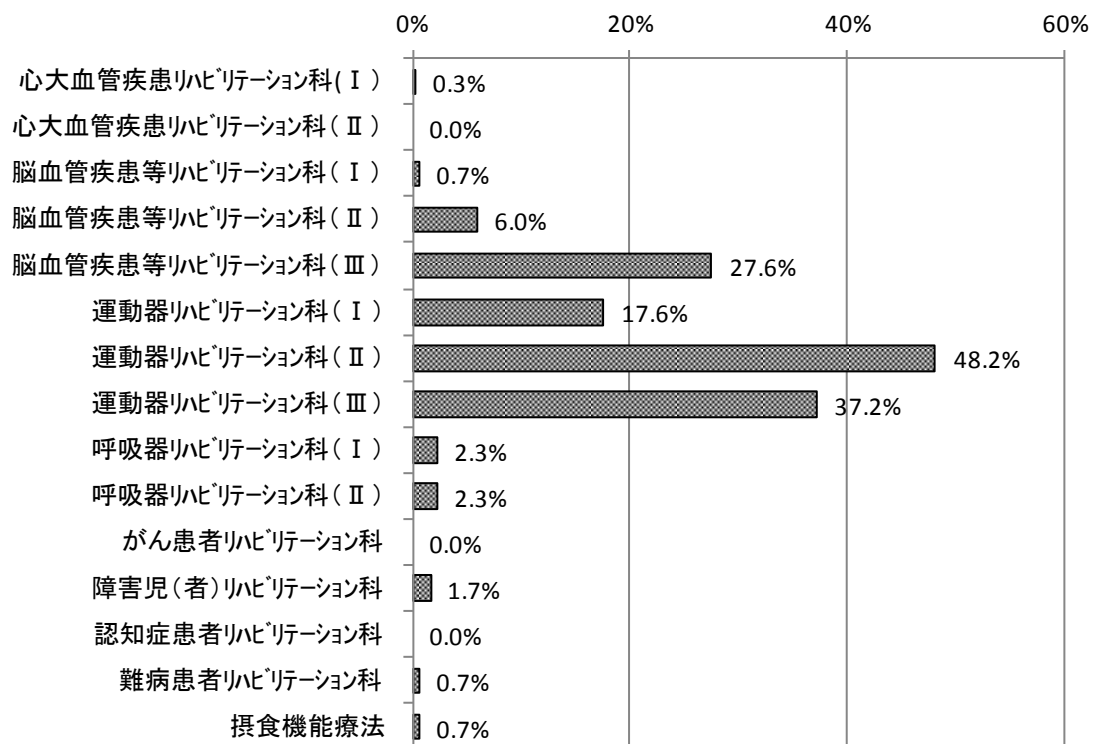
【病院】

図表 17 届出リハビリテーション料【病院】(複数回答)(n=604)



【診療所】

図表 18 届出リハビリテーション料【診療所】(複数回答)(n=301)

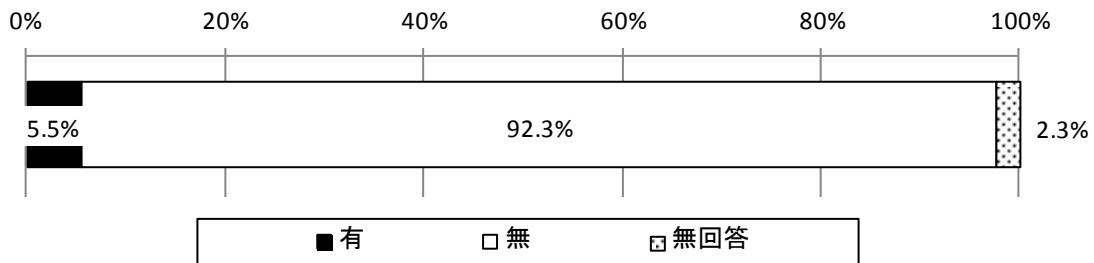


(2) 一般病棟における ADL 維持向上等体制加算の届出 (病院のみ)

※7 対 1 入院基本料または 10 対 1 入院基本料の病床を有する病院 (400 施設) が回答

1) ADL 維持向上等体制加算の届出の有無

図表 19 ADL 維持向上等体制加算の届出の有無 (n=400)



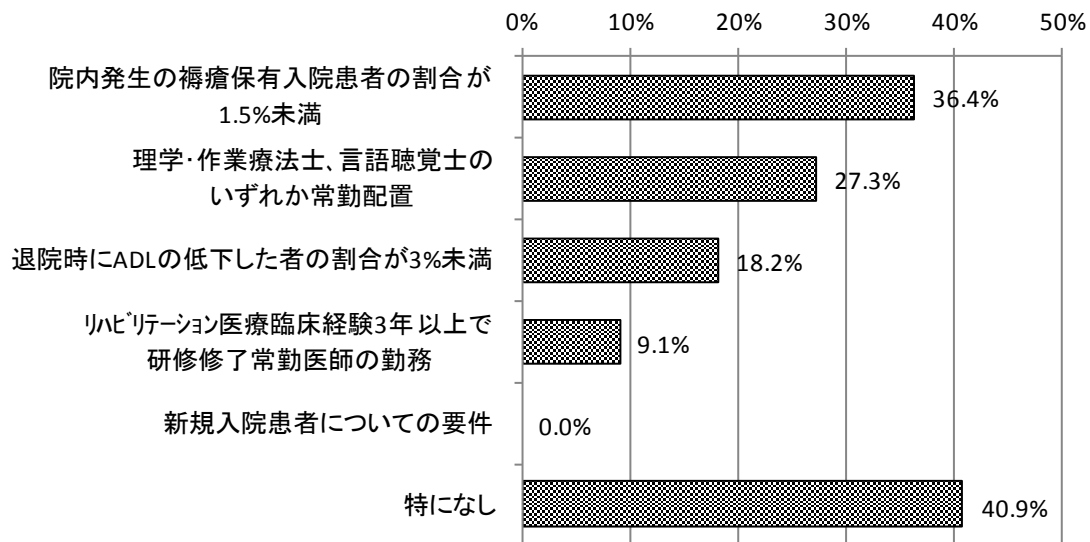
図表 20 ADL 維持向上等体制加算を届け出た病棟数 (有の場合) (n=19)

単位: 棟

	平均値	標準偏差	中央値
ADL 維持向上等体制加算を届け出た病棟数	2.6	6.6	1.0

2) 届出にあたって対応が困難だった要件

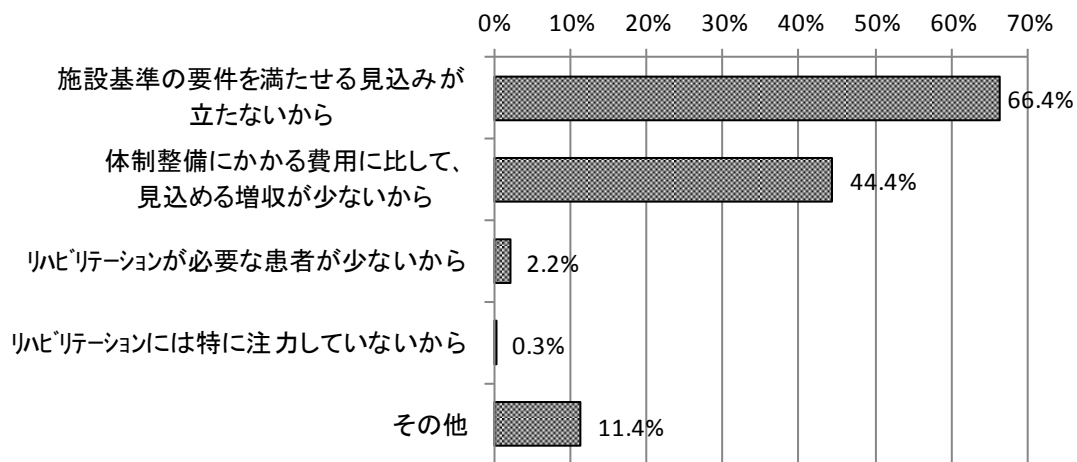
図表 21 届出にあたって対応が困難だった要件 (複数回答) (n=22)



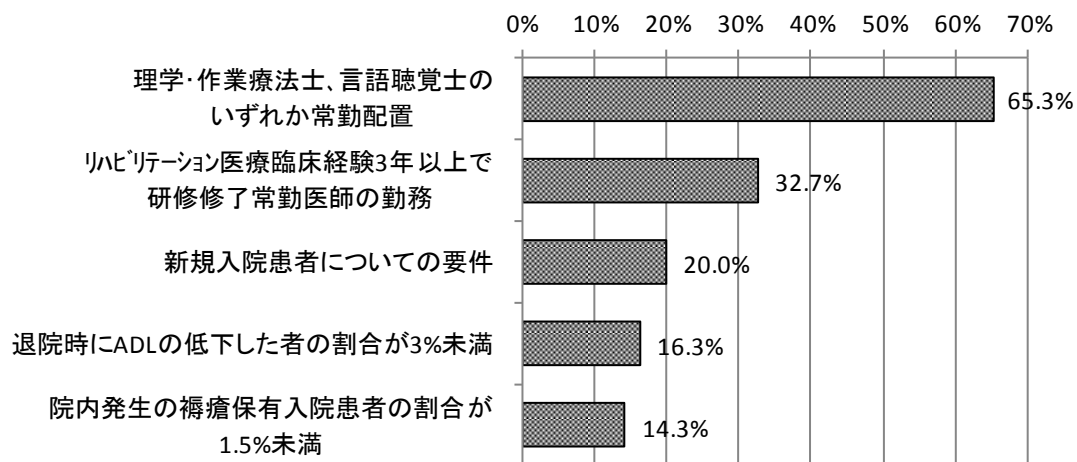
※新規入院患者についての要件: 病棟の直近1年間の新規入院患者のうち、「65歳以上の患者の割合が8割以上」または「循環器系の疾患、新生物、消化器系、運動器系または呼吸器系の疾患の患者が6割以上」であること

3) ADL 維持向上等体制加算の届出をしていない理由

図表 22 ADL 維持向上等体制加算の届出をしていない理由（複数回答）（n=369）



図表 23 施設基準の要件を満たせる見込みが立たない場合、具体的な要件（複数回答）（n=245）



※新規入院患者についての要件：病棟の直近1年間の新規入院患者のうち、「65歳以上の患者の割合が8割以上」または「循環器系の疾患、新生物、消化器系、運動器系または呼吸器系の疾患の患者が6割以上」であること

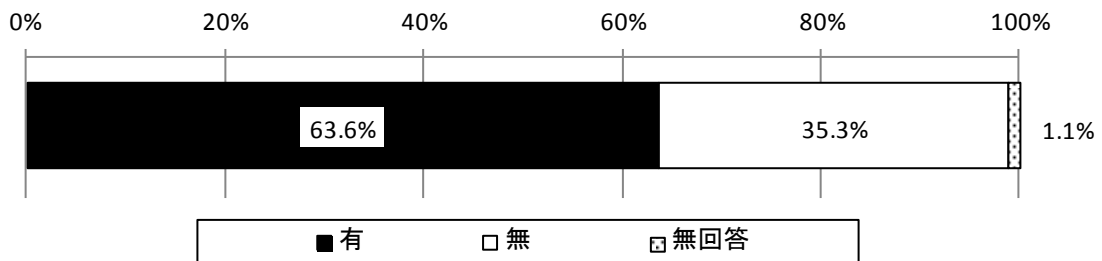
(3) 回復期リハビリテーション病棟における加算の届出や患者の受入れ状況（病院のみ）

1) 体制強化加算について

※回復期リハビリテーション病棟入院料1を有する病院（187施設）が回答

①体制強化加算の届出の有無

図表 24 体制強化加算の届出の有無（n=187）



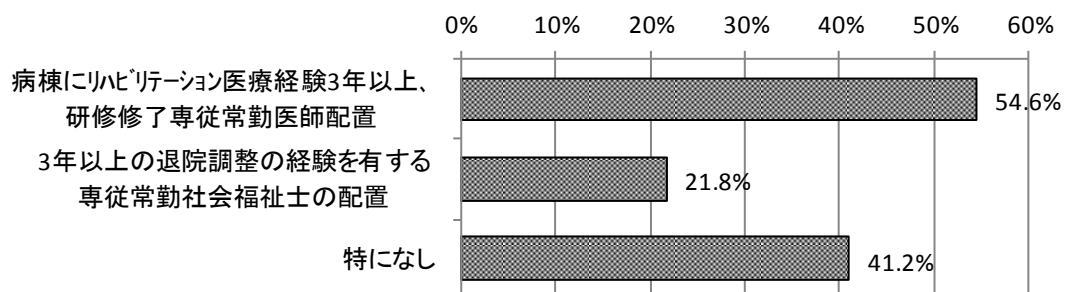
図表 25 体制強化加算を届け出た病棟数（有の場合）（n=113）

単位：棟

	平均値	標準偏差	中央値
体制強化加算を届け出た病棟の数	1.4	0.7	1.0

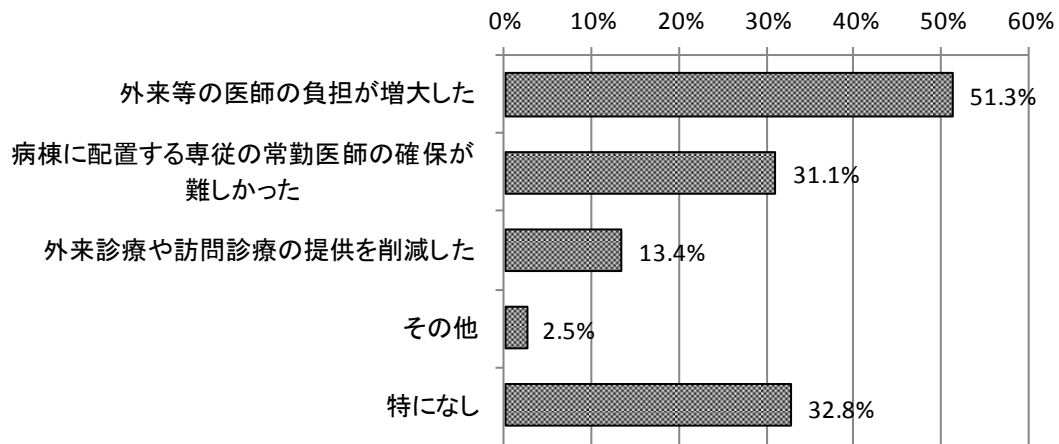
②体制強化加算の届出にあたって対応が困難だった要件

図表 26 体制強化加算の届出にあたって対応が困難だった要件（複数回答）（n=119）



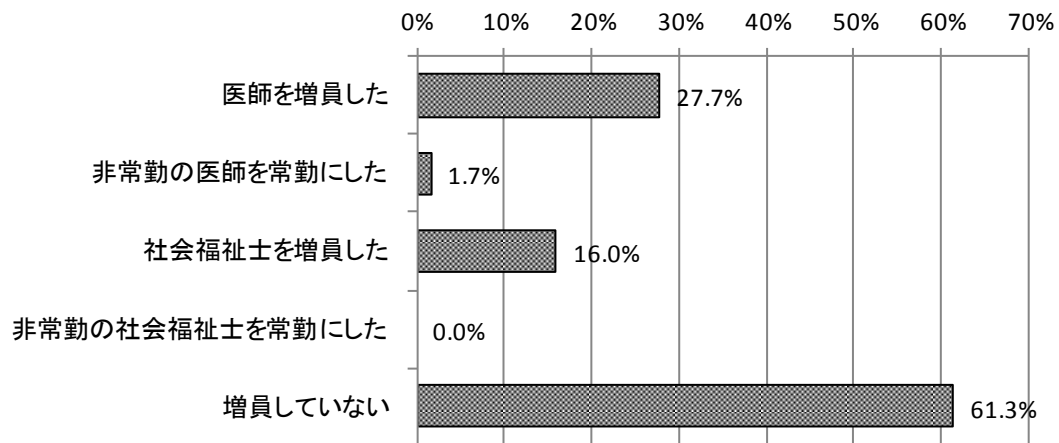
③体制強化加算の届出が外来や訪問医療部門に与えた影響

図表 27 体制強化加算の届出が外来や訪問医療部門に与えた影響（複数回答）（n=119）



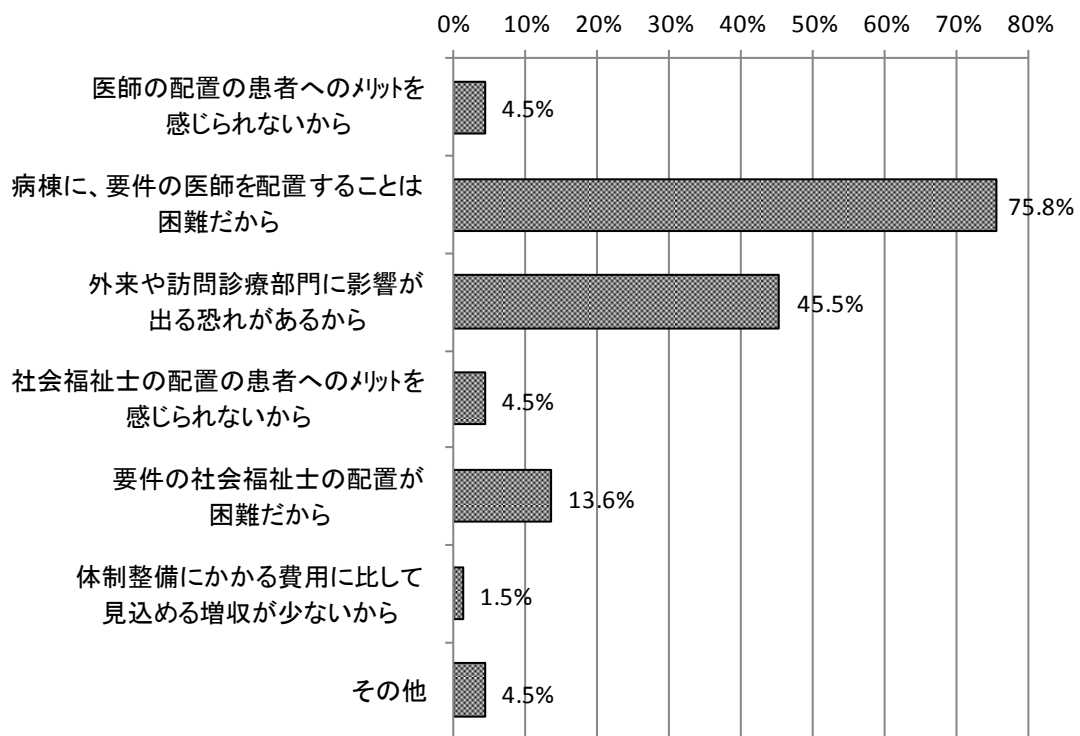
④体制強化加算の届出にあたっての職員の増員

図表 28 体制強化加算の届出にあたっての職員の増員（複数回答）（n=119）



⑤体制強化加算の届出をしていない理由

図表 29 体制強化加算の届出をしていない理由（複数回答）（n=66）

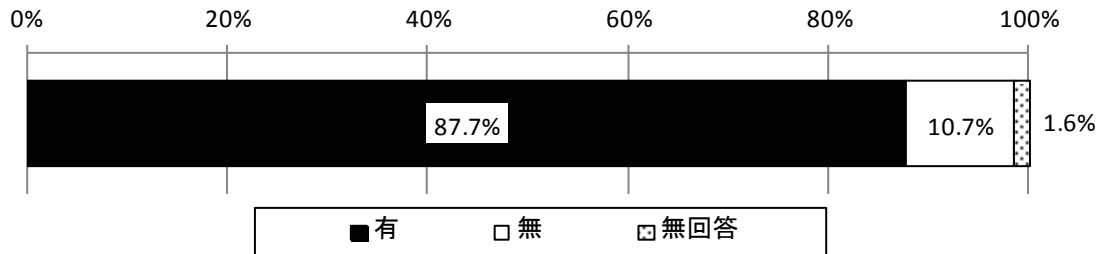


2) 休日におけるリハビリテーションについて

※回復期リハビリテーション病棟入院料1を有する病院（187施設）が回答

①休日リハビリテーション提供体制加算の届出の有無（平成26年3月時点）

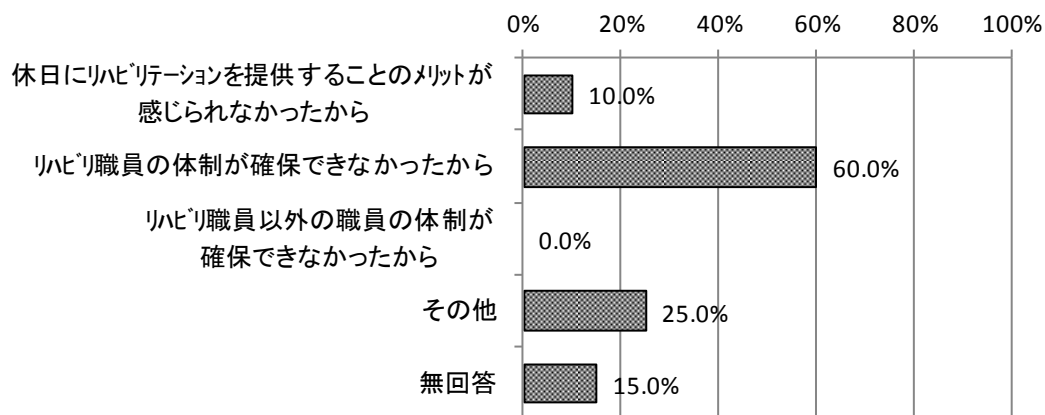
図表 30 休日リハビリテーション提供体制加算の届出の有無（n=187）



【休日リハビリテーション提供体制加算を届け出ていなかった場合】

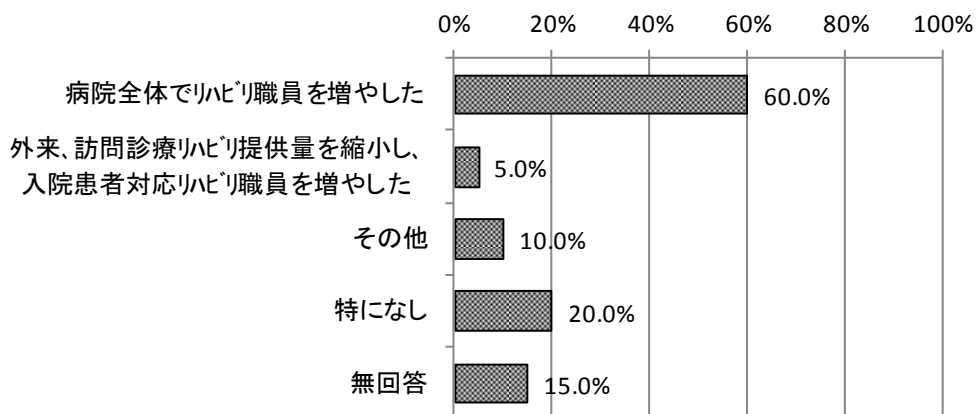
②休日リハビリテーション提供体制加算の届出をしていなかった理由

図表 31 休日リハビリテーション提供体制加算の届出をしていなかった理由（複数回答）（n=20）



③休日にもリハビリテーションを行うために行った対応

図表 32 休日にもリハビリテーションを行うために行った対応（複数回答）（n=20）

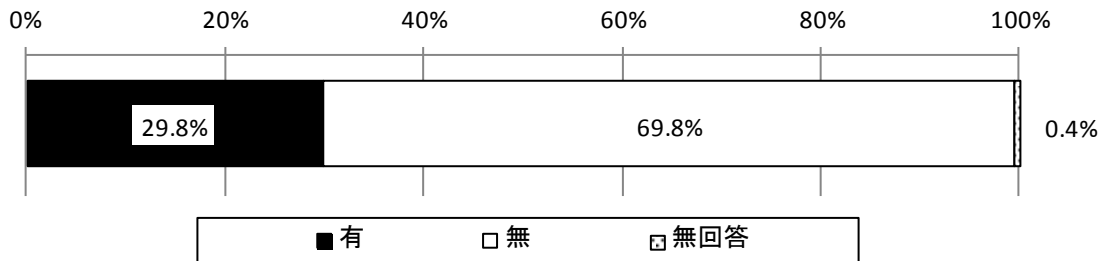


3) リハビリテーション総合計画評価料 入院時訪問指導加算について

※回復期リハビリテーション病棟を有する病院（453 施設）が回答

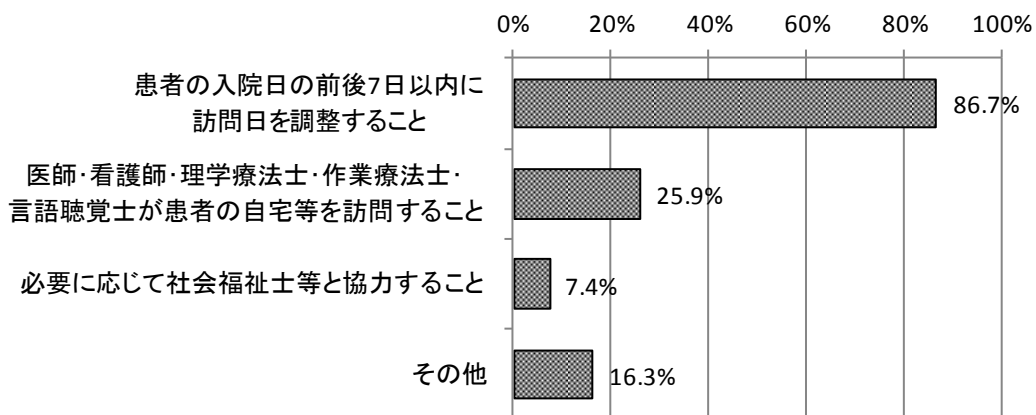
①リハビリテーション総合計画評価料 入院時訪問指導加算の算定の有無

図表 33 リハビリテーション総合計画評価料 入院時訪問指導加算の算定の有無 (n=453)

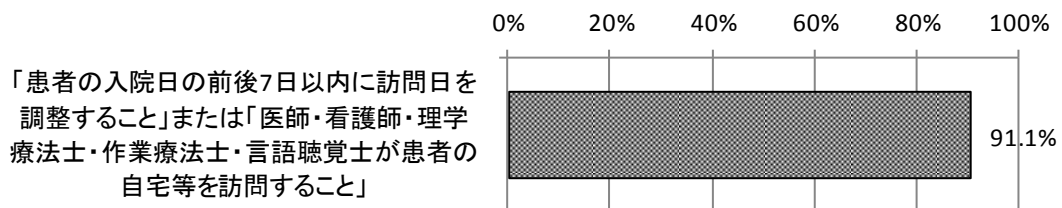


②加算を算定にするにあたり困難だった要件

図表 34 加算を算定にするにあたり困難だった要件（複数回答）(n=135)

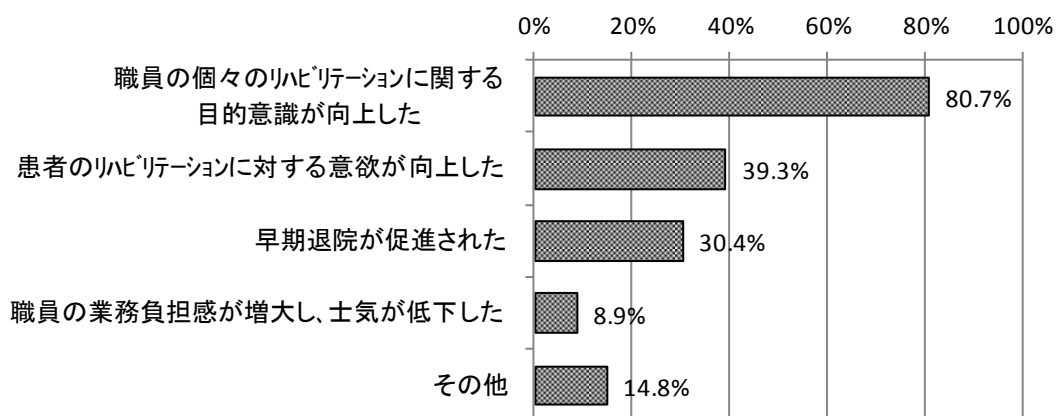


図表 34② 加算を算定にするにあたり困難だった要件（再掲）(n=135)



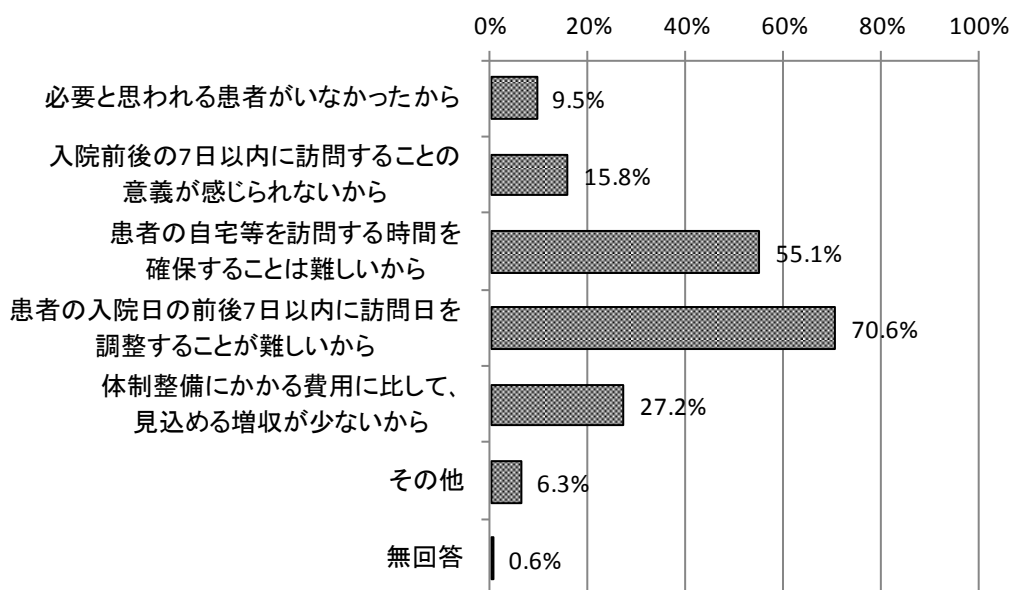
③加算の算定による影響

図表 35 加算の算定による影響（複数回答）（n=135）

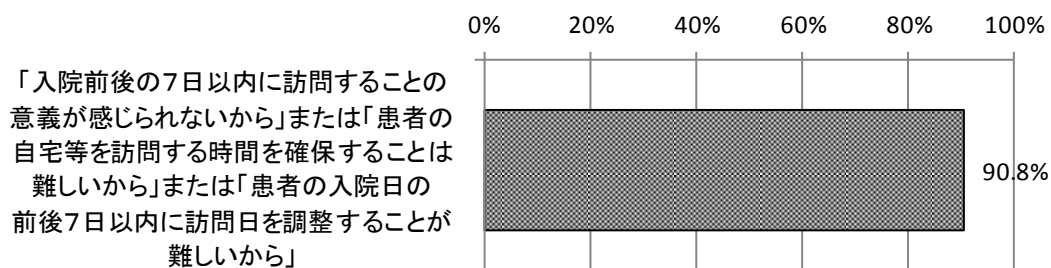


④加算を算定しなかった理由

図表 36 加算を算定しなかった理由（複数回答）（n=316）



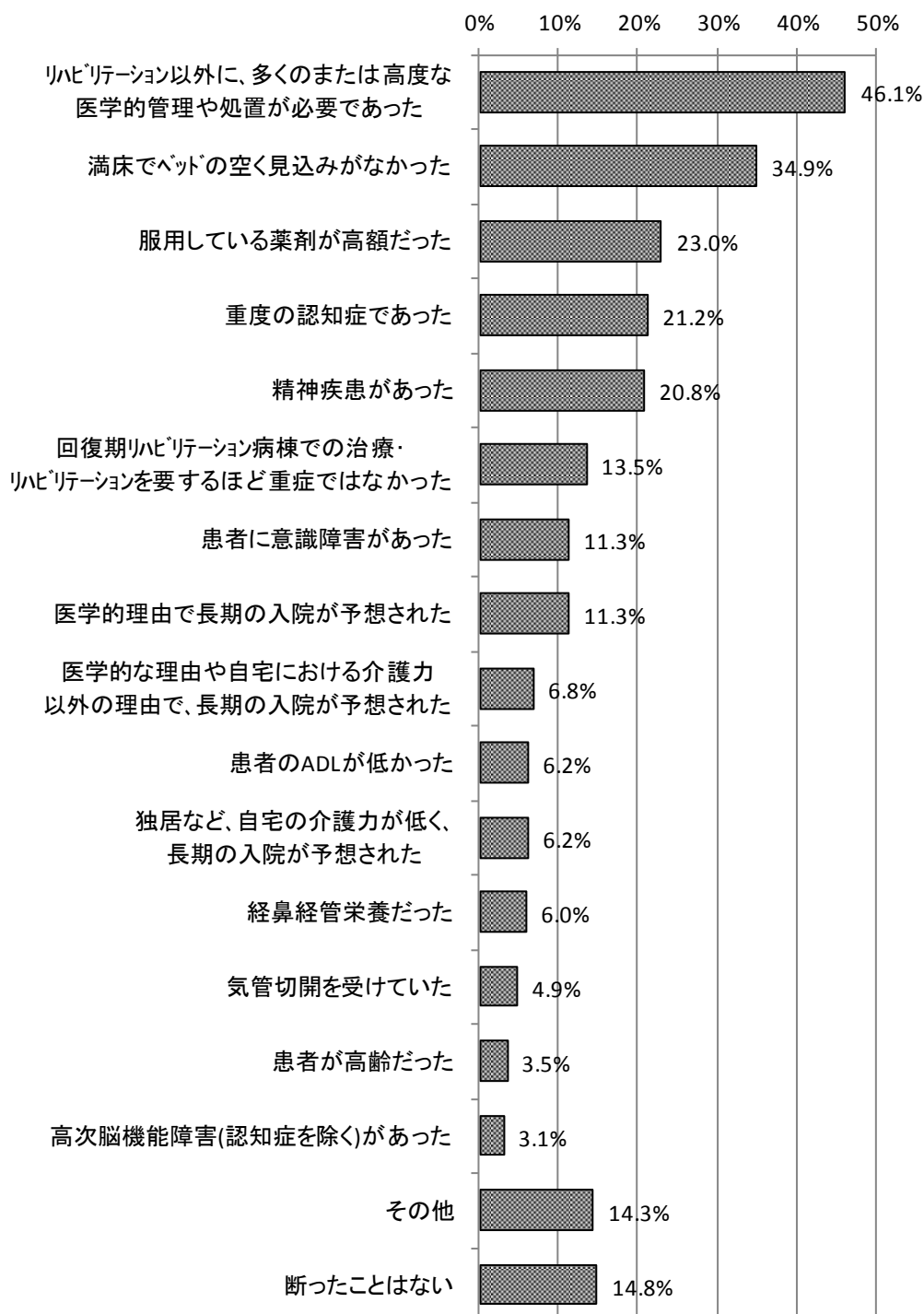
図表 36② 加算を算定しなかった理由（再掲）（n=316）



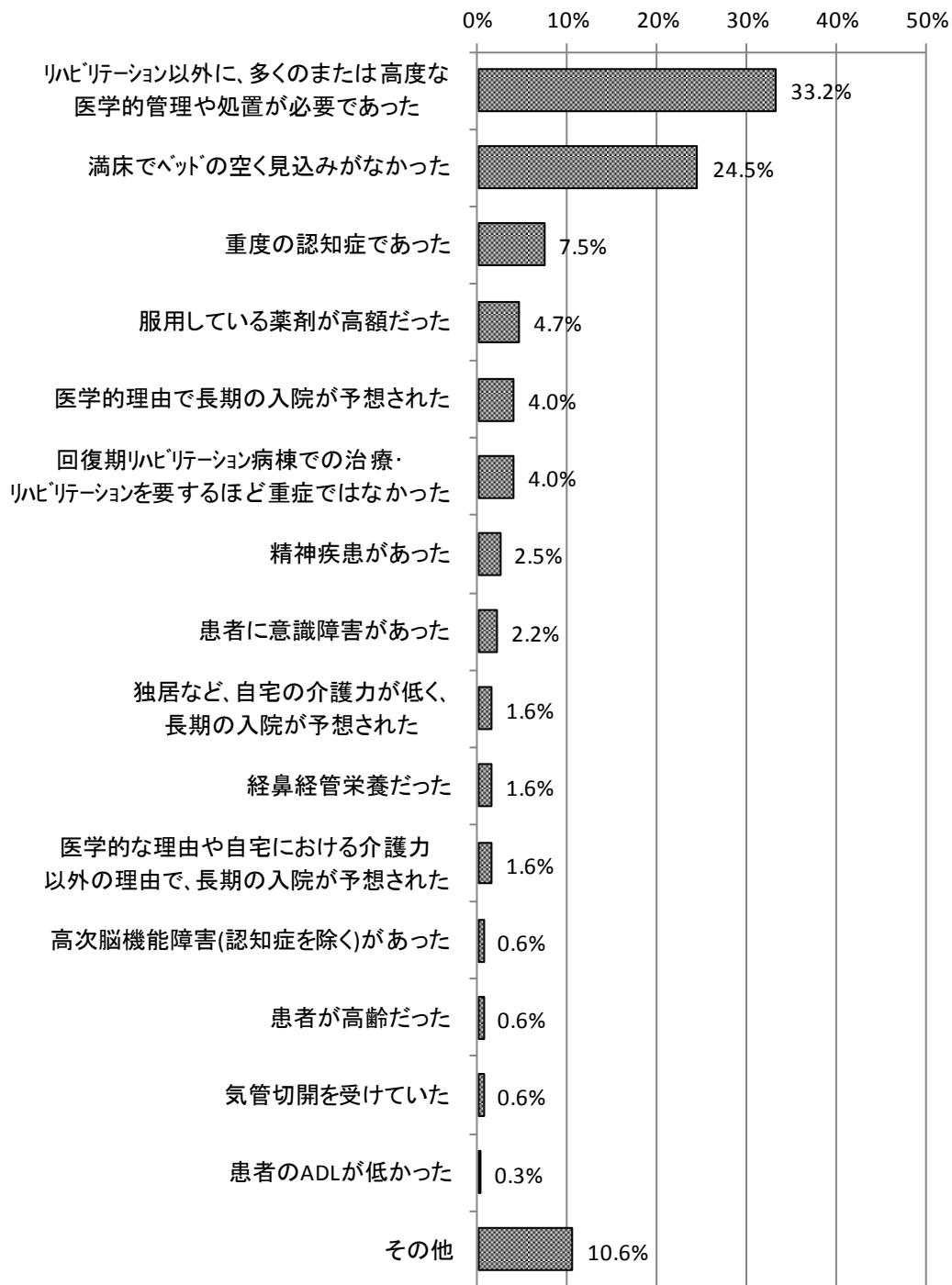
4) 患者の受入れを断った、又は受け入れられなかった理由

※回復期リハビリテーション病棟を有する病院（453 施設）が回答

図表 37 患者の受入れを断った、又は受け入れられなかった理由（複数回答）（n=453）



図表 38 患者の受入れを断った、又は受け入れられなかった理由（最もよくあった1つ）（n=322）



(4) 入院患者のリハビリテーションの実施状況（病院のみ）

1) 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）

図表 39 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）（n=517）

単位：人

	合計値	平均値	標準偏差	中央値
脳血管疾患等リハビリテーション料 （廃用症候群以外）	34,568	66.9	55.7	55.0
①うち、標準的算定日数を超えた患者	5,949	11.5	22.1	2.0
②①のうち、月13単位の算定上限の対象外となっている者	3,082	6.0	12.7	0.0
③①のうち、維持期Ⅱの患者	2,867	5.5	14.4	0.0
④③のうち、要介護被保険者等	1,565	3.0	8.7	0.0
⑤④のうち、退院後に介護保険への移行が困難と見込まれる患者	270	0.5	3.4	0.0

2) 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）

図表 40 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）（n=523）

単位：人

	合計値	平均値	標準偏差	中央値
脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）	9,599	18.4	24.9	9.0
①うち、標準的算定日数を超えた患者	645	1.2	3.3	0.0
②①のうち、月13単位の算定上限の対象外となっている者	230	0.4	1.4	0.0
③①のうち、維持期Ⅱの患者	415	0.8	2.6	0.0
④③のうち、要介護被保険者等	251	0.5	1.9	0.0
⑤④のうち、退院後に介護保険への移行が困難と見込まれる患者	32	0.1	0.6	0.0

3) 運動器リハビリテーション料

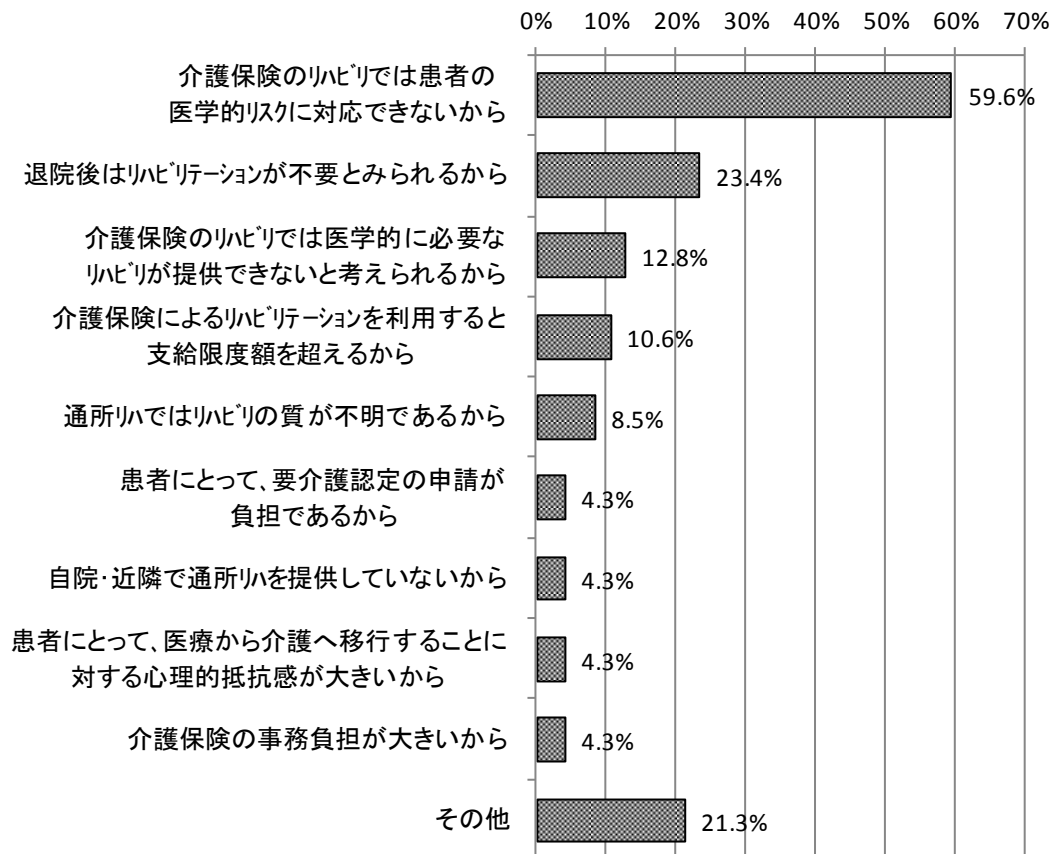
図表 41 運動器リハビリテーション料（n=526）

単位：人

	合計値	平均値	標準偏差	中央値
運動器リハビリテーション料	31,569	60.0	53.4	48.0
①うち、標準的算定日数を超えた患者	1,397	2.7	5.6	0.0
②①のうち、月13単位の算定上限の対象外となっている者	568	1.1	3.2	0.0
③①のうち、維持期Ⅱの患者	829	1.6	4.1	0.0
④③のうち、要介護被保険者等	517	1.0	3.1	0.0
⑤④のうち、退院後に介護保険への移行が困難と見込まれる患者	107	0.2	1.5	0.0

4) 維持期リハビリテーションの要介護被保険者のうち、介護保険に移行することが困難と見込まれる入院患者の理由

図表 42 維持期リハビリテーションの要介護被保険者の入院患者のうち、介護保険に移行することが困難と見込まれる患者がいる場合、その理由（複数回答）（n=47）



(5) 外来患者の「維持期リハ」の実施状況

1) 外来患者数(全診療科の合計人数)

【病院】

図表 43 外来患者数(全診療科の合計人数)【病院】(n=543)

単位：人

合計値	平均値	標準偏差	中央値
2,067,487	3,807.5	6,382.1	1,321.0

【診療所】

図表 44 外来患者数(全診療科の合計人数)【診療所】(n=190)

単位：人

合計値	平均値	標準偏差	中央値
180,914	952.2	844.9	786.0

2) 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）の外来患者数等

【病院】

図表 45 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）の外来患者数等【病院】(n=509)

単位：人

	合計値	平均値	標準偏差	中央値
脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）	20,996	41.2	72.9	16.0
①うち、標準的算定日数を超えた患者	12,956	25.5	54.7	7.0
②①のうち、月13単位の算定上限の対象外となっている者	5,884	11.6	36.1	1.0
③①のうち、維持期Ⅱの患者	7,072	13.9	36.2	2.0
④③のうち、要介護被保険者等	2,595	5.1	14.2	0.0
⑤④のうち、介護保険への移行が困難と見込まれる患者	844	1.7	5.4	0.0

【診療所】

図表 46 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）の外来患者数等【診療所】(n=70)

単位：人

	合計値	平均値	標準偏差	中央値
脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）	1,231	17.6	39.1	3.5
①うち、標準的算定日数を超えた患者	872	12.5	33.2	1.0
②①のうち、月13単位の算定上限の対象外となっている者	372	5.3	17.7	0.0
③①のうち、維持期Ⅱの患者	500	7.1	18.2	0.0
④③のうち、要介護被保険者等	303	4.3	13.6	0.0
⑤④のうち、介護保険への移行が困難と見込まれる患者	134	1.9	6.9	0.0

3) 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）の外来患者数等

【病院】

図表 47 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）の外来患者数等【病院】（n=520）

単位：人

	合計値	平均値	標準偏差	中央値
脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）	345	0.7	2.2	0.0
①うち、標準的算定日数を超えた患者	127	0.2	0.9	0.0
②①のうち、月13単位の算定上限の対象外となっている者	29	0.1	0.3	0.0
③①のうち、維持期Ⅱの患者	98	0.2	0.8	0.0
④③のうち、要介護被保険者等	51	0.1	0.5	0.0
⑤④のうち、介護保険への移行が困難と見込まれる患者	24	0.0	0.3	0.0

【診療所】

図表 48 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）の外来患者数等【診療所】（n=70）

単位：人

	合計値	平均値	標準偏差	中央値
脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）	5	0.1	0.5	0.0
①うち、標準的算定日数を超えた患者	1	0.0	0.1	0.0
②①のうち、月13単位の算定上限の対象外となっている者	0	0.0	0.0	0.0
③①のうち、維持期Ⅱの患者	1	0.0	0.1	0.0
④③のうち、要介護被保険者等	1	0.0	0.1	0.0
⑤④のうち、介護保険への移行が困難と見込まれる患者	1	0.0	0.1	0.0

4) 運動器リハビリテーション料の外来患者数等

【病院】

図表 49 運動器リハビリテーション料の外来患者数等【病院】(n=505)

単位：人

	合計値	平均値	標準偏差	中央値
運動器リハビリテーション料	32,872	65.1	102.5	28.0
①うち、標準的算定日数を超えた患者	9,994	19.8	39.4	5.0
②①のうち、月13単位の算定上限の対象外となっている者	2,344	4.6	20.3	0.0
③①のうち、維持期Ⅱの患者	7,650	15.1	33.8	2.0
④③のうち、要介護被保険者等	1,445	2.9	6.3	0.0
⑤④のうち、介護保険への移行が困難と見込まれる患者	526	1.0	3.3	0.0

【診療所】

図表 50 運動器リハビリテーション料の外来患者数等【診療所】(n=172)

単位：人

	合計値	平均値	標準偏差	中央値
運動器リハビリテーション料	25,772	149.8	190.7	87.5
①うち、標準的算定日数を超えた患者	9,178	53.4	99.8	15.5
②①のうち、月13単位の算定上限の対象外となっている者	2,494	14.5	53.6	0.0
③①のうち、維持期Ⅱの患者	6,684	38.9	79.3	4.0
④③のうち、要介護被保険者等	1,156	6.7	17.4	0.0
⑤④のうち、介護保険への移行が困難と見込まれる患者	407	2.4	6.8	0.0

5) 維持期リハの要介護被保険者のうち、標準的算定日数を超えた期間別の外来患者数
 ①脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）

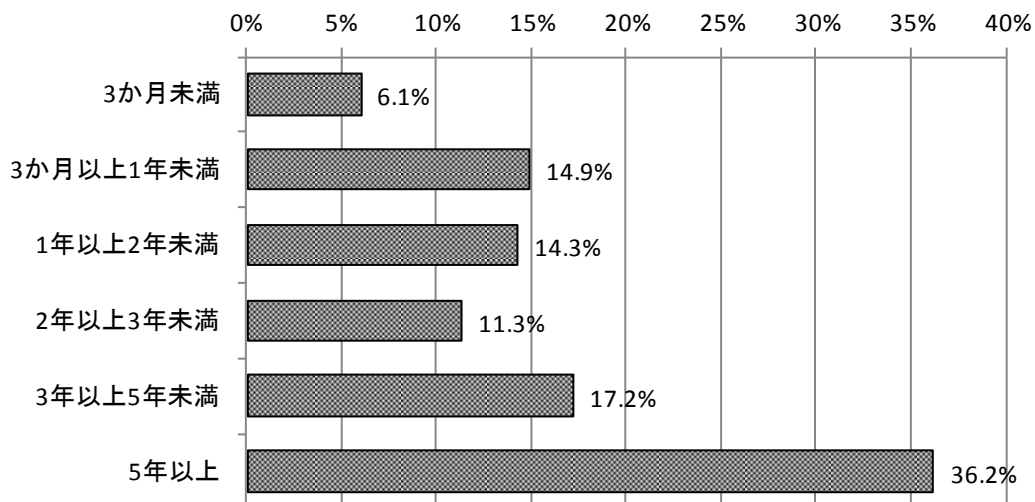
【病院】

図表 51 標準的算定日数を超えた期間別の外来患者数：
 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）【病院】（n=201）

単位：人

	合計値	平均値	標準偏差	中央値
3か月未満	148	0.7	2.2	0.0
3か月以上1年未満	364	1.8	3.0	1.0
1年以上2年未満	349	1.7	2.8	1.0
2年以上3年未満	277	1.4	2.5	0.0
3年以上5年未満	420	2.1	4.2	1.0
5年以上	883	4.4	10.7	1.0

図表 52 標準的算定日数を超えた期間別の外来患者数：
 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）【病院】（n=2,441人、201施設）



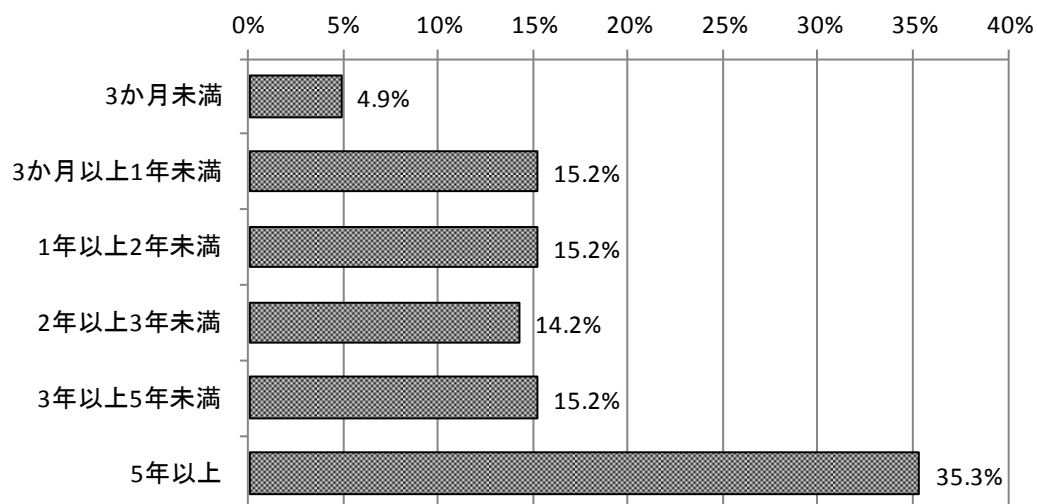
【診療所】

図表 53 標準的算定日数を超えた期間別の外来患者数：
脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）【診療所】（n=69）

単位：人

	合計値	平均値	標準偏差	中央値
3か月未満	10	0.1	0.7	0.0
3か月以上1年未満	31	0.4	1.7	0.0
1年以上2年未満	31	0.4	1.5	0.0
2年以上3年未満	29	0.4	1.4	0.0
3年以上5年未満	31	0.4	1.1	0.0
5年以上	72	1.0	2.7	0.0

図表 54 標準的算定日数を超えた期間別の外来患者数：
脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）【診療所】（n=204人、69施設）



②脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）

【病院】

図表 55 標準的算定日数を超えた期間別の外来患者数：
脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）【病院】（n=27）

単位：人

	合計値	平均値	標準偏差	中央値
3か月未満	2	0.1	0.3	0.0
3か月以上1年未満	8	0.3	0.7	0.0
1年以上2年未満	15	0.6	0.6	1.0
2年以上3年未満	8	0.3	0.6	0.0
3年以上5年未満	7	0.3	0.5	0.0
5年以上	3	0.1	0.3	0.0

【診療所】

図表 56 標準的算定日数を超えた期間別の外来患者数：
脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）【診療所】（n=70）

単位：人

	合計値	平均値	標準偏差	中央値
3か月未満	1	0.0	0.1	0.0
3か月以上1年未満	0	0.0	0.0	0.0
1年以上2年未満	0	0.0	0.0	0.0
2年以上3年未満	0	0.0	0.0	0.0
3年以上5年未満	0	0.0	0.0	0.0
5年以上	0	0.0	0.0	0.0

③運動器リハビリテーション料

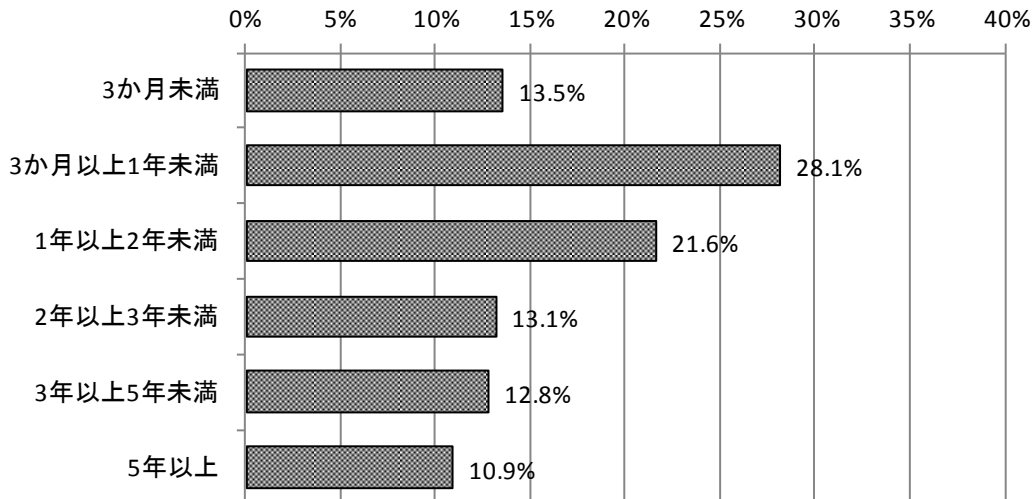
【病院】

図表 57 標準的算定日数を超えた期間別の外来患者数：
運動器リハビリテーション料【病院】(n=172)

単位：人

	合計値	平均値	標準偏差	中央値
3か月未満	180	1.0	2.2	0.0
3か月以上1年未満	374	2.2	2.8	1.0
1年以上2年未満	287	1.7	2.5	1.0
2年以上3年未満	175	1.0	1.6	0.0
3年以上5年未満	170	1.0	1.6	0.0
5年以上	145	0.8	1.5	0.0

図表 58 標準的算定日数を超えた期間別の外来患者数：
運動器リハビリテーション料【病院】(n=1,331人、172施設)



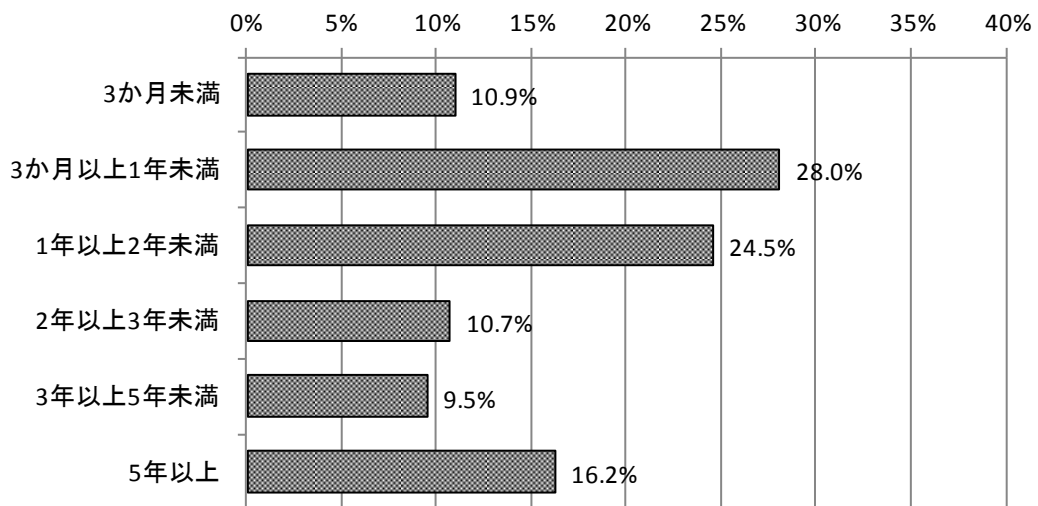
【診療所】

図表 59 標準的算定日数を超えた期間別の外来患者数：運動器リハビリテーション料【診療所】
(n=170)

単位：人

	合計値	平均値	標準偏差	中央値
3か月未満	187	1.1	5.3	0.0
3か月以上1年未満	479	2.8	16.2	0.0
1年以上2年未満	419	2.5	14.1	0.0
2年以上3年未満	183	1.1	4.4	0.0
3年以上5年未満	163	1.0	3.5	0.0
5年以上	277	1.6	7.5	0.0

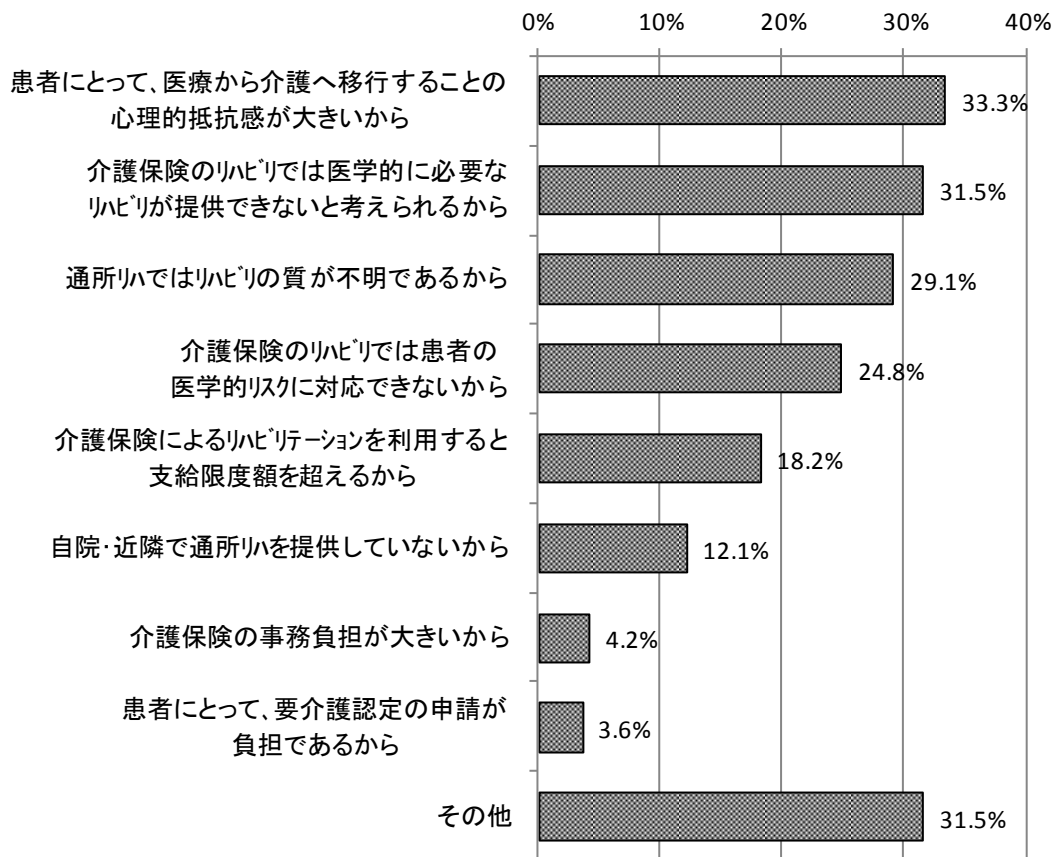
図表 60 標準的算定日数を超えた期間別の外来患者数：運動器リハビリテーション料【診療所】
(n=1,708人、170施設)



6) 維持期リハを受けている要介護被保険者等の外来患者について、介護保険のリハビリテーションへの移行が困難と見込まれる理由

【病院】

図表 61 介護保険のリハビリテーションへの移行が困難と見込まれる理由【病院：外来患者】（複数回答）（n=165）



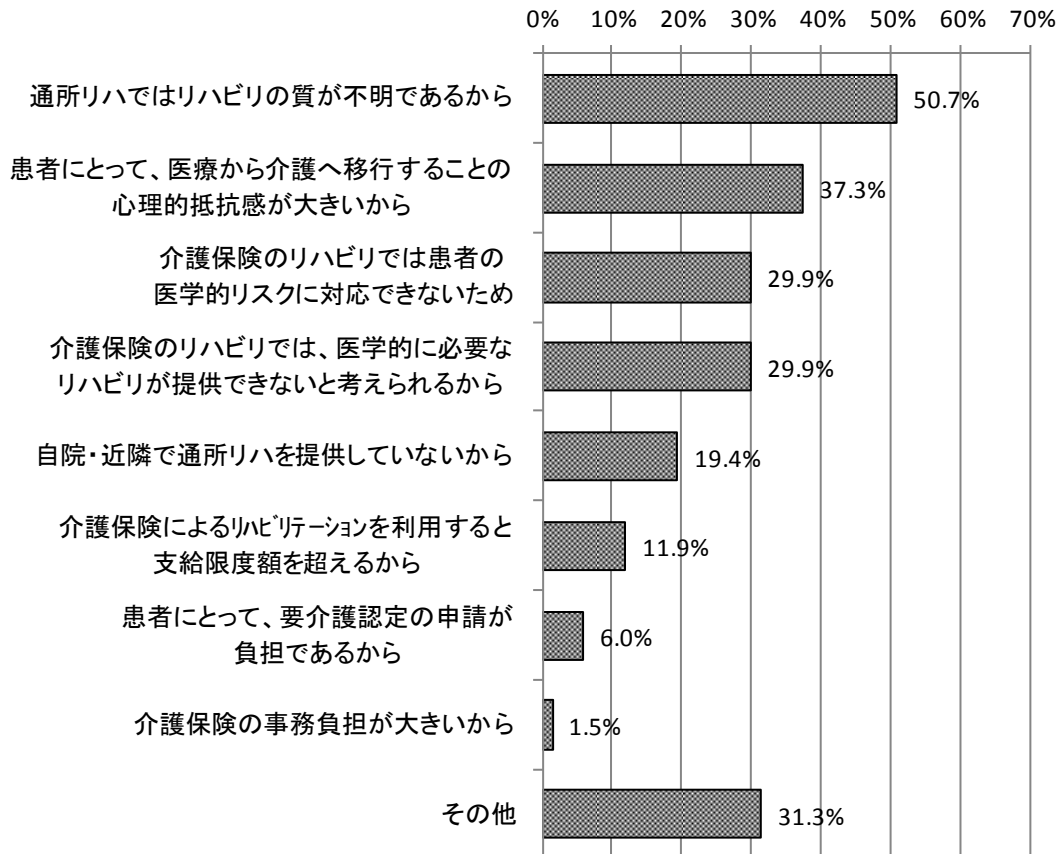
【その他の主な具体的な内容】

- ・ 体を理解してくれる慣れた療法士から変更になるのがいやだから。
- ・ 入院時対応していたセラピストが外来でも継続中
- ・ 通所リハでは患者に合った運動療法を行うことが困難であるため
- ・ 言語療法が対応できない
- ・ 近隣で個別の言語療法を提供しているデイケアがないため
- ・ 近隣の通所リハでは物療機器が設置されていない。
- ・ 機能維持、回復に資する電気治療などへの対応が困難と考えられる
- ・ 個別リハの実施頻度が少ないから。
- ・ 実際に利用してみて適応できなかった（不穏、暴言等）
- ・ 定期的に通院する必要があるため、そのついでにリハビリをしてほしいという要望がある
- ・ 医師の診察日に合わせてリハビリを提供している
- ・ 他科診察が同日にあるから

- ・人工透析とリハビリの併用
- ・小規模多機能ホーム利用のため通所リハの利用ができない。
- ・福祉医療受給者の場合、介護保険への移行が金銭的負担となることから。
- ・医療費の減免者は介護サービス利用により負担増となる場合がある
- ・介護保険での利用料負担が大きいため
- ・訪問介護に支給限度額すべてを利用しているから
- ・通所リハビリの利用時間帯が合わないため(仕事など)
- ・就労継続しており勤務不定期により介護保険サービス使用(利用)しにくい
- ・一定時間拘束されることになる為、自分の生活リズムに合わない
- ・通所リハでは滞在時間が長い
- ・自院の通所リハビリでは定員的に受け入れられない他、通院リハが少ない
- ・自院近隣で通所リハがいっぱいのため。

【診療所】

図表 62 介護保険のリハビリテーションへの移行が困難と見込まれる理由【診療所：外来患者】
(複数回答) (n=301)



【その他の主な具体的な内容】

- ・強度の難聴、認知症あり、本人に理解してもらうのが困難であり、家族もあまり協力的でないため
- ・当院でのリハを強く希望している
- ・自宅が病院に近く、一人もしくは家族の見守りで徒歩で通院可能、物療希望、病院への依存
- ・担当医が変わることに対する不安がある。
- ・デイケアの提供内容と本人の意向が違うため
- ・介護保険でデイサービスに通っているから
- ・通所系サービスによる時間的な拘束がある為
- ・介護度が低いために身体機能を維持するだけのリハ回数で実施できないため
- ・リハビリだけを受けて短時間で帰宅したい為
- ・医療機関診察時にリハビリテーションが受けられないから
- ・老老介護で夫婦で通院。配偶者が盲聾者。
- ・介護付き有料老人ホームに入居中のため、介護保険によるリハビリ提供できない。
- ・他サービス利用中（小規模など）

- ・グループホーム介護可有料老人ホームへの施設入所者であるため
- ・患者自身が自宅での訪リハサービス等を受けたがらないため
- ・金銭的負荷
- ・通所リハビリテーション施設が少ない／等

7) 医療から介護への移行への心理的抵抗感が大きい外来患者の詳細

①年齢

【病院】

図表 63 年齢【病院】(n=163)

単位：歳

平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
69.8	11.6	71.0	93	42

【診療所】

図表 64 年齢【診療所】(n=111)

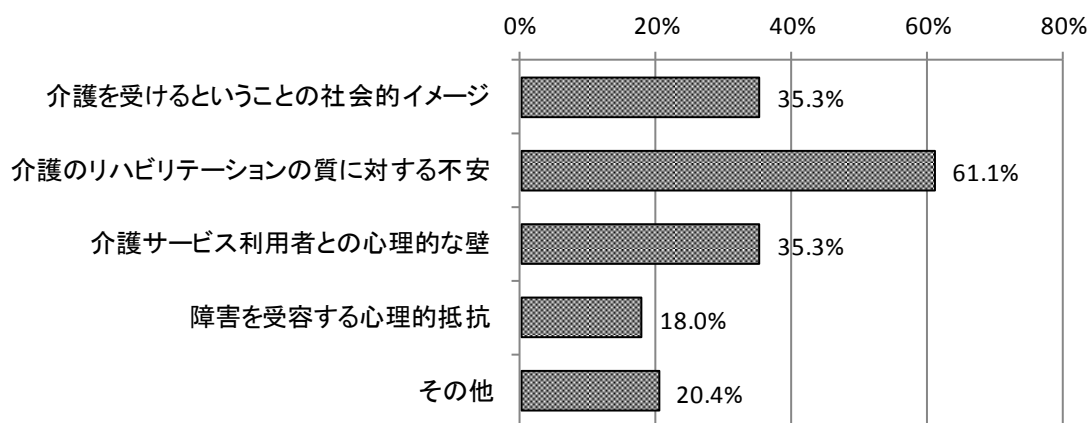
単位：歳

平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
77.3	11.2	81.0	93	40

②心理的抵抗感の詳細

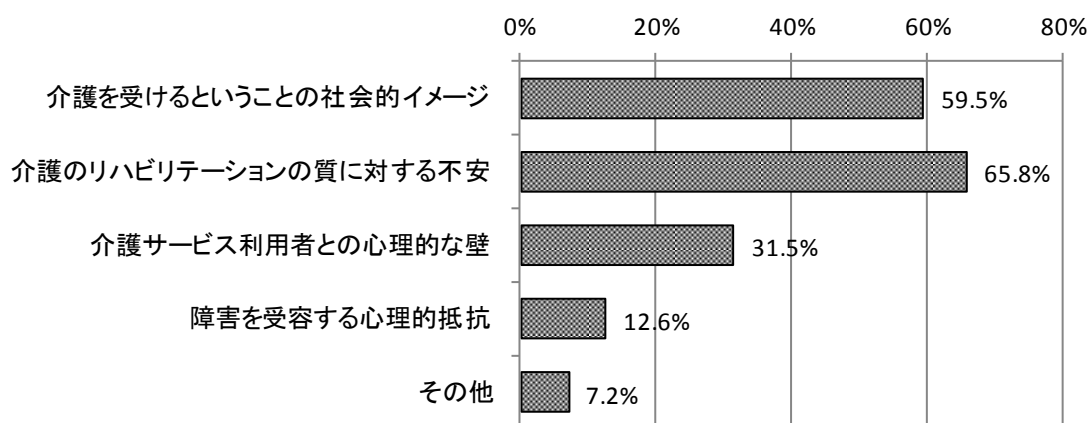
【病院】

図表 65 心理的抵抗感の詳細【病院】(複数回答)(n=167)



【診療所】

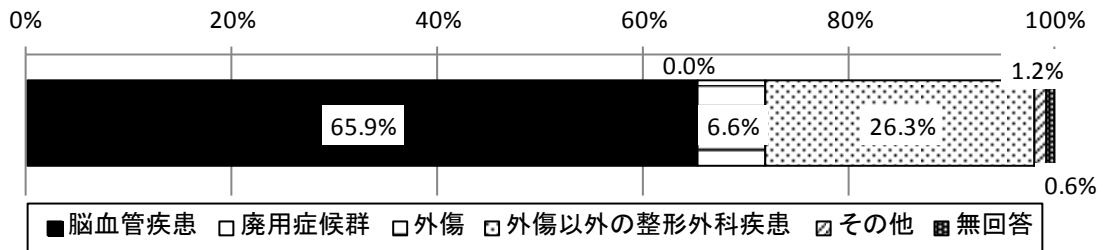
図表 66 心理的抵抗感の詳細【診療所】(複数回答)(n=111)



③主な傷病

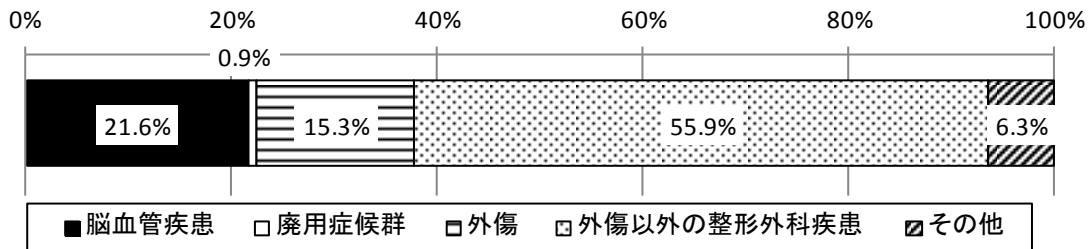
【病院】

図表 67 主な傷病【病院】(n=167)



【診療所】

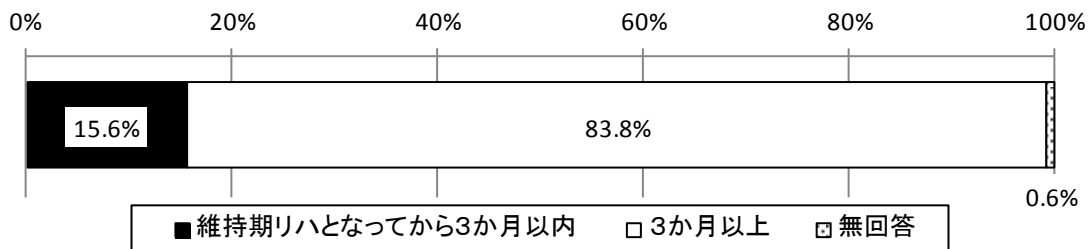
図表 68 主な傷病【診療所】(n=111)



④維持期リハになってからの期間

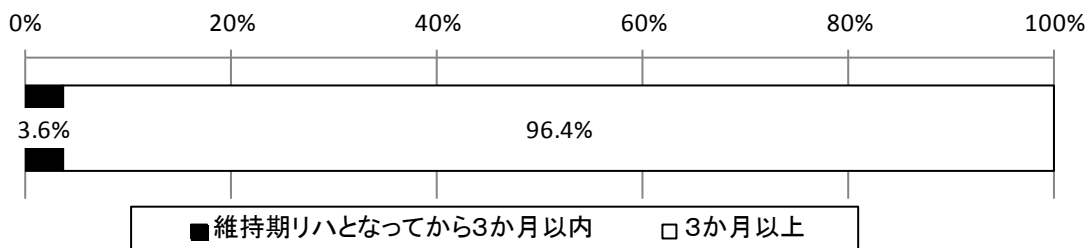
【病院】

図表 69 維持期リハになってからの期間【病院】(n=167)



【診療所】

図表 70 維持期リハになってからの期間【診療所】(n=111)



⑤ADL
【病院】

図表 71 ADL (B I) 【病院】

単位：点

	回答件数 (病院数)	平均値	標準偏差	中央値
外来リハ開始時	52	85.9	15.5	90.0
現在	56	86.0	16.4	90.0

図表 72 ADL (F I M) 【病院】

単位：点

	回答件数 (病院数)	平均値	標準偏差	中央値
外来リハ開始時	37	78.4	15.0	83.0
現在	36	82.8	13.4	86.5

【診療所】

図表 73 ADL (B I) 【診療所】

単位：点

	回答件数 (診療所数)	平均値	標準偏差	中央値
外来リハ開始時	54	84.5	16.3	90.0
現在	54	85.0	15.7	90.0

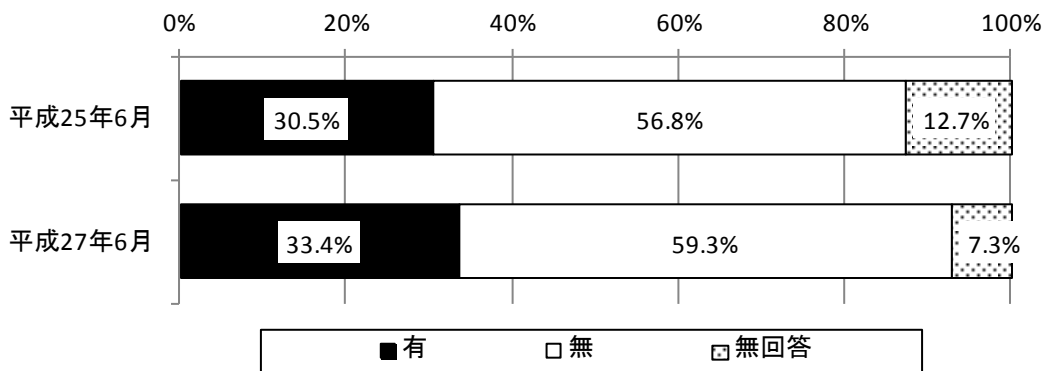
(6) 通所リハビリテーションの実施状況

1) 通所リハビリテーションの実施の有無、実施人数、利用者延べ数

①通所リハビリテーションの実施の有無

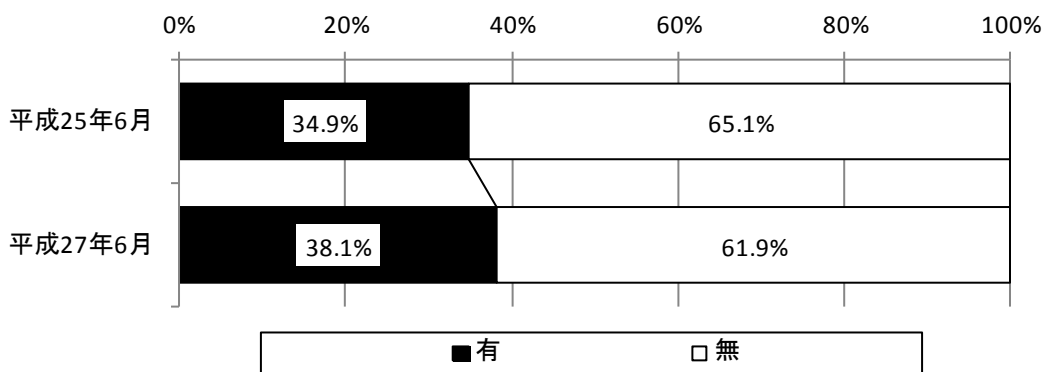
【病院】

図表 74 通所リハビリテーションの実施の有無【病院】(n=604)



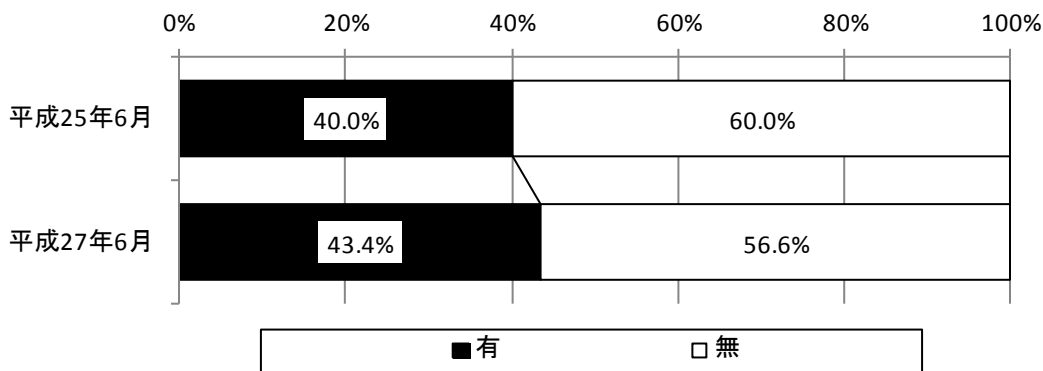
(25年、27年の両方に回答があった病院に限定して集計)

図表 75 通所リハビリテーションの実施の有無【病院】(n=527)



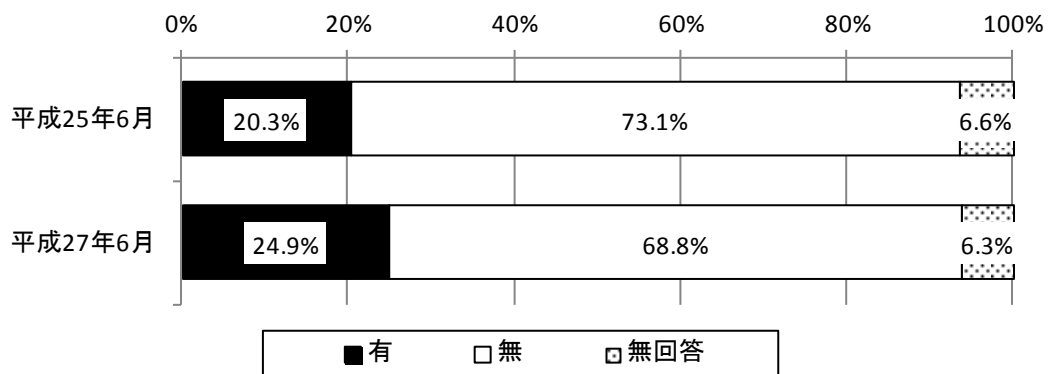
(回復期リハビリテーションを有し、25年、27年の両方に回答があった病院に限定して集計)

図表 75② 通所リハビリテーションの実施の有無【病院】(n=410)



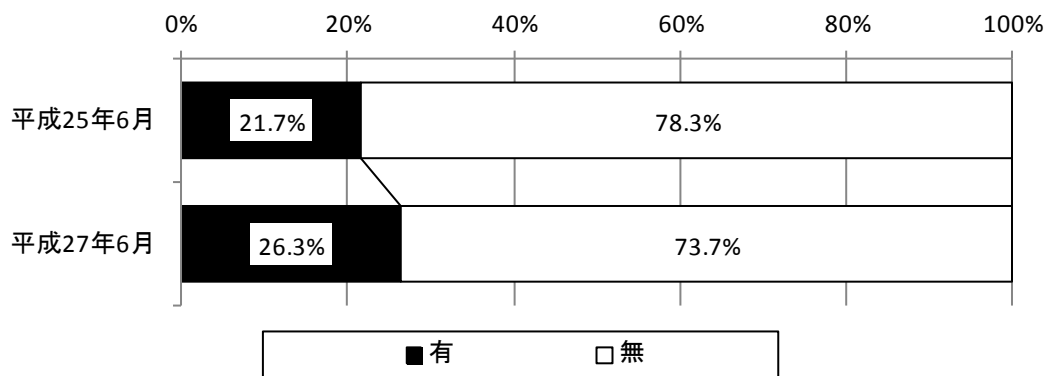
【診療所】

図表 76 通所リハビリテーションの実施の有無【診療所】(n=301)



(25年、27年の両方に回答があった診療所に限定して集計)

図表 77 通所リハビリテーションの実施の有無【診療所】(n=281)



②通所リハビリテーションの実施日数・利用者延べ数

【病院】

図表 78 通所リハビリテーションの実施日数【病院】

単位：日

	回答件数 (病院数)	平均値	標準偏差	中央値
平成 25 年 9 月	179	23.7	3.1	25.0
平成 27 年 9 月	199	24.5	3.1	26.0

図表 79 通所リハビリテーションの利用者延べ数【病院】

単位：人

	回答件数 (病院数)	平均値	標準偏差	中央値
平成 25 年 9 月	178	699.8	453.8	639.5
平成 27 年 9 月	197	751.9	510.1	664.0

【診療所】

図表 80 (実施している場合) 通所リハビリテーションの実施日数【診療所】

単位：日

	回答件数 (診療所数)	平均値	標準偏差	中央値
平成 25 年 9 月	60	22.1	4.9	25.0
平成 27 年 9 月	74	22.5	5.5	26.0

図表 81 (実施している場合) 通所リハビリテーションの利用者延べ数【診療所】

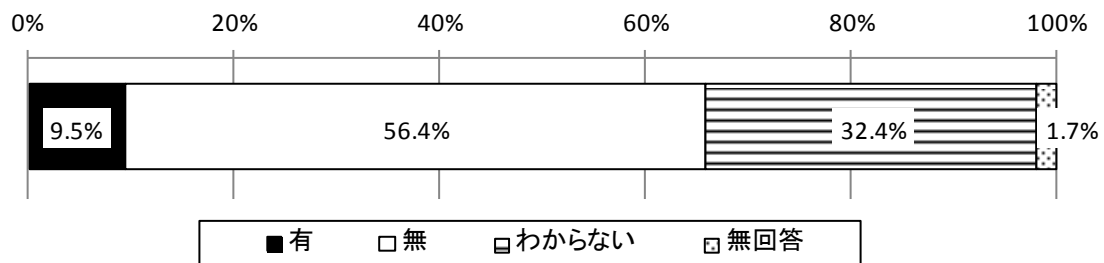
単位：人

	回答件数 (診療所数)	平均値	標準偏差	中央値
平成 25 年 9 月	59	468.2	347.7	417.0
平成 27 年 9 月	74	488.8	392.8	414.5

2) 通所リハビリテーションの開設意向

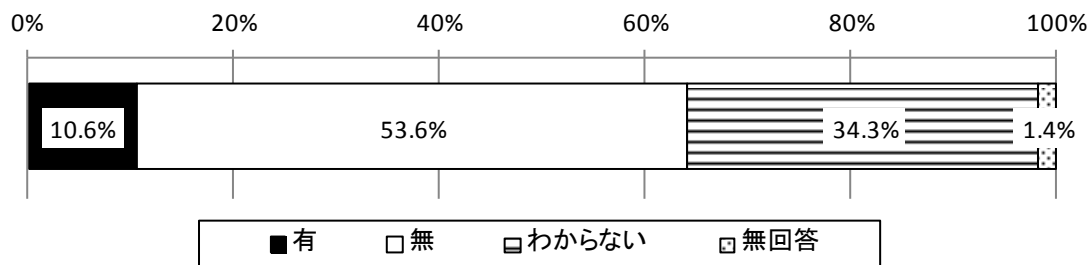
【病院】

図表 82 通所リハビリテーションの開設意向【病院】(n=358)



【診療所】

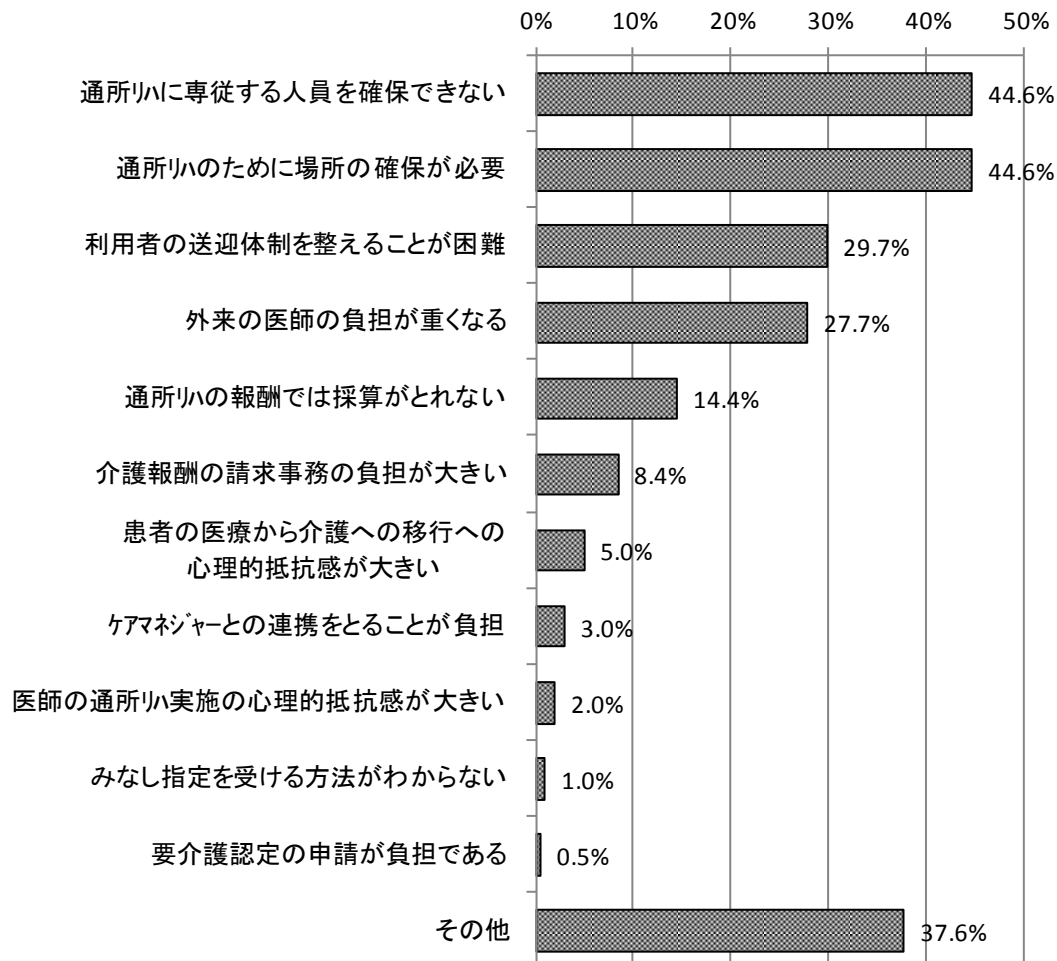
図表 83 通所リハビリテーションの開設意向【診療所】(n=207)



3) 通所リハビリテーションを開設する意向がない理由

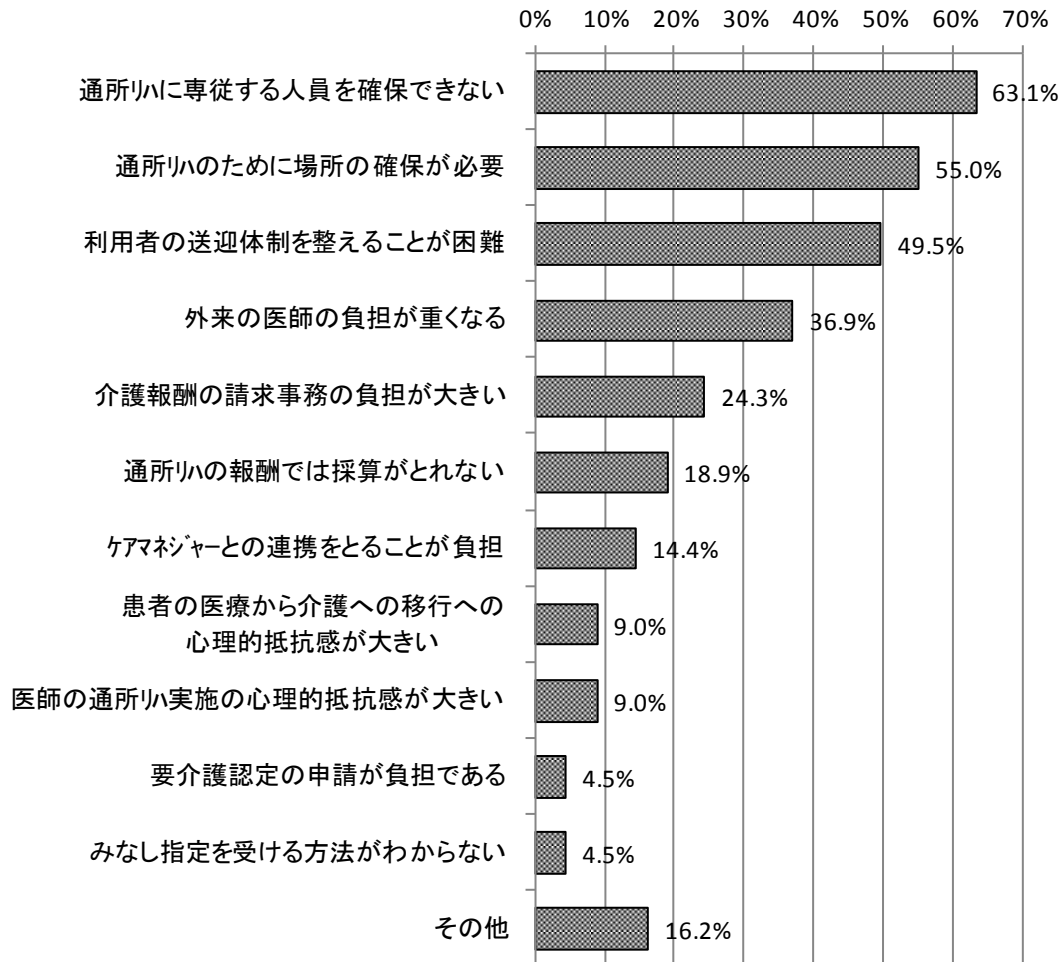
【病院】

図表 84 通所リハビリテーションを開設する意向がない理由【病院】（複数回答）（n=202）



【診療所】

図表 85 通所リハビリテーションを開設する意向がない理由【診療所】（複数回答）（n=111）

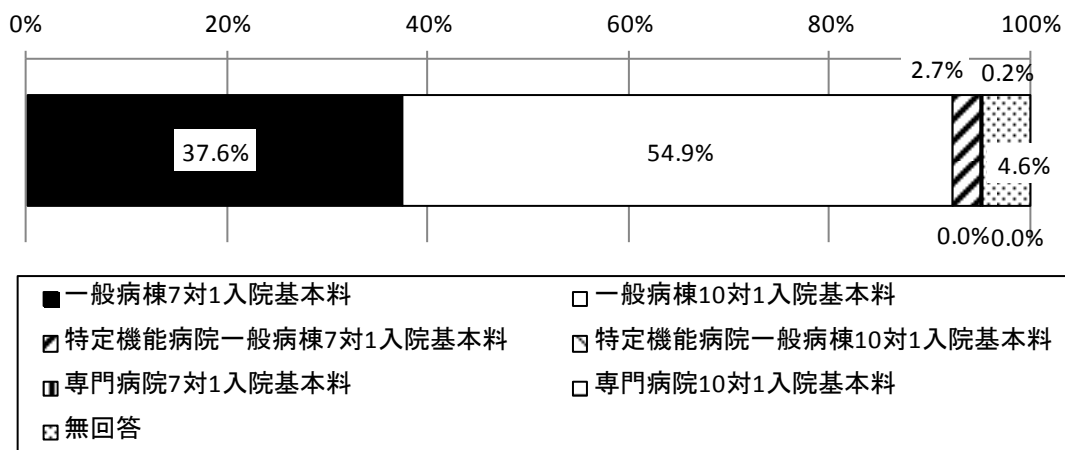


3 一般病棟調査の結果

(1) 病棟の概要

1) 算定している診療報酬

図表 86 算定している診療報酬 (n=479)



2) 病床数

図表 87 病床数 (n=388)

単位：床

平均値	標準偏差	中央値
45.2	9.9	47.0

3) 在院日数、在宅復帰率

①平均在院日数

図表 88 平均在院日数

単位：日

	件数 (回答病棟数)	平均値	標準偏差	中央値
平成 25 年 6 月	440	16.9	5.1	16.5
平成 27 年 6 月	455	15.9	4.8	15.5

②在宅復帰率

図表 89 在宅復帰率

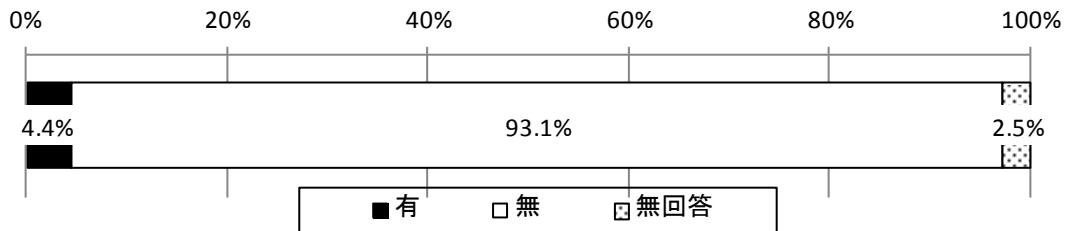
単位：%

	件数 (回答病棟数)	平均値	標準偏差	中央値
平成 25 年 6 月	250	83.9	14.9	87.0
平成 27 年 6 月	354	85.3	14.0	89.5

(2) ADL 維持向上等体制加算

1) ADL 維持向上等体制加算届出の有無

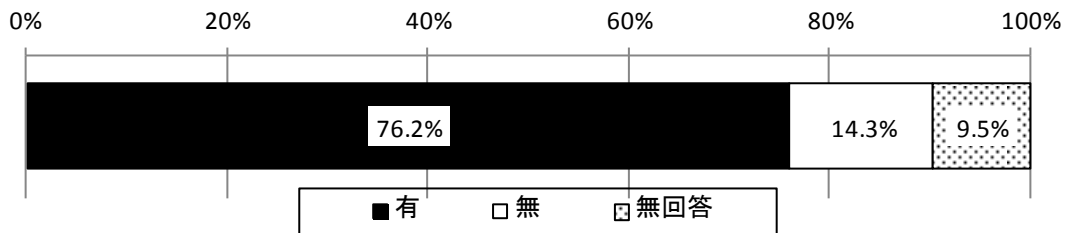
図表 90 ADL 維持向上等体制加算の届出の有無 (n=479)



【届出有の場合】

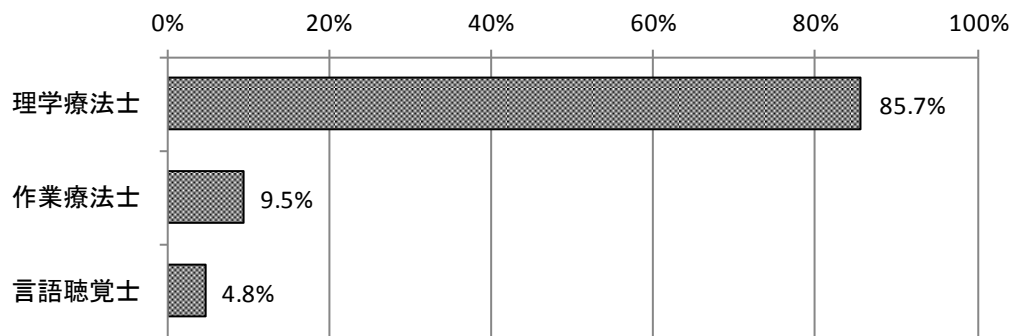
①届出による意識の変化の有無

図表 91 届出による意識の変化の有無 (n=21)



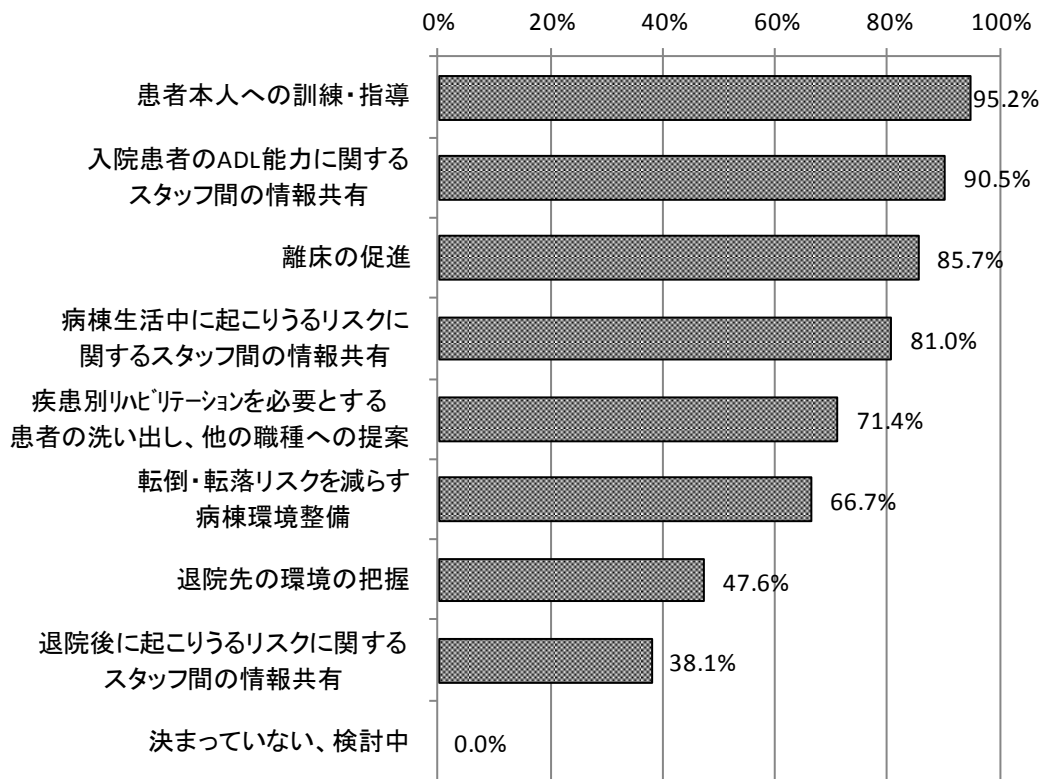
②常勤専従で配置している職種

図表 92 常勤専従で配置している職種 (複数回答) (n=21)



③常勤専従で配置された職員が行っている業務

図表 93 常勤専従で配置された職員が行っている業務（複数回答）（n=21）



(3) 在棟患者の状況

1) 在棟患者数

図表 94 在棟患者数

単位：人

	回答件数 (病棟数)	合計	平均値	標準偏差	中央値
在棟患者数	397	14,041	35.4	10.3	36.0
各種リハビリテーション無の患者数	375	4,931	13.1	10.2	11.0
(再掲：回復期リハ病床を有する病院の場合)					
在棟患者数	257	8,959	34.9	10.6	36.0
各種リハビリテーション無の患者数	244	2,696	11.0	8.8	9.0
(再掲：回復期リハ病床を有しない病院の場合)					
在棟患者数	133	4,867	36.6	9.7	38.0
各種リハビリテーション無の患者数	124	2,149	17.3	11.1	16.5

※各種リハビリテーション：「疾患別リハビリテーション」「摂食機能療法」、「難病患者リハビリテーション」、「障害児（者）リハビリテーション」、「がん患者リハビリテーション」、「認知症患者リハビリテーション」

2) 各種リハビリテーションが提供されない理由および重症度、医療・看護必要度の「患者の状態等」(B得点)

図表 95 リハビリテーションが提供されない理由・B得点 (n=4,391人、346病棟)

単位：(上段)人

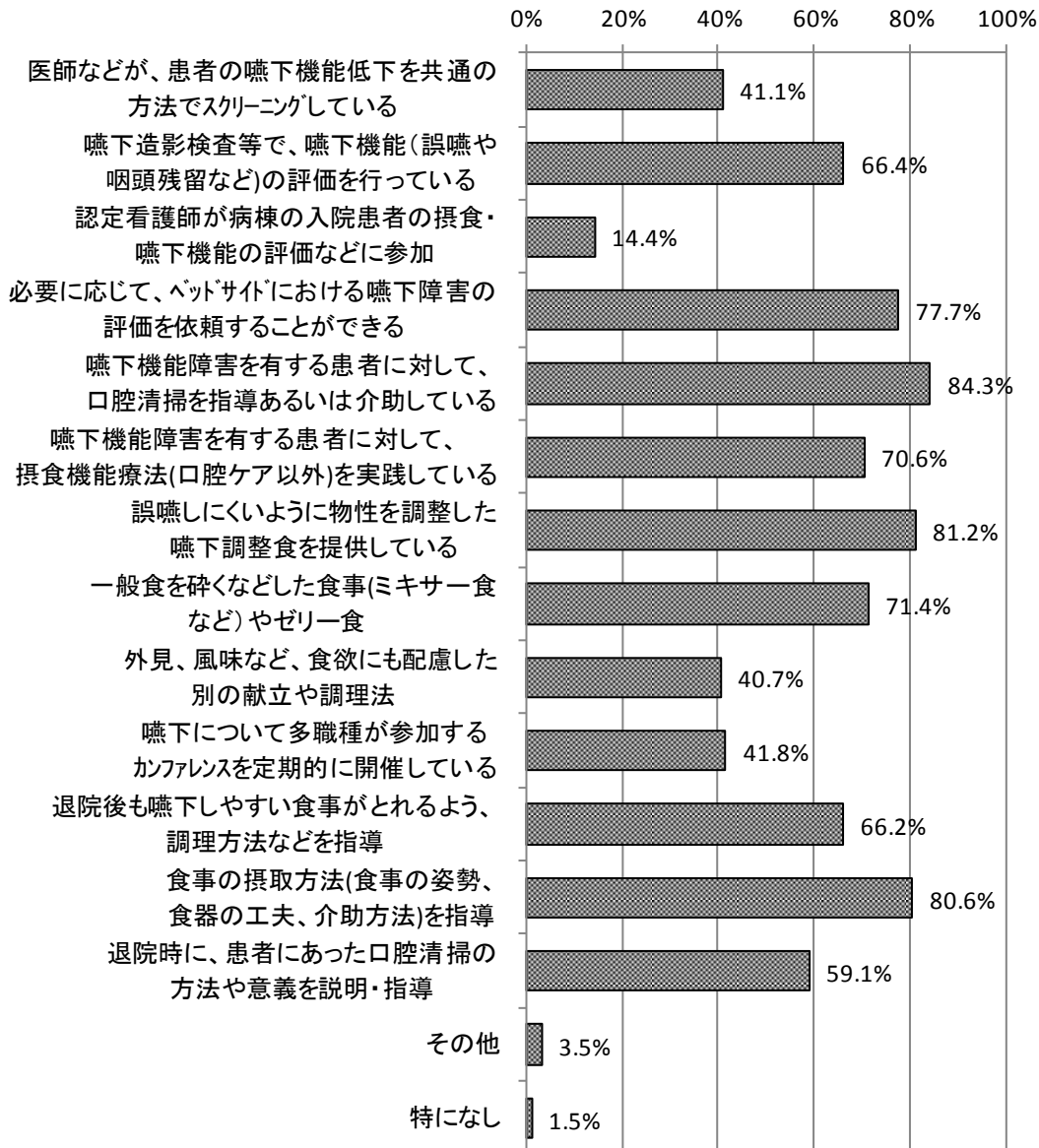
(下段) %

	0 点	1 点	2 点	3 点	4 点	5 点	6 点	7 点	8 点	9 点	10 点	11 点	12 点	不 明	小 計
届け出ているリハビリテーション料の対象ではない	414	664	163	111	102	81	89	111	102	152	95	80	70	-	2,234
	9.4	15.1	3.7	2.5	2.3	1.8	2.0	2.5	2.3	3.5	2.2	1.8	1.6	-	50.9
医学的理由でリハビリテーションを実施することが不相当である	173	200	70	87	56	61	84	99	127	116	144	80	113	-	1,410
	3.9	4.6	1.6	2.0	1.3	1.4	1.9	2.3	2.9	2.6	3.3	1.8	2.6	-	32.1
家族・本人の希望でリハビリテーションが実施できない	2	9	1	5	1	5	1	3	2	0	4	2	4	-	39
	0.0	0.2	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	-	0.9
その他	97	76	14	10	4	10	4	7	8	13	10	10	9	-	272
	2.2	1.7	0.3	0.2	0.1	0.2	0.1	0.2	0.2	0.3	0.2	0.2	0.2	-	6.1
不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	436	436
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9.9	9.9

(4) 患者の嚥下機能の維持、向上等

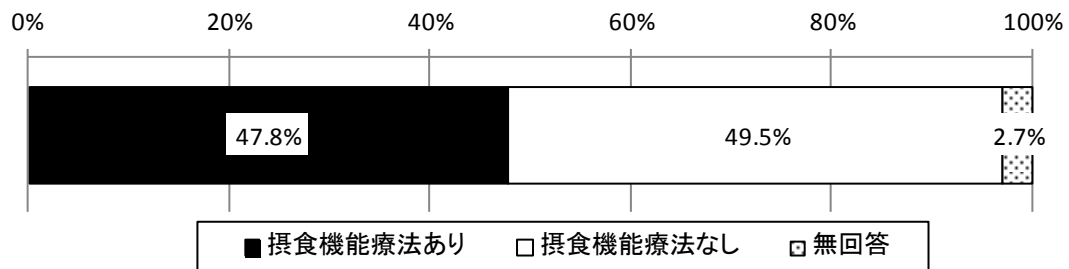
1) 嚥下機能の維持、向上に係る取組

図表 96 嚥下機能の維持、向上に係る取組（複数回答）（n=479）



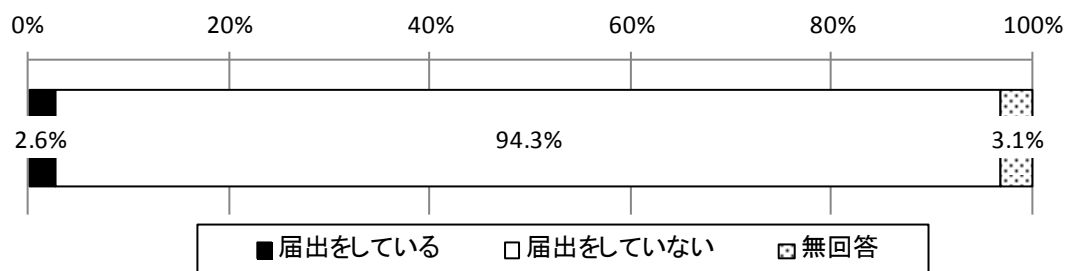
2) 摂食機能療法の届出の有無

図表 97 摂食機能療法の届出の有無 (n=479)



3) 経口摂取回復促進加算の届出の有無

図表 98 (摂食機能療法の届出有の場合) 経口摂取回復促進加算の届出の有無 (n=229)

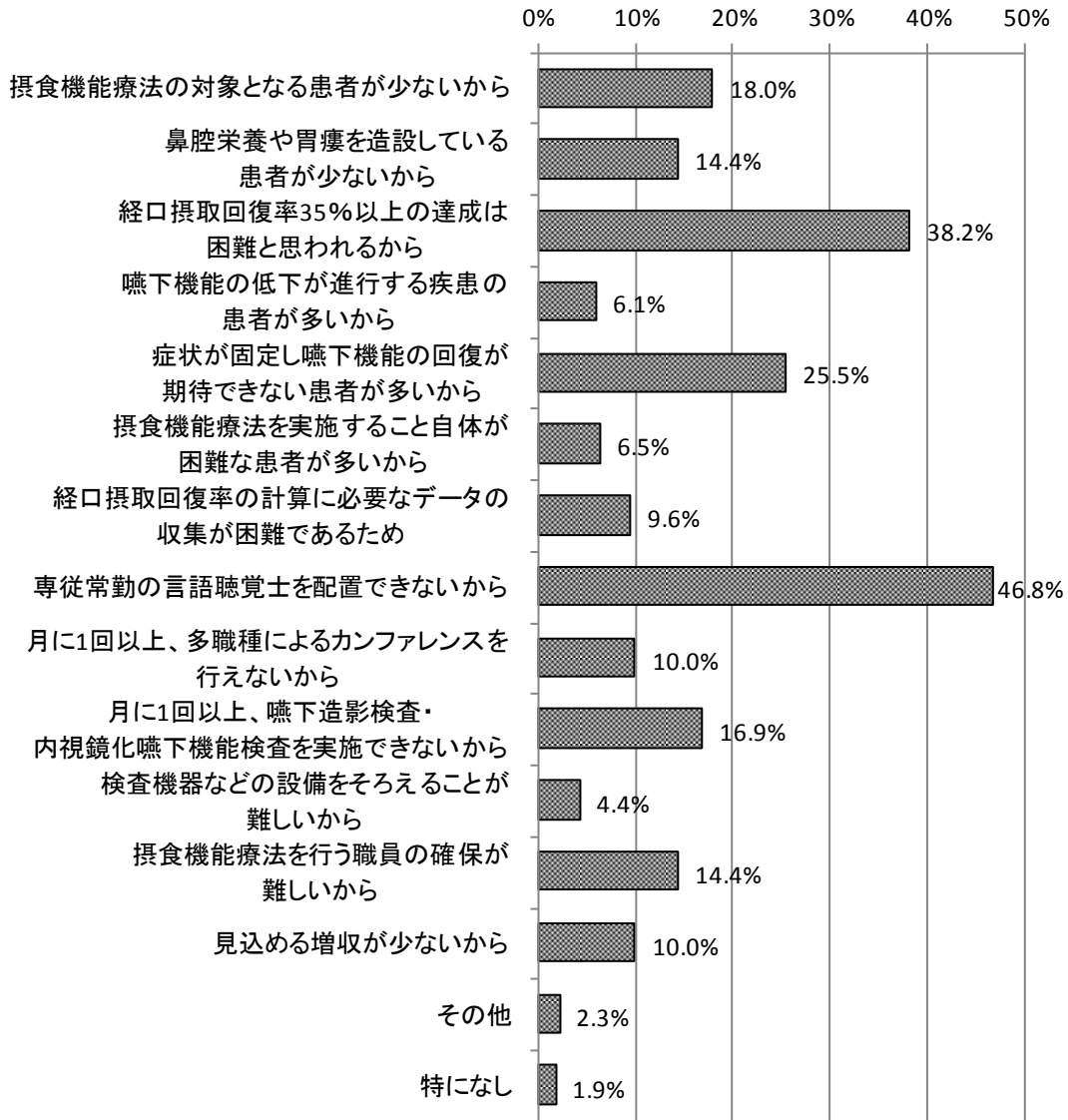


【届出をしていない場合】

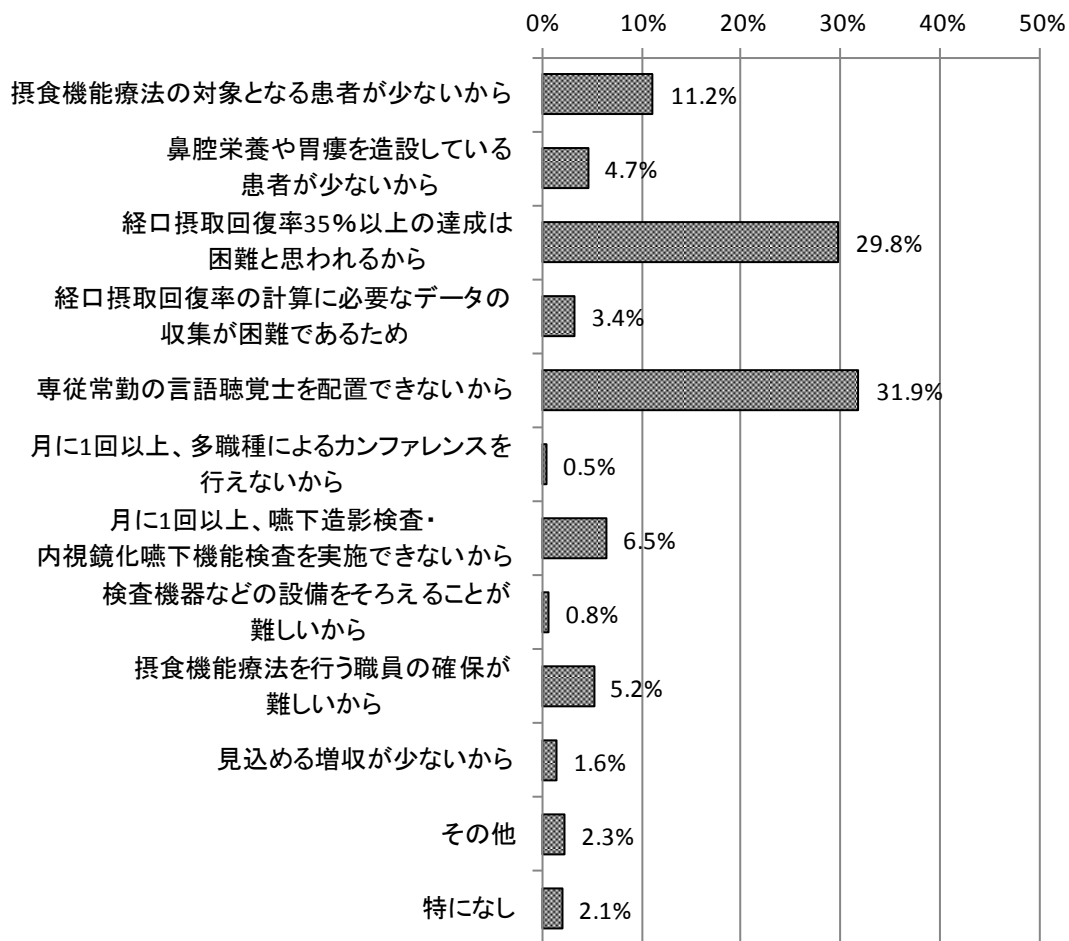
4) 届出をしていない理由

図表 99 届出をしていない理由（複数回答）（n=444）

（摂食機能療法の届出がない施設の回答も含む）



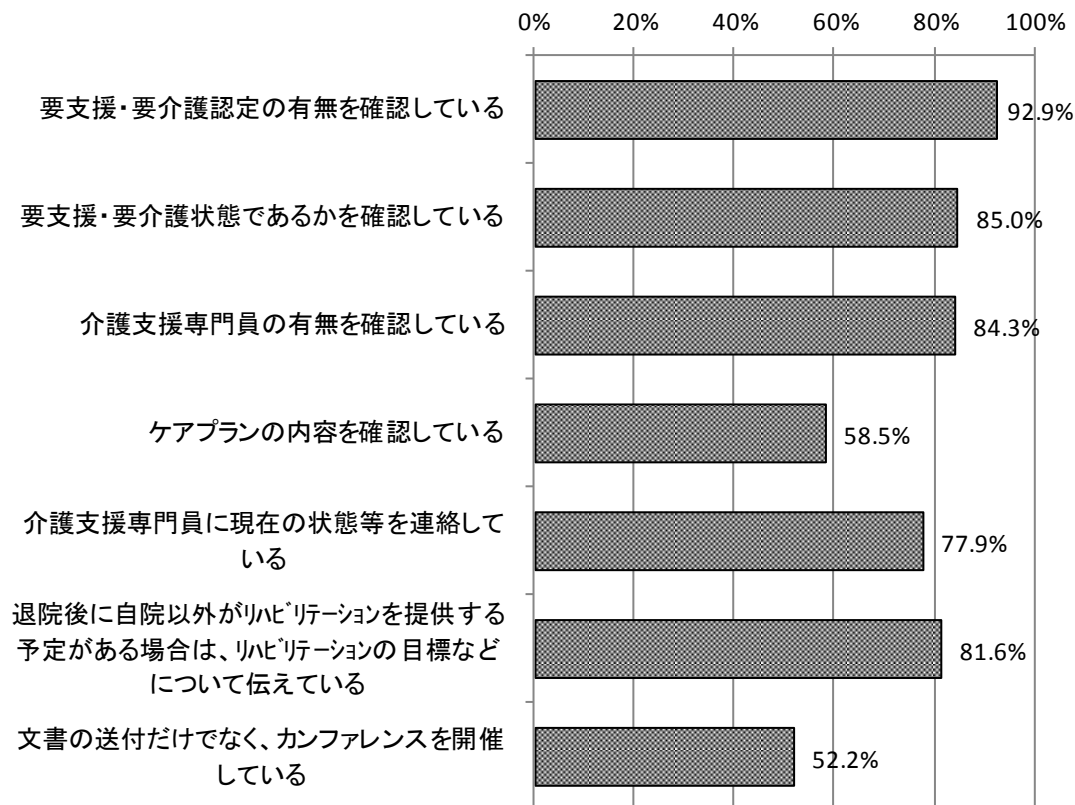
図表 100 届出をしていない最大の理由 (n=383)



(5) 患者への予後等の説明や退院時の説明

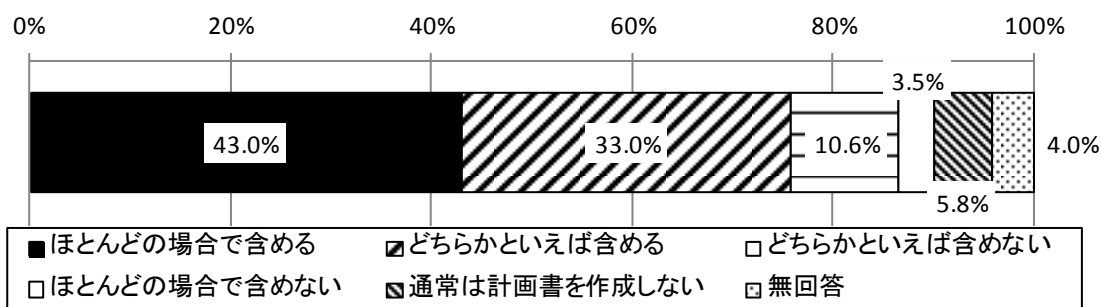
1) 退院予定患者について、行っている取り組み

図表 101 退院予定患者について、行っている取り組み（複数回答）（n=479）



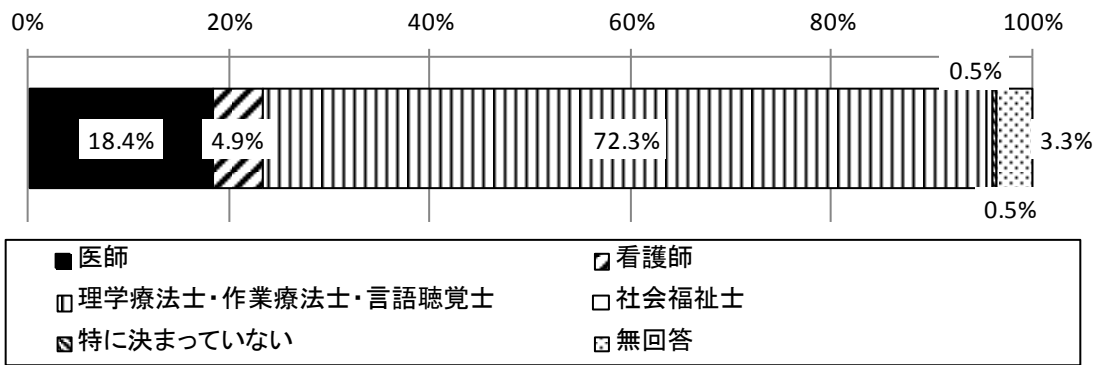
2) 身体機能や ADL の予後の見通しを説明に含めるか

図表 102 身体機能や ADL の予後の見通しを説明に含めるか（n=479）

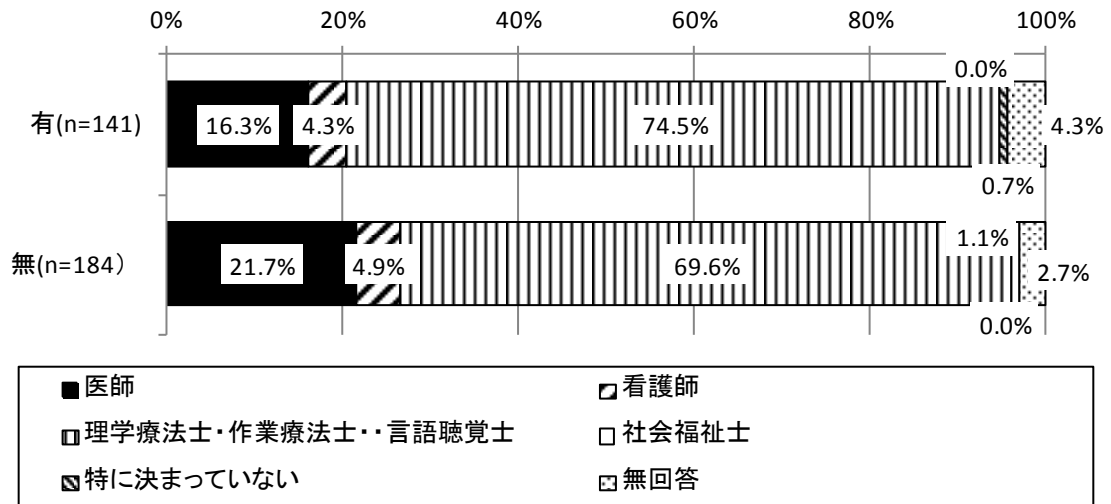


3) 誰が説明を行うか

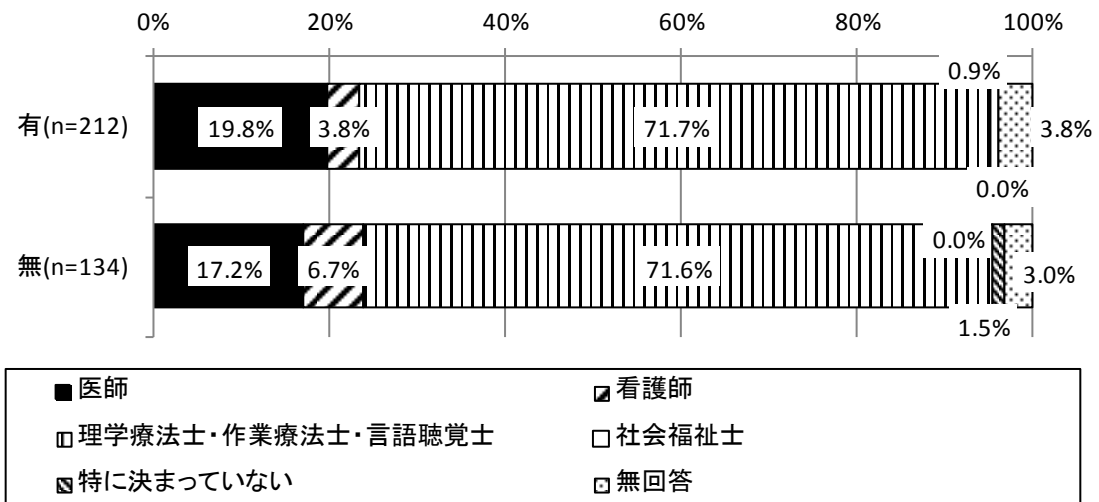
図表 103 誰が説明を行うか (n=364)



図表 104 病院のリハビリテーション科専門医の有無別 誰が説明を行うか

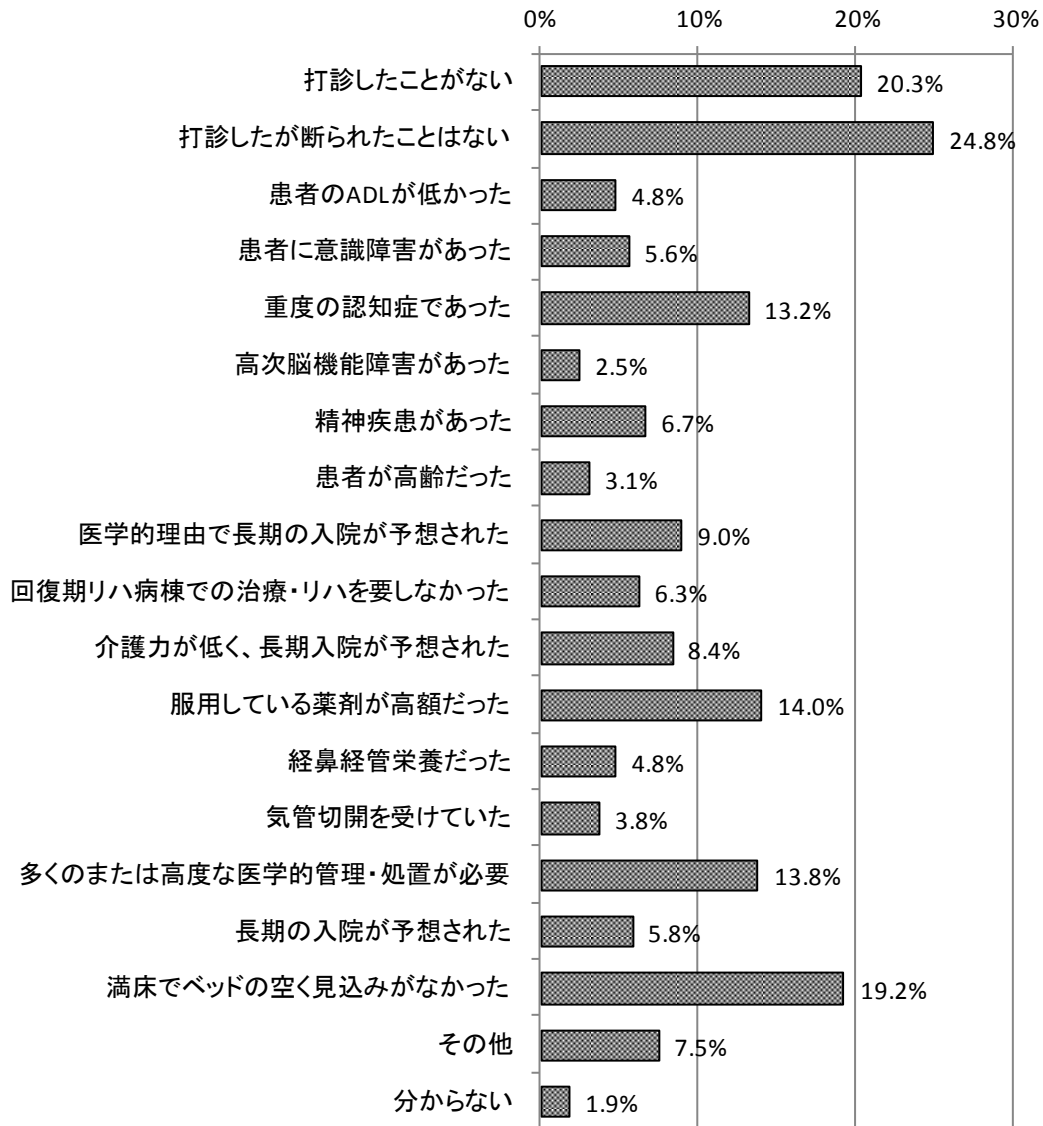


図表 105 病院機能評価の認定の有無別 誰が説明を行うか

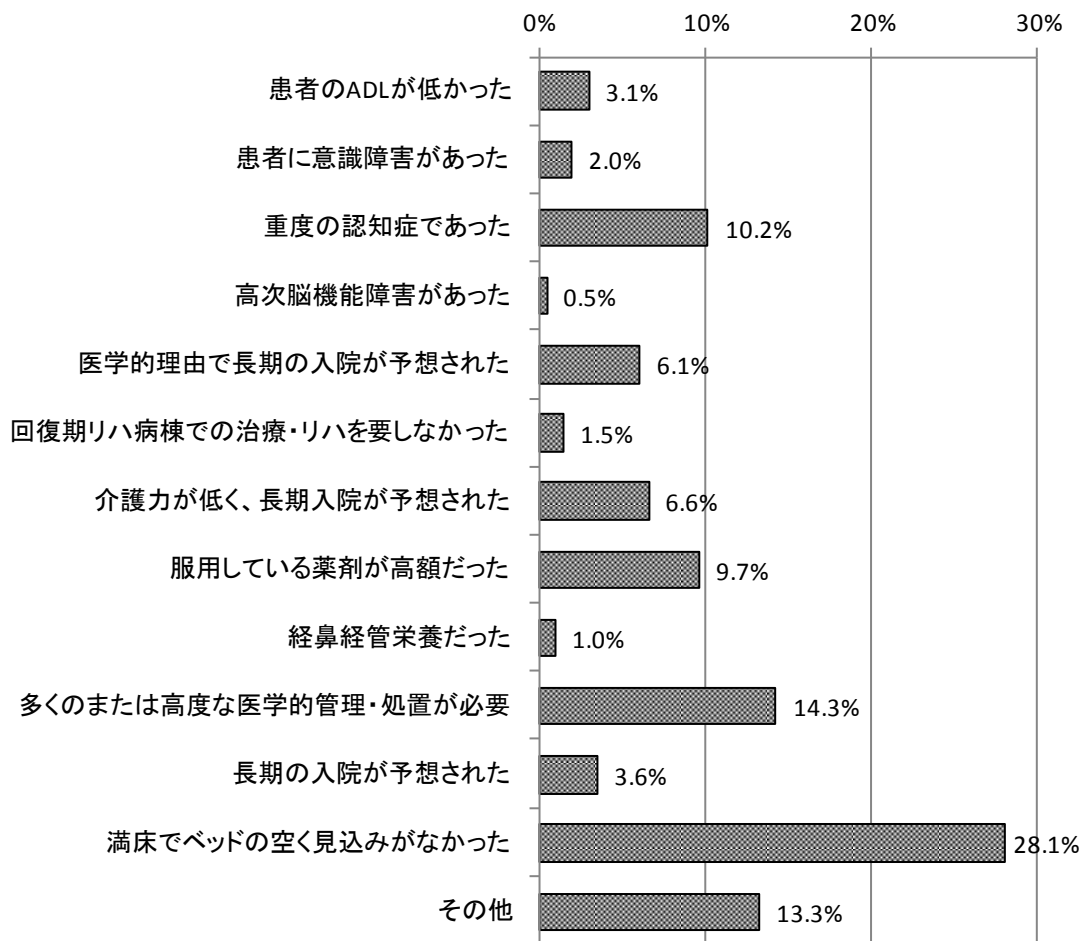


4) 回復期リハビリテーション病棟に転院受け入れを断られた理由

図表 106 回復期リハビリテーション病棟に転院受け入れを断られた理由（複数回答）（n=479）

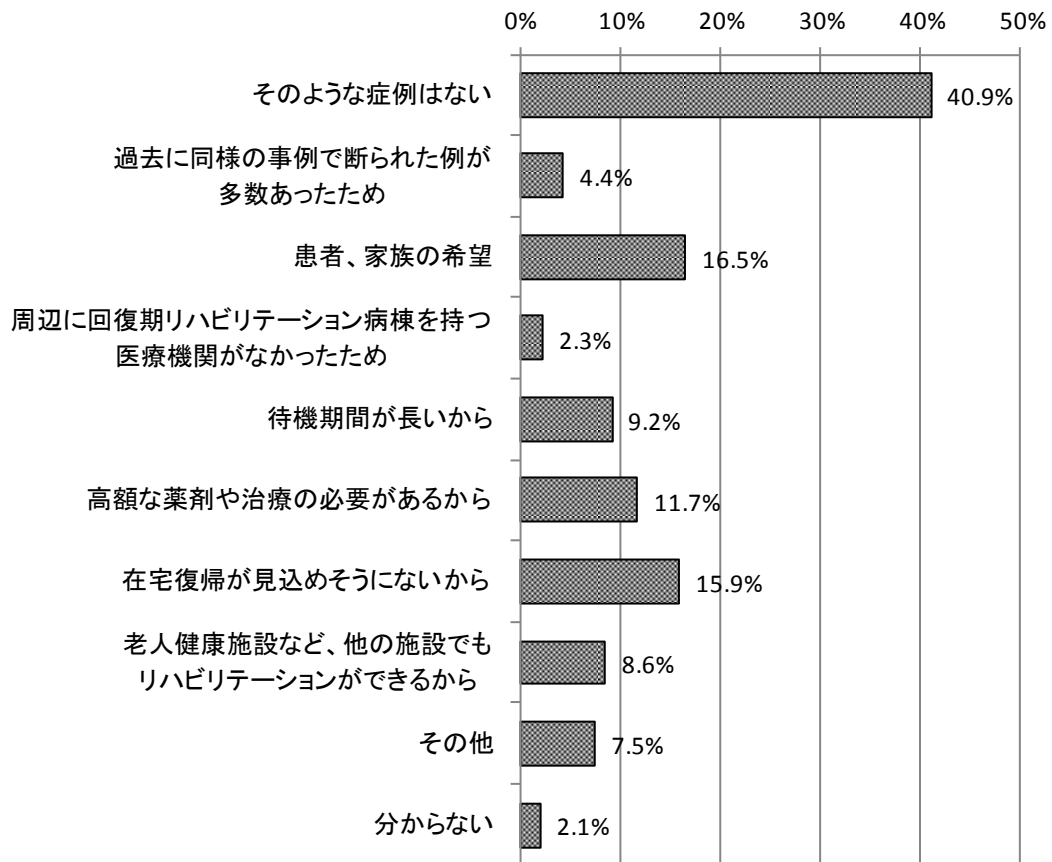


図表 107 回復期リハビリテーション病棟に転院受け入れを断られた理由
 (断られたことがあった場合) 最もよくあった理由 (n=196)

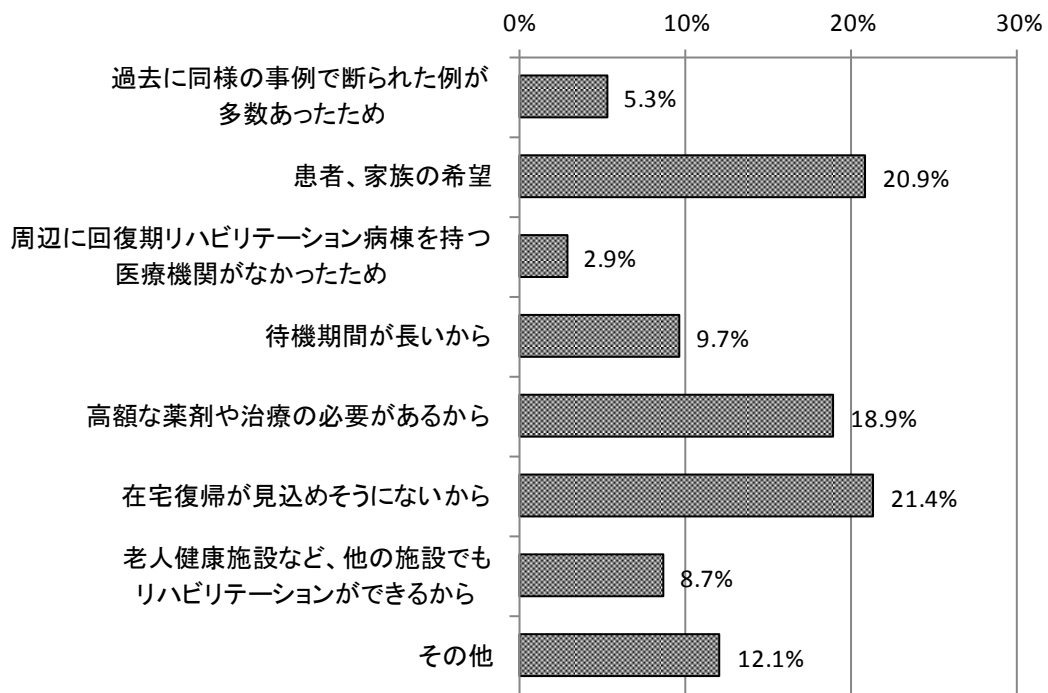


5) 回復期リハビリテーション病棟への転院を紹介しなかった理由

図表 108 回復期リハビリテーション病棟への転院を紹介しなかった理由（複数回答）（n=479）

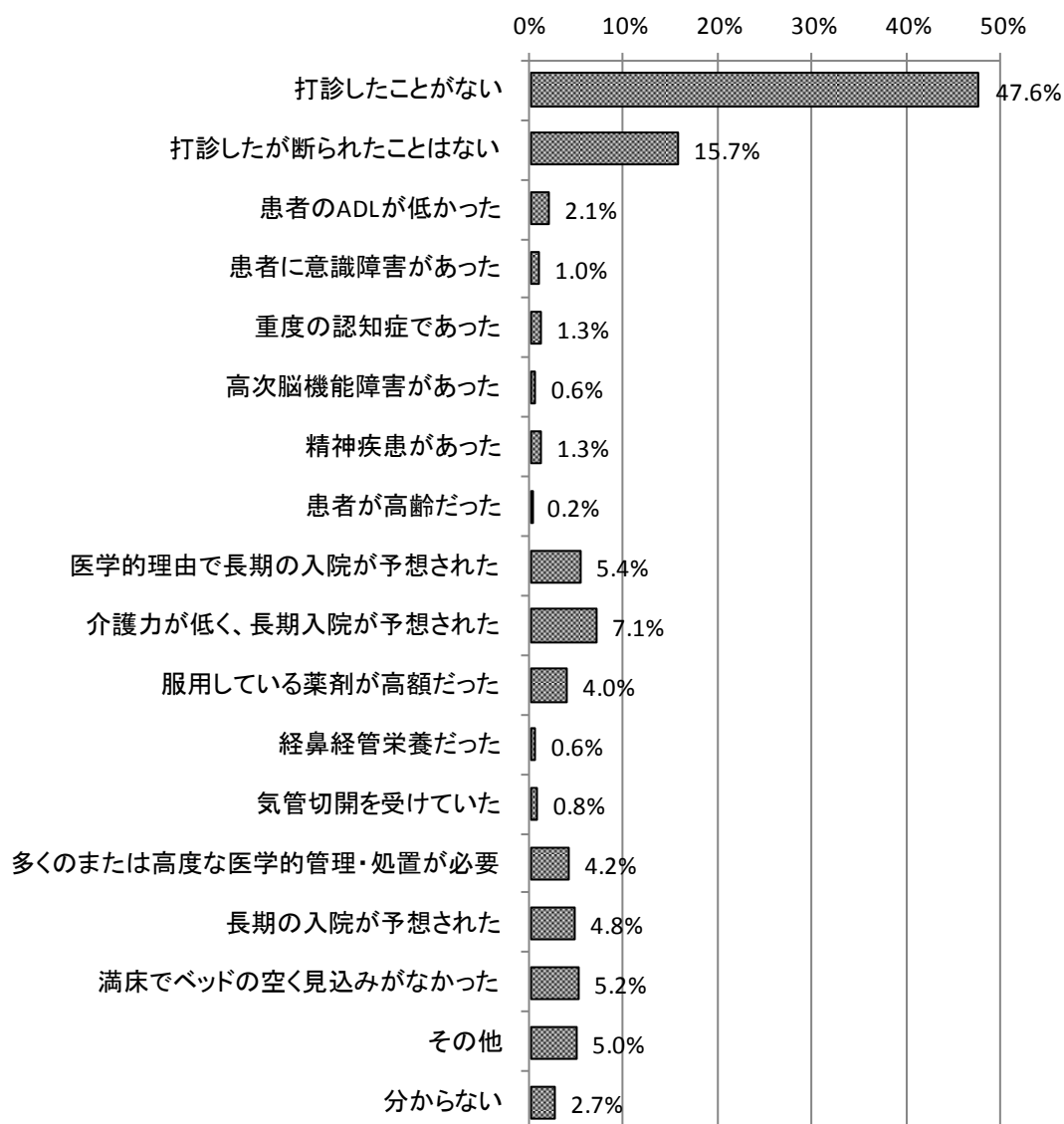


図表 109 回復期リハビリテーション病棟への転院を紹介しなかった理由
 (症例があった場合) 最もよくあった理由 (n=206)

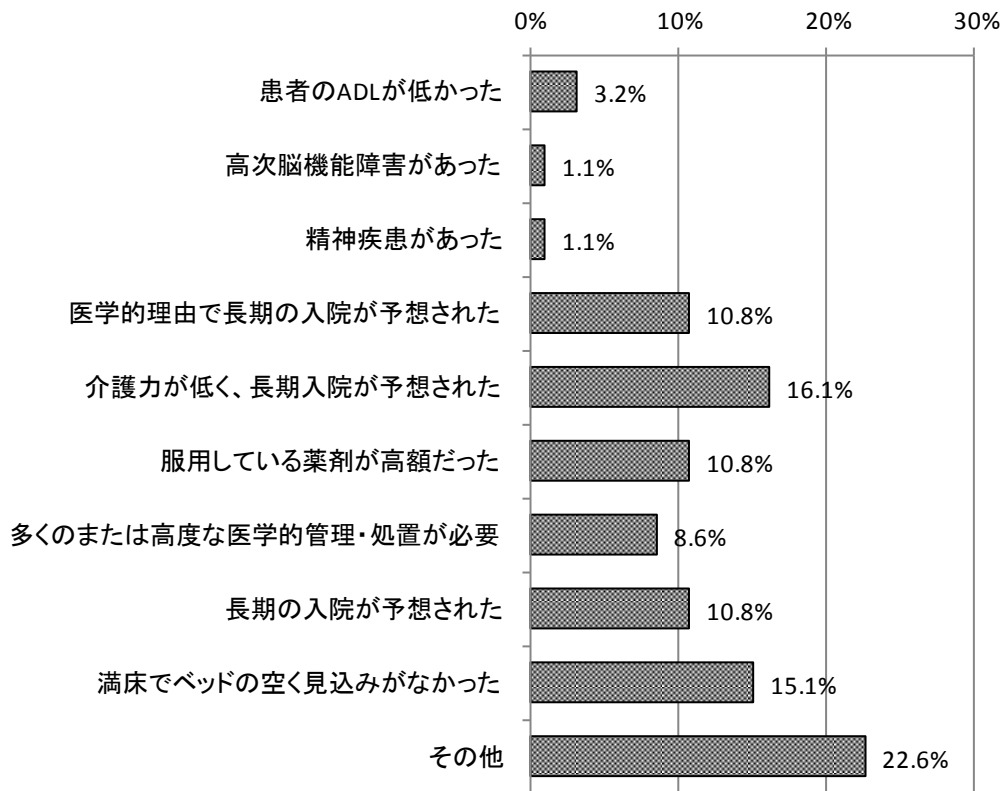


6) 地域包括ケア病棟に転院受け入れを断られた理由

図表 110 地域包括ケア病棟に転院受け入れを断られた理由（複数回答）（n=479）



図表 111 地域包括ケア病棟に転院受け入れを断られた理由
 (断られたことがあった場合) 最もよくあった理由 (n=93)

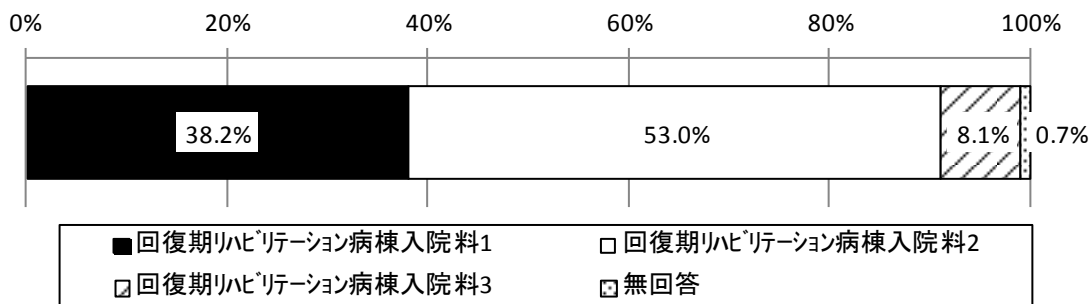


4 回復期リハビリテーション病棟調査の結果

(1) 病棟の概要

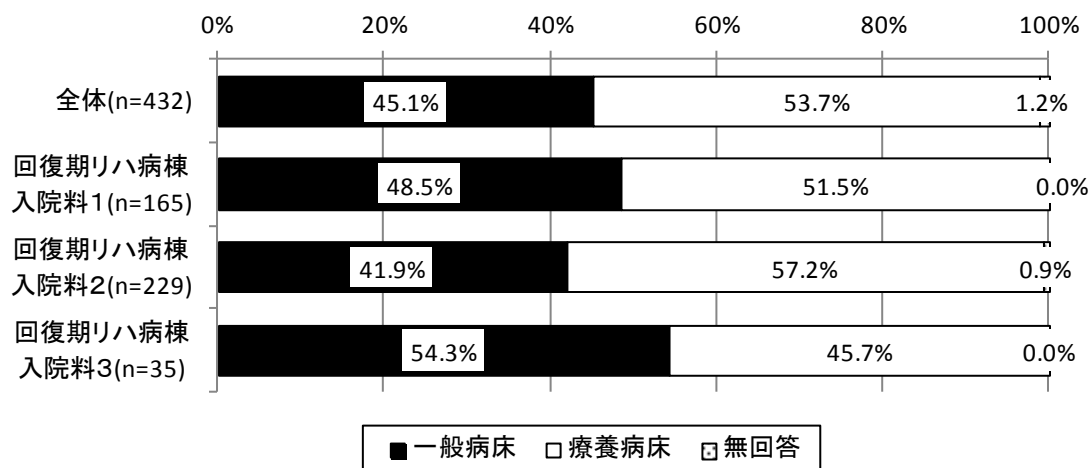
1) 届出している診療報酬

図表 112 届出している診療報酬 (n=432)



2) 医療法上の病床種別

図表 113 医療法上の病床種別



1) 病床数

図表 114 病床数

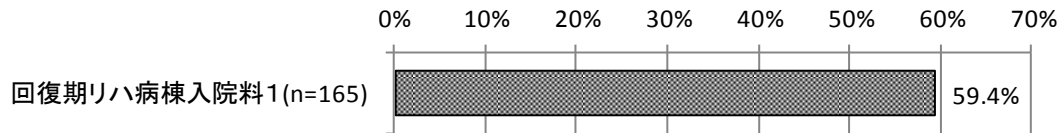
単位：床

	回答件数 (病棟数)	合計	平均	標準偏差	中央値
全体	429	19,141	44.6	10.4	46.0
回復期リハビリテーション病棟入院料1	164	7,834	47.8	8.3	48.0
回復期リハビリテーション病棟入院料2	227	9,764	43.0	11.2	43.0
回復期リハビリテーション病棟入院料3	35	1,415	40.4	11.2	40.0

2) 算定加算

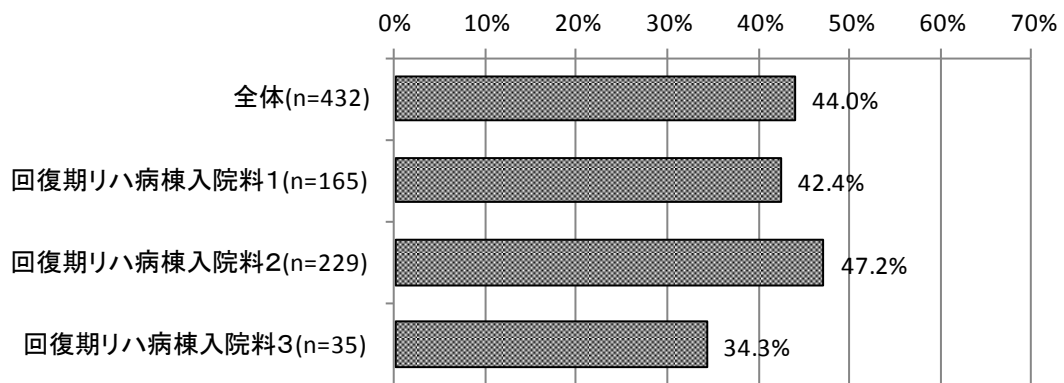
①体制強化加算（回復期リハ病棟入院料1のみ）

図表 115 体制強化加算（回復期リハ病棟入院料1のみ）



②リハビリテーション総合計画評価料 入院時訪問指導加算

図表 116 入院時訪問指導加算



3) 平均在院日数、在宅復帰率、ADL が向上した重症患者の割合

①平均在院日数

図表 117 平均在院日数

(平成 25 年 6 月)

単位：日

	回答件数 (病棟数)	平均	標準偏差	中央値
全体	381	79.4	28.7	76.3
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	156	79.7	25.5	77.1
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	201	79.7	29.8	76.9
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	21	76.0	40.2	66.0

(平成 27 年 6 月)

単位：日

	回答件数 (病棟数)	平均	標準偏差	中央値
全体	428	73.8	24.5	72.1
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	164	76.7	25.0	73.5
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	226	72.8	23.8	71.9
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	35	68.1	25.4	65.7

②在宅復帰率

図表 118 在宅復帰率

(平成 25 年 6 月)

単位：%

	回答件数 (病棟数)	平均	標準偏差	中央値
全体	379	80.0	10.1	80.8
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	154	80.4	8.8	81.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	202	80.1	9.2	80.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	20	75.2	21.2	82.0

(平成 27 年 6 月)

単位：%

	回答件数 (病棟数)	平均	標準偏差	中央値
全体	430	81.0	8.9	81.3
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	164	82.5	6.3	82.5
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	228	80.6	9.0	81.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	35	77.2	15.5	80.8

③ADL が向上した重症患者の割合

図表 119 ADL が向上した重症患者の割合

(平成 25 年 6 月)

単位：%

	回答件数 (病棟数)	平均	標準偏差	中央値
全体	375	60.2	19.4	61.5
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	151	60.5	15.7	60.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	201	62.4	19.8	66.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	20	35.7	24.4	33.3

(平成 27 年 6 月)

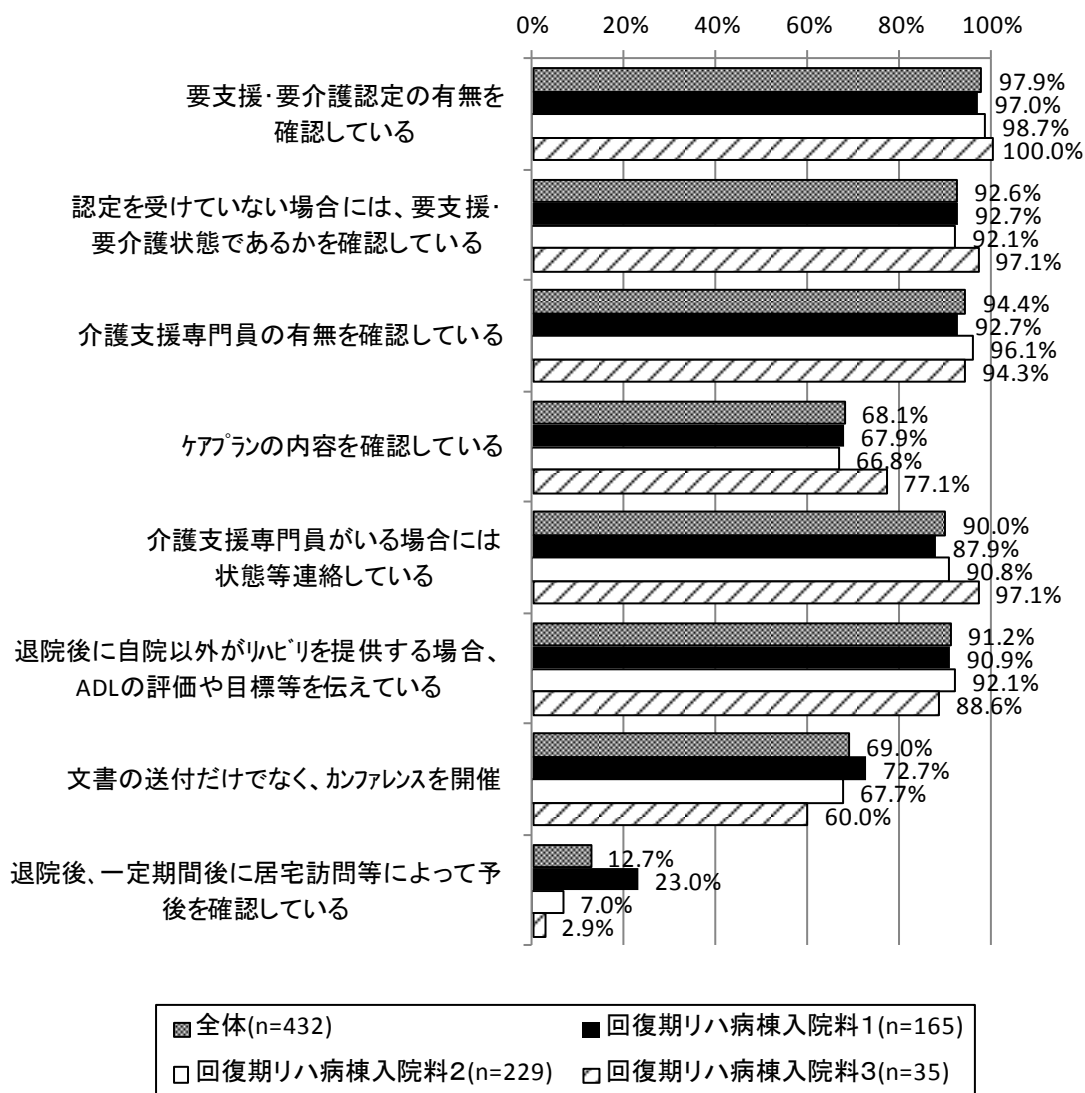
単位：%

	回答件数 (病棟数)	平均	標準偏差	中央値
全体	428	62.6	17.6	63.9
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	164	64.1	14.5	64.3
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	228	63.6	17.1	64.6
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	33	48.2	27.7	46.2

(2) 患者への予後等の説明や退院時の支援

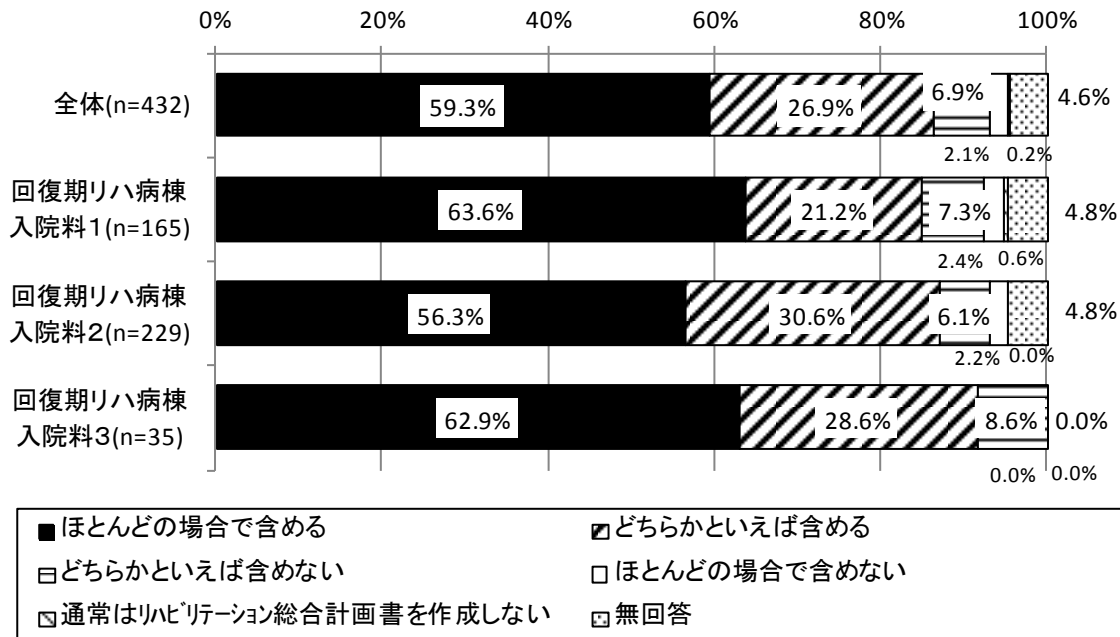
1) 退院予定患者について、行っている取り組み

図表 120 退院予定患者について、行っている取り組み（複数回答）



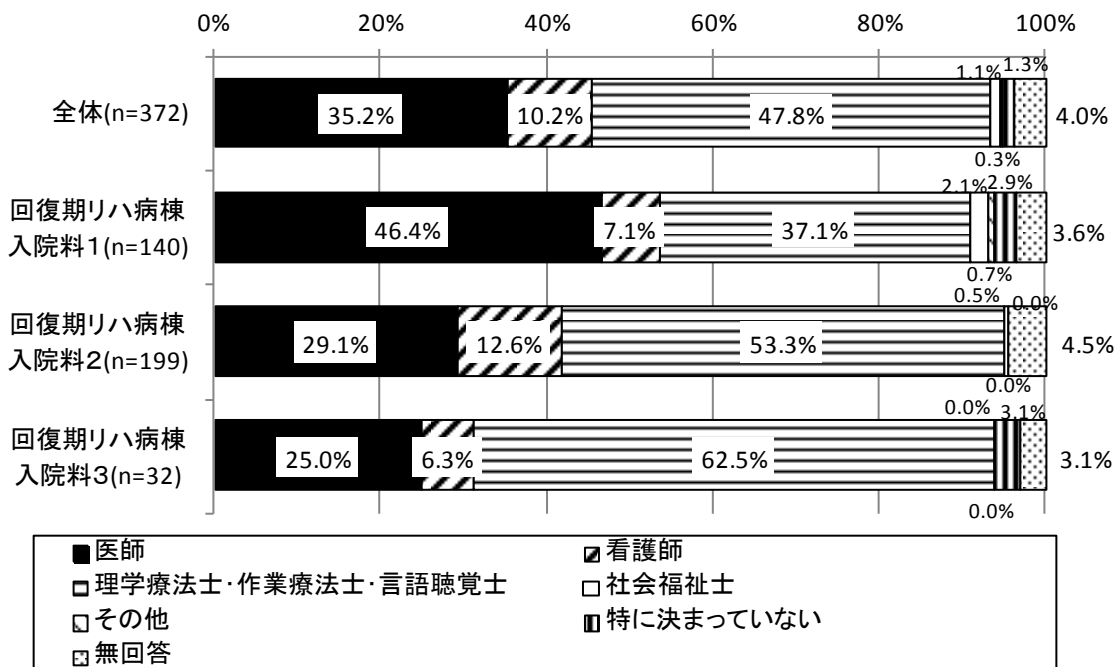
2) 身体機能や ADL の予後の見通しを説明に含めるか

図表 121 身体機能や ADL の予後の見通しを説明に含めるか

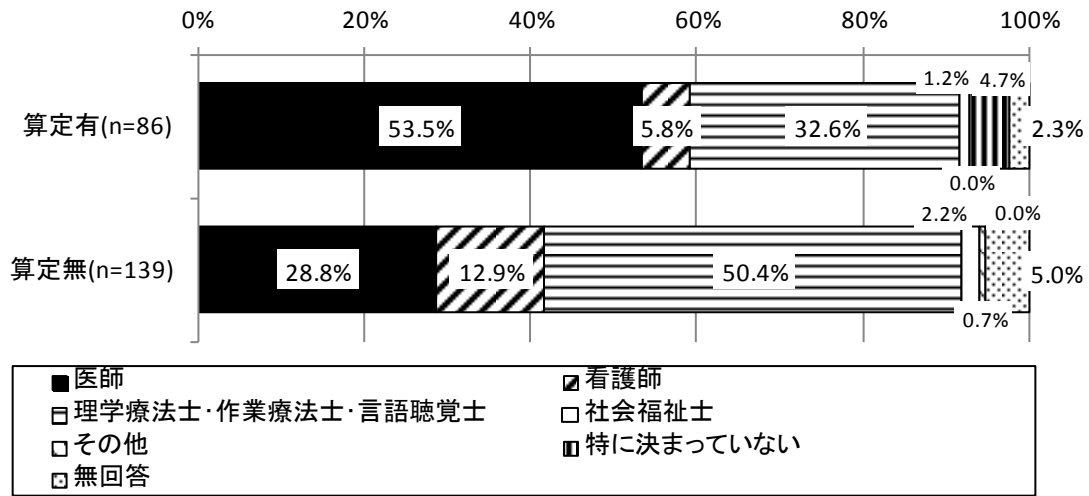


3) 誰が説明を行うか

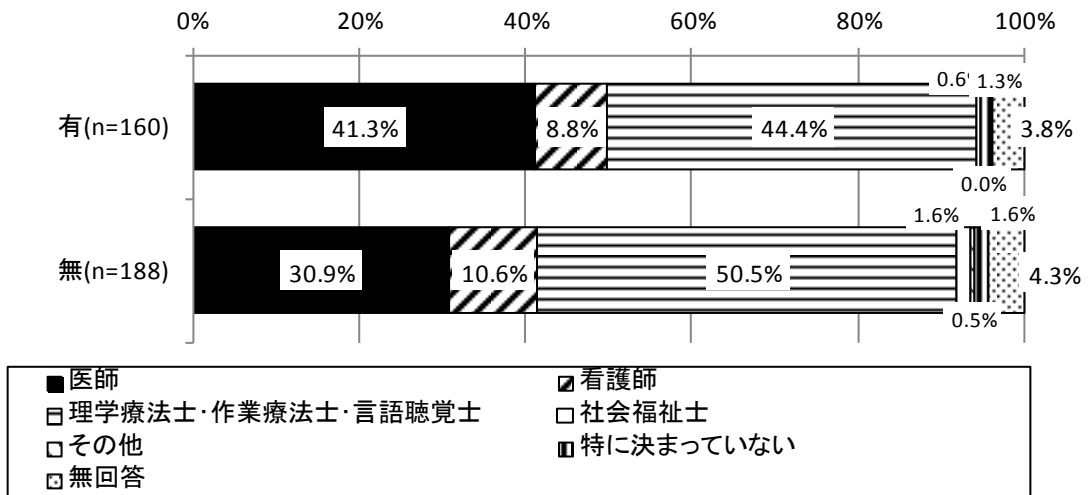
図表 122 誰が説明を行うか



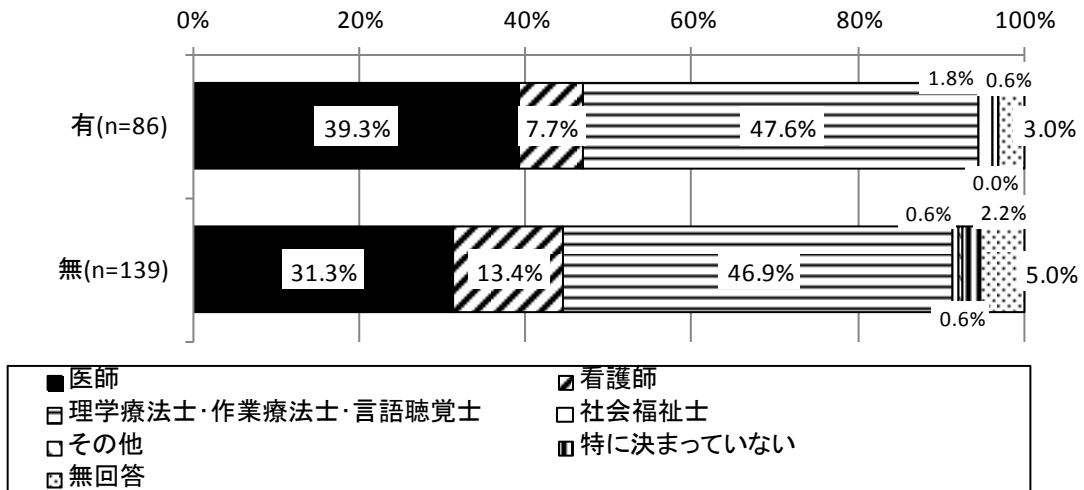
図表 123 体制強化加算の算定の有無別 誰が説明を行うか



図表 124 病院のリハビリテーション科専門医の有無別 誰が説明を行うか



図表 125 病院機能評価の認定の有無別 誰が説明を行うか



(3) 患者の状況

1) 在棟患者数

図表 126 在棟患者数

単位：人

	回答件数 (病棟数)	合計	平均	標準偏差	中央値
全体	430	16,530	38.4	10.9	39.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	165	7,034	42.6	8.7	43.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	228	8,324	36.5	11.2	36.5
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	34	1,054	31.0	11.6	28.0

2) 回復期リハビリテーション病棟入院料を算定している人数

図表 127 回復期リハビリテーション病棟入院料を算定している人数

単位：人

	回答件数 (病棟数)	合計	平均	標準偏差	中央値
全体	429	16,181	37.7	10.7	38.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	165	6,911	41.9	8.7	42.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	227	8,125	35.8	11.0	35.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	34	1,030	30.3	11.3	28.0

- ①脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント手術後、脳腫瘍、脳炎、急性脳症、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷等の発症後若しくは手術後の状態又は義肢装着訓練を要する状態

図表 128 脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント手術後、脳腫瘍、脳炎、急性脳症、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷等の発症後若しくは手術後の状態又は義肢装着訓練を要する状態

単位：人

	回答件数 (病棟数)	合計	平均	標準偏差	中央値
全体	425	9,097	21.4	11.2	21.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	164	4,329	26.4	10.2	27.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	224	4,328	19.3	10.5	18.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	34	402	11.8	8.5	11.0

②大腿骨、骨盤、脊椎、股関節若しくは膝関節の骨折又は二肢以上の多発骨折の発症後又は手術後の状態

図表 129 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節若しくは膝関節の骨折又は二肢以上の多発骨折の発症後又は手術後の状態

単位：人

	回答件数 (病棟数)	合計	平均	標準偏差	中央値
全体	425	5,463	12.9	8.6	12.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	164	1,928	11.8	8.2	11.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	224	2,991	13.4	8.4	12.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	34	473	13.9	10.7	13.5

③外科手術又は肺炎等の治療時の安静により廃用症候群を有しており、手術後又は発症後の状態

図表 130 外科手術又は肺炎等の治療時の安静により廃用症候群を有しており、手術後又は発症後の状態

単位：人

	回答件数 (病棟数)	合計	平均	標準偏差	中央値
全体	425	851	2.0	3.0	1.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	164	370	2.3	3.0	1.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	224	431	1.9	3.0	1.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	34	49	1.4	2.6	0.0

④大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の神経、筋又は靭帯損傷後の状態

図表 131 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の神経、筋又は靭帯損傷後の状態

単位：人

	回答件数 (病棟数)	合計	平均	標準偏差	中央値
全体	425	117	0.3	1.4	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	164	48	0.3	1.6	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	224	30	0.1	0.6	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	34	39	1.1	2.9	0.0

⑤股関節又は膝関節の置換術後の状態

図表 132 股関節又は膝関節の置換術後の状態

単位：人

	回答件数 (病棟数)	合計	平均	標準偏差	中央値
全体	425	497	1.2	2.2	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	164	202	1.2	2.0	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	224	223	1.0	2.0	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	34	67	2.0	3.4	0.5

3) 回復期リハビリテーション病棟入院料を算定していない患者

①⑥①～⑤以外の状態

図表 133 ①～⑤以外の状態

単位：人

	回答件数 (病棟数)	合計	平均	標準偏差	中央値
全体	425	133	0.3	0.9	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	164	39	0.2	0.7	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	224	84	0.4	1.1	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	34	9	0.3	0.8	0.0

②⑦①～⑤の状態にあてはまるが、入院時点で、発症等から時間が経っており、回復期リハビリテーション病棟入院料を算定できなかった

図表 134 ①～⑤の状態にあてはまるが、入院時点で、発症等から時間が経っており、回復期リハビリテーション病棟入院料を算定できなかった

単位：人

	回答件数 (病棟数)	合計	平均	標準偏差	中央値
全体	425	56	0.1	0.5	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	164	23	0.1	0.5	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	224	31	0.1	0.6	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	34	1	0.0	0.2	0.0

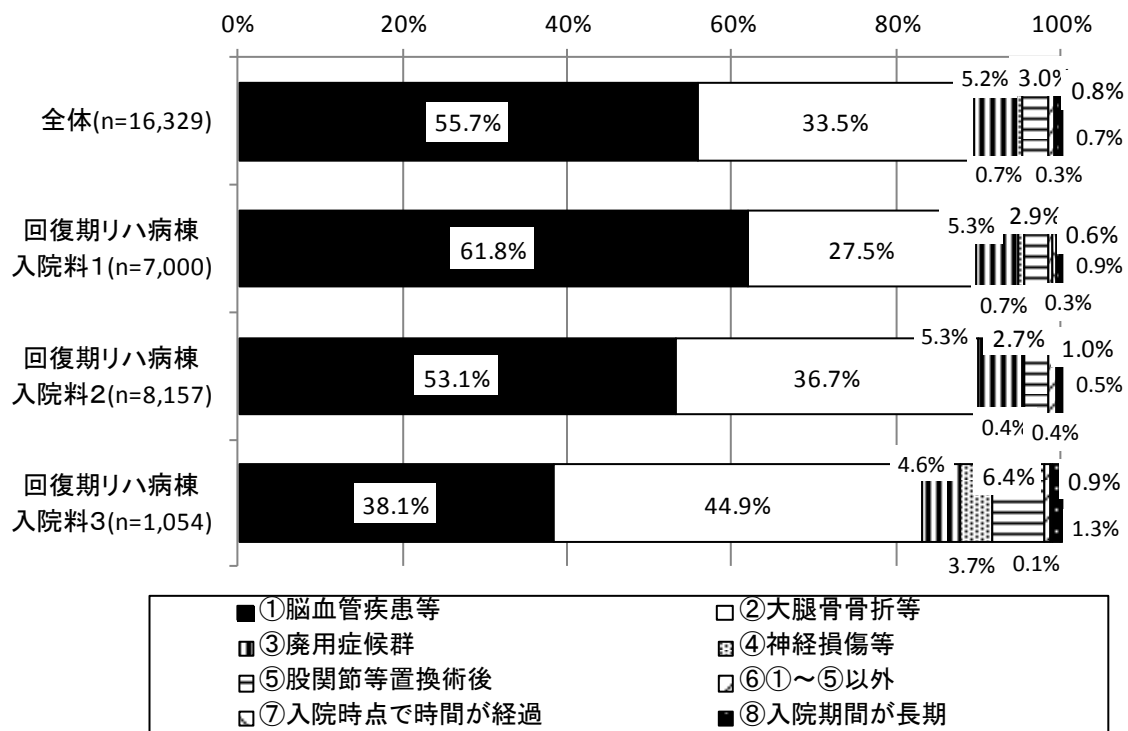
③⑧入院時は回復期リハビリテーション病棟入院料を算定していたが、入院期間が長期となり算定できなくなった

図表 135 ⑧入院時は回復期リハビリテーション病棟入院料を算定していたが、入院期間が長期となり算定できなくなった

単位：人

	回答件数 (病棟数)	合計	平均	標準偏差	中央値
全体	425	115	0.3	0.7	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	164	61	0.4	0.9	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	224	39	0.2	0.5	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	34	14	0.4	1.2	0.0

図表 136 在棟患者の状態別割合



【回答病棟数】全体：n=425、回復期リハ病棟入院料 1：n=164、回復期リハ病棟入院料 2：n=224、回復期リハ病棟入院料 3：n=34

4) 廃用症候群の患者の対象となるリハビリテーション料

①脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）

図表 137 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）

単位：人

	回答件数 (病棟数)	合計	平均	標準偏差	中央値
全体	366	566	1.5	2.7	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	144	272	1.9	2.8	1.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	188	259	1.4	2.7	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	31	34	1.1	2.7	0.0

②心大血管疾患リハビリテーション料

図表 138 心大血管疾患リハビリテーション料

単位：人

	回答件数 (病棟数)	合計	平均	標準偏差	中央値
全体	366	7	0.0	0.2	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	144	5	0.0	0.3	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	188	2	0.0	0.1	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	31	0	0.0	-	0.0

③運動器リハビリテーション料

図表 139 運動器リハビリテーション料

単位：人

	回答件数 (病棟数)	合計	平均	標準偏差	中央値
全体	366	18	0.0	0.4	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	144	1	0.0	0.1	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	188	12	0.1	0.5	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	31	5	0.2	0.7	0.0

④呼吸器リハビリテーション料

図表 140 呼吸器リハビリテーション料

単位：人

	回答件数 (病棟数)	合計	平均	標準偏差	中央値
全体	366	45	0.1	0.9	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	144	13	0.1	0.7	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	188	30	0.2	1.1	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	31	2	0.1	0.4	0.0

⑤障害児（者）リハビリテーション料

図表 141 障害児（者）リハビリテーション料

単位：人

	回答件数 (病棟数)	合計	平均	標準偏差	中央値
全体	366	0	0.0	-	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	144	0	0.0	-	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	188	0	0.0	-	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	31	0	0.0	-	0.0

⑥がん患者リハビリテーション料

図表 142 がん患者リハビリテーション料

単位：人

	回答件数 (病棟数)	合計	平均	標準偏差	中央値
全体	366	1	0.0	0.1	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	144	1	0.0	0.1	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	188	0	0.0	-	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	31	0	0.0	-	0.0

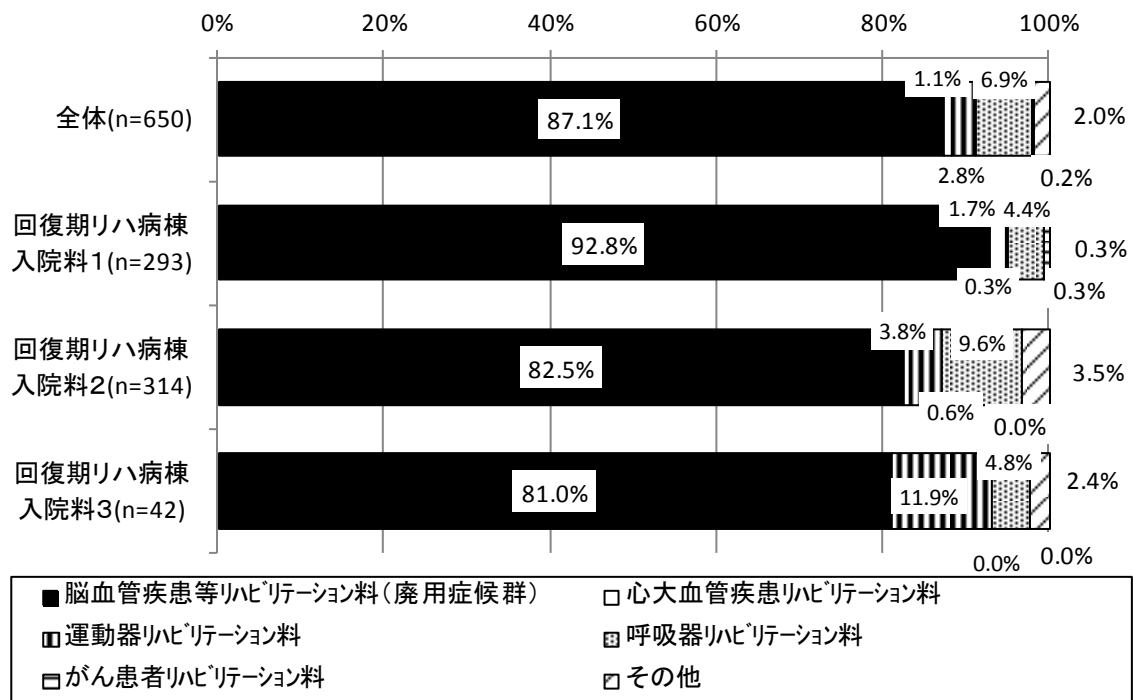
⑦その他（上記①～⑥に該当しない）

図表 143 その他（上記①～⑥に該当しない）

単位：人

	回答件数 (病棟数)	合計	平均	標準偏差	中央値
全体	366	13	0.0	0.4	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	144	1	0.0	0.1	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	188	11	0.1	0.5	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	31	1	0.0	0.2	0.0

図表 144 廃用症候群の患者の対象となるリハビリテーション料



【回答病棟数】全体：n=366、回復期リハ病棟入院料1：n=144、回復期リハ病棟入院料2：n=188、回復期リハ病棟入院料3：n=31

5) 摂食・嚥下障害の臨床的重症度

①唾液誤嚥

図表 145 唾液誤嚥

単位：人

	回答件数 (病棟数)	合計	平均	標準偏差	中央値
全体	349	221	0.6	1.1	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	139	111	0.8	1.3	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	186	104	0.6	1.1	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	22	6	0.3	0.5	0.0

②食物誤嚥

図表 146 食物誤嚥

単位：人

	回答件数 (病棟数)	合計	平均	標準偏差	中央値
全体	349	502	1.4	2.0	1.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	139	250	1.8	2.2	1.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	186	237	1.3	1.8	0.5
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	22	13	0.6	1.2	0.0

③水分誤嚥

図表 147 水分誤嚥

単位：人

	回答件数 (病棟数)	合計	平均	標準偏差	中央値
全体	349	997	2.9	3.1	2.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	139	462	3.3	2.9	3.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	186	502	2.7	3.3	2.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	22	25	1.1	1.4	1.0

④機会誤嚥

図表 148 機会誤嚥

単位：人

	回答件数 (病棟数)	合計	平均	標準偏差	中央値
全体	349	559	1.6	2.2	1.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	139	288	2.1	2.4	1.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	186	258	1.4	2.0	1.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	22	12	0.5	1.6	0.0

⑤口腔問題（誤嚥なし）

図表 149 口腔問題（誤嚥なし）

単位：人

	回答件数 (病棟数)	合計	平均	標準偏差	中央値
全体	349	776	2.2	2.6	2.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	139	367	2.6	2.8	2.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	186	344	1.8	2.1	1.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	22	44	2.0	2.9	1.0

⑥軽度問題（誤嚥なし）

図表 150 軽度問題（誤嚥なし）

単位：人

	回答件数 (病棟数)	合計	平均	標準偏差	中央値
全体	349	1,302	3.7	4.0	3.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	139	610	4.4	4.4	3.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	186	613	3.3	3.7	2.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	22	70	3.2	3.0	2.0

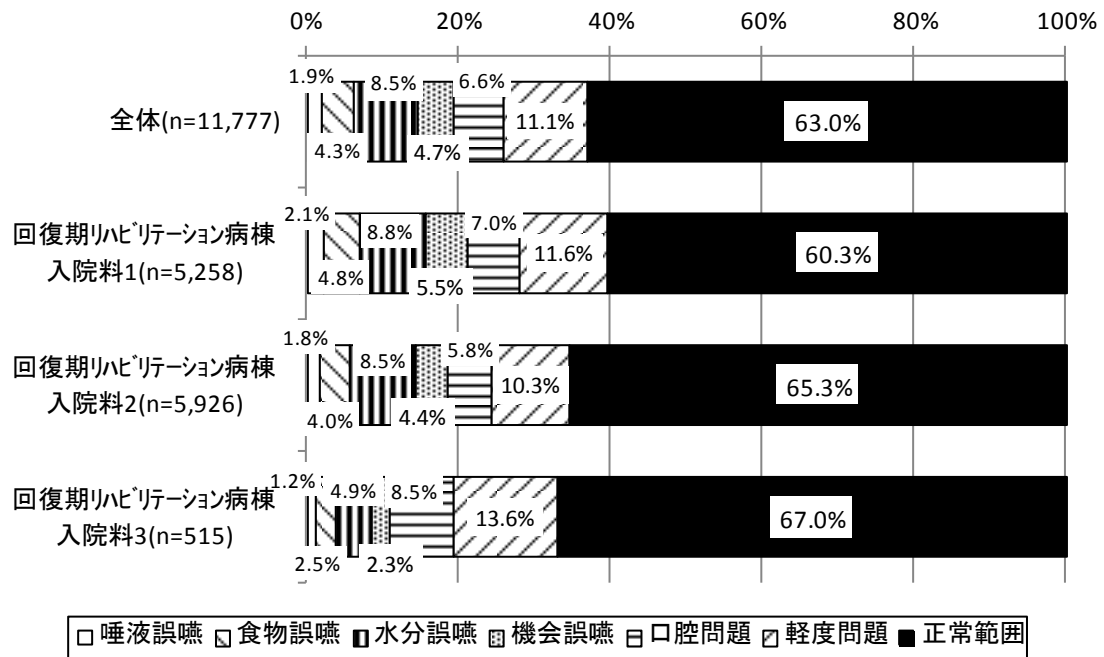
⑦正常範囲

図表 151 正常範囲

単位：人

	回答件数 (病棟数)	合計	平均	標準偏差	中央値
全体	349	7,420	21.3	12.0	22.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	139	3,170	22.8	12.2	24.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	186	3,868	20.8	11.9	21.5
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	22	345	15.7	11.8	13.5

図表 152 摂食・嚥下障害の臨床的重症度に関する分類



【回答病棟数】全体：n=349、回復期リハ病棟入院料1：n=139、回復期リハ病棟入院料2：n=186、回復期リハ病棟入院料3：n=22

6) 食事の状態別患者数

①全量経口栄養の患者：胃瘻なし

図表 153 全量経口栄養の患者：胃瘻なし

単位：人

	回答件数 (病棟数)	合計	平均	標準偏差	中央値
全体	374	10,986	29.4	15.9	32.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	148	4,537	30.7	17.3	37.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	194	5,591	28.8	15.0	30.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	30	783	26.1	15.0	25.0

②全量経口栄養の患者：胃瘻はあるが、過去1か月使っていない

図表 154 全量経口栄養の患者：胃瘻はあるが過去1か月使っていない

単位：人

	回答件数 (病棟数)	合計	平均	標準偏差	中央値
全体	376	37	0.1	0.3	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	148	13	0.1	0.3	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	196	21	0.1	0.4	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	30	3	0.1	0.4	0.0

③主に経口栄養の患者

図表 155 主に経口栄養の患者

単位：人

	回答件数 (病棟数)	合計	平均	標準偏差	中央値
全体	376	2,345	6.2	13.6	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	148	1,262	8.5	16.1	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	196	987	5.0	12.1	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	30	96	3.2	8.0	0.0

④主に経管栄養の患者：経鼻胃経管栄養法

図表 156 主に経管栄養の患者：経鼻胃経管栄養法

単位：人

	回答件数 (病棟数)	合計	平均	標準偏差	中央値
全体	376	592	1.6	2.2	1.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	148	299	2.0	2.4	1.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	196	270	1.4	2.0	1.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	30	21	0.7	1.2	0.0

⑤主に経管栄養の患者：間欠的経管栄養法

図表 157 主に経管栄養の患者：間欠的経管栄養法

単位：人

	回答件数 (病棟数)	合計	平均	標準偏差	中央値
全体	376	39	0.1	0.5	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	148	22	0.1	0.7	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	196	17	0.1	0.4	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	30	0	0.0	-	0.0

⑥主に胃瘻栄養の患者

図表 158 主に胃瘻栄養の患者

単位：人

	回答件数 (病棟数)	合計	平均	標準偏差	中央値
全体	376	339	0.9	1.4	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	148	171	1.2	1.5	1.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	196	159	0.8	1.4	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	30	8	0.3	0.6	0.0

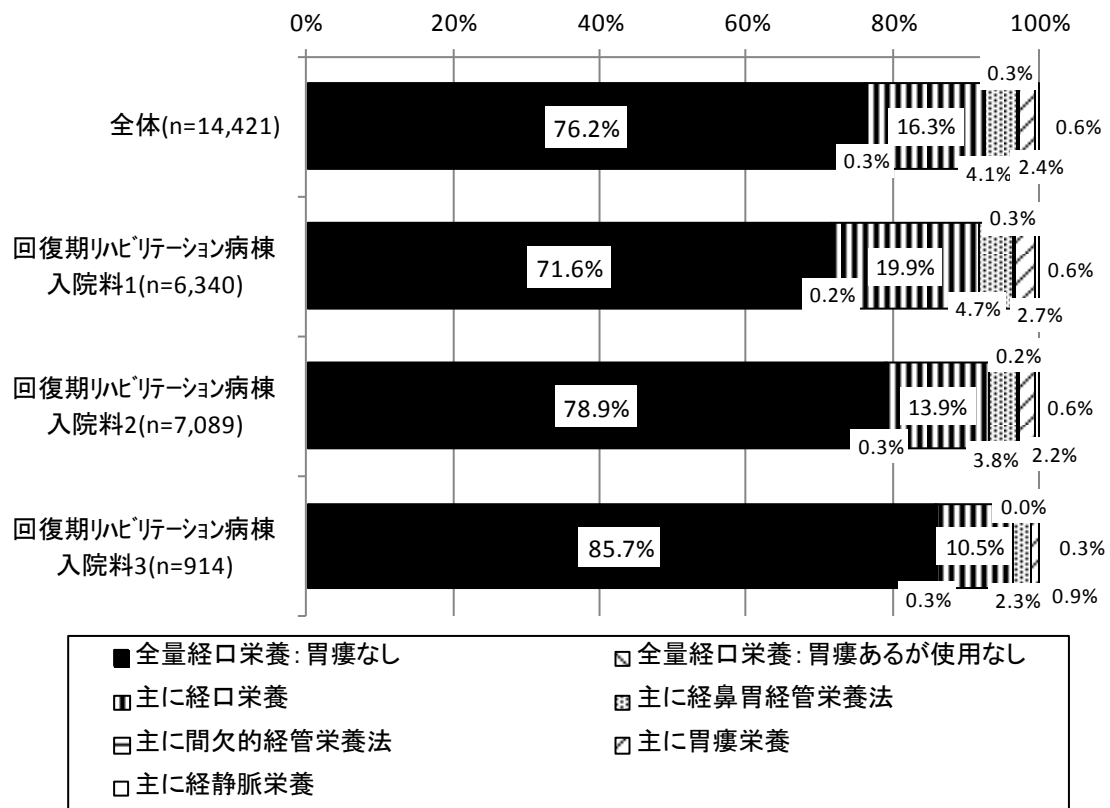
⑦主に経静脈栄養の患者

図表 159 主に経静脈栄養の患者

単位：人

	回答件数 (病棟数)	合計	平均	標準偏差	中央値
全体	376	83	0.2	0.6	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	148	36	0.2	0.6	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	196	44	0.2	0.6	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	30	3	0.1	0.5	0.0

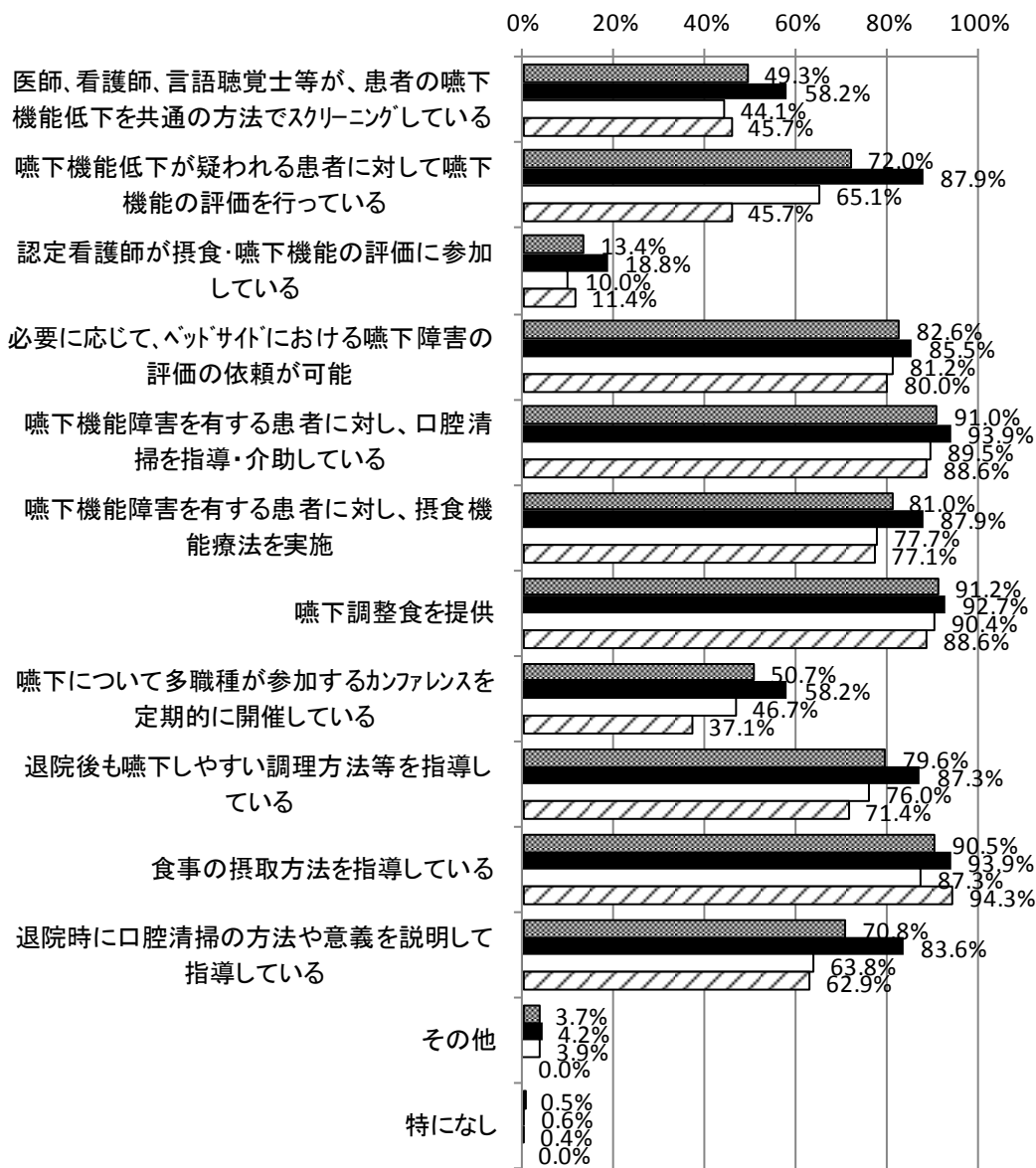
図表 160 食事の状態



【回答病棟数】全体:n=374、回復期リハ病棟入院料1:n=148、回復期リハ病棟入院料2:n=194、回復期リハ病棟入院料3:n=30

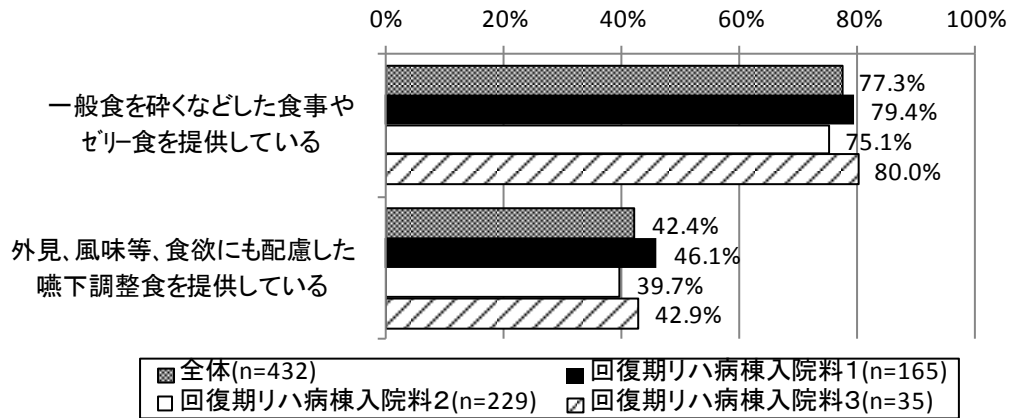
7) 嚥下機能の維持、向上に係る取組

図表 161 嚥下機能の維持、向上に係る取組（複数回答）



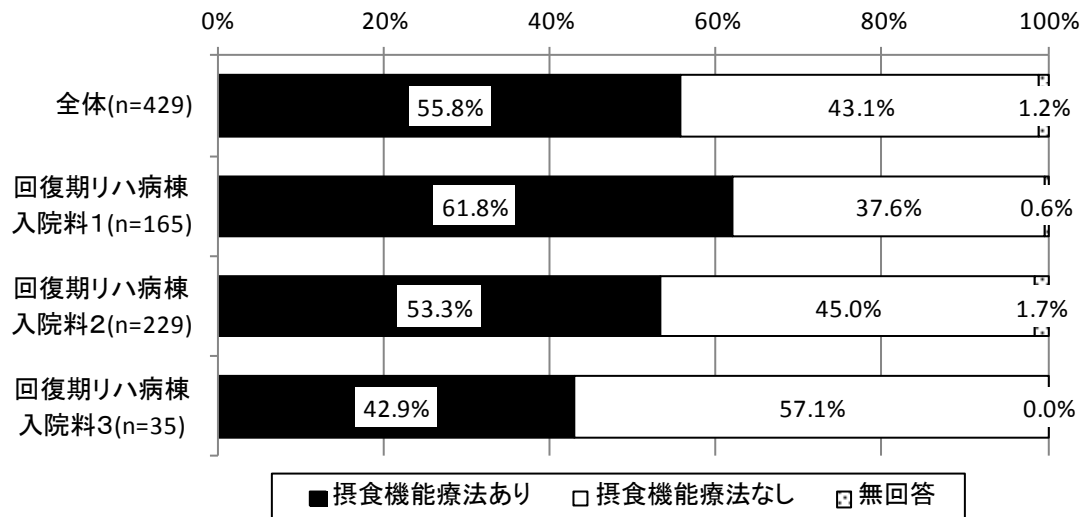
全体(n=432)
 回復期リハ病棟入院料1(n=165)
 回復期リハ病棟入院料2(n=229)
 回復期リハ病棟入院料3(n=35)

図表 162 嚥下調整食について



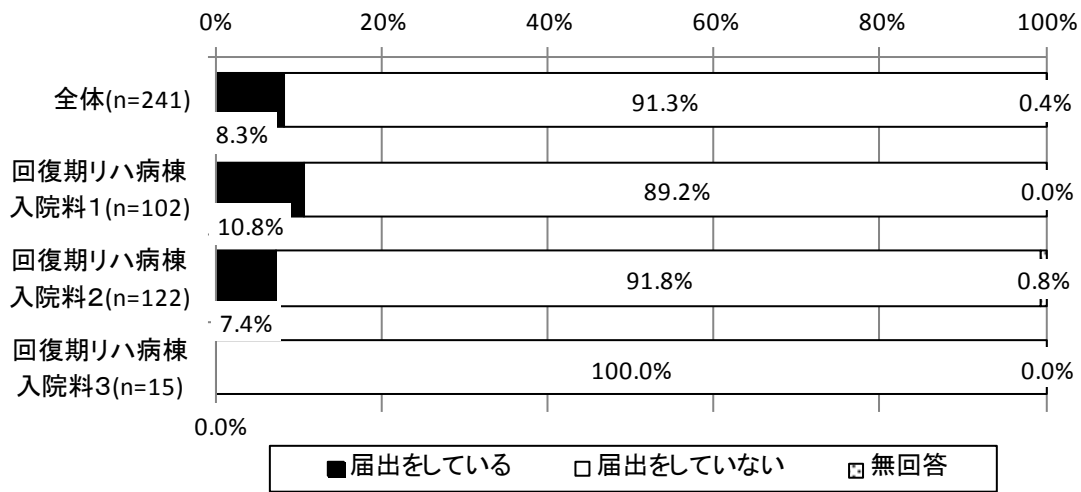
8) 摂食機能療法の届出の有無

図表 163 摂食機能療法の届出の有無



9) 経口摂取回復促進加算の届出の有無

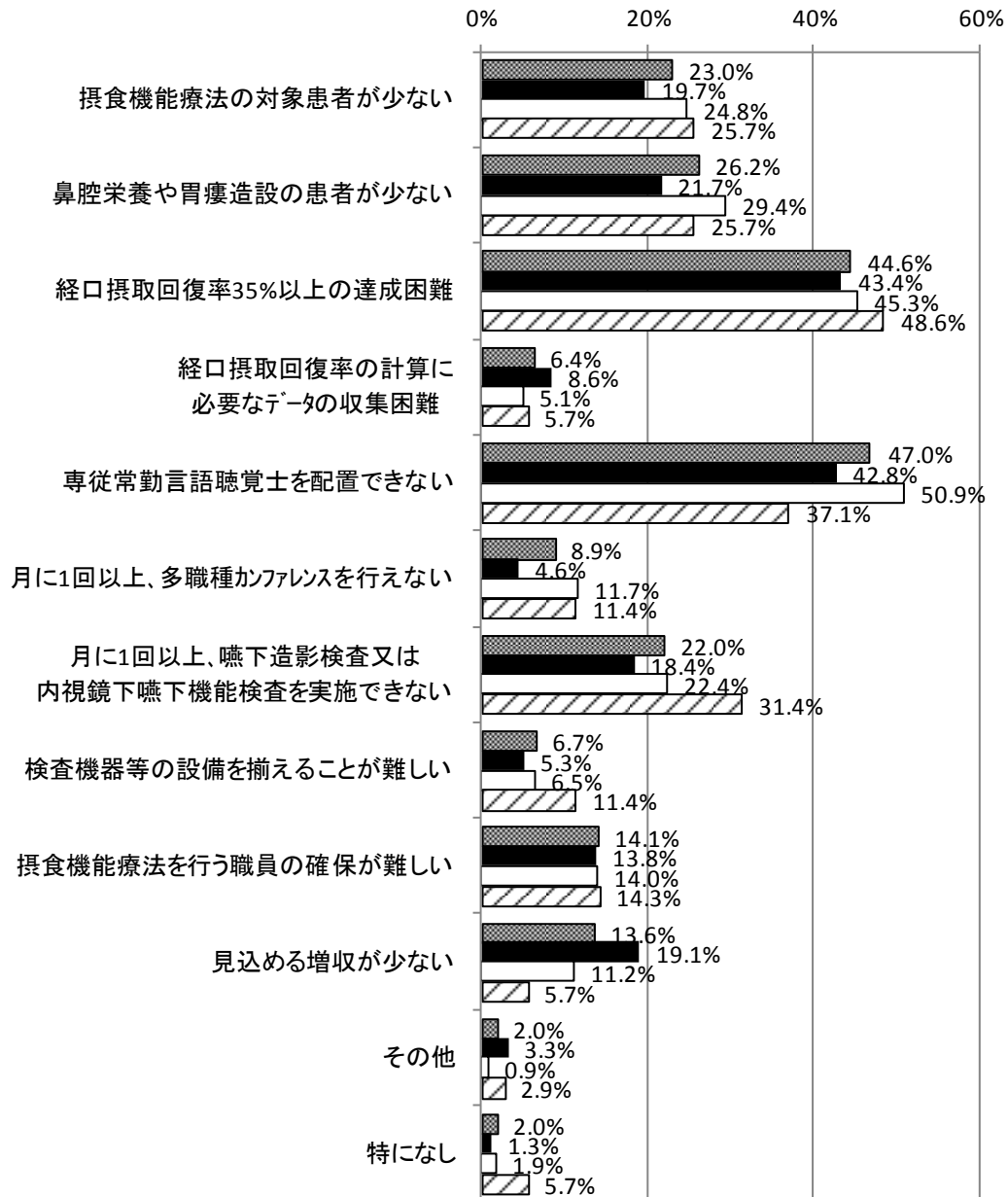
図表 164 (摂食機能療法の届出有の場合) 経口摂取回復促進加算の届出の有無



10) 経口摂取回復促進加算の届出をしていない理由

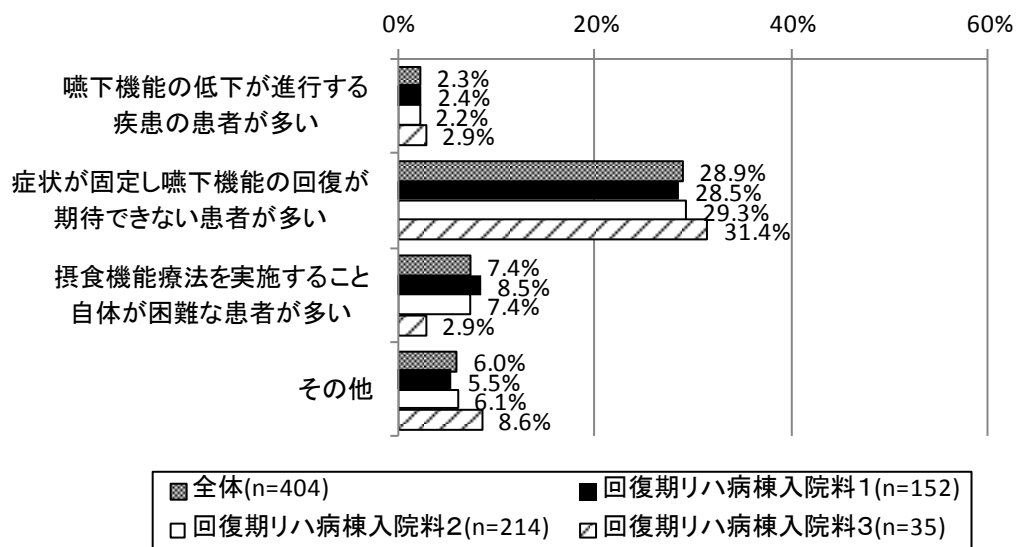
図表 165 経口摂取回復促進加算の届出をしていない理由（複数回答）

（摂食機能療法の届出がない施設の回答も含む）

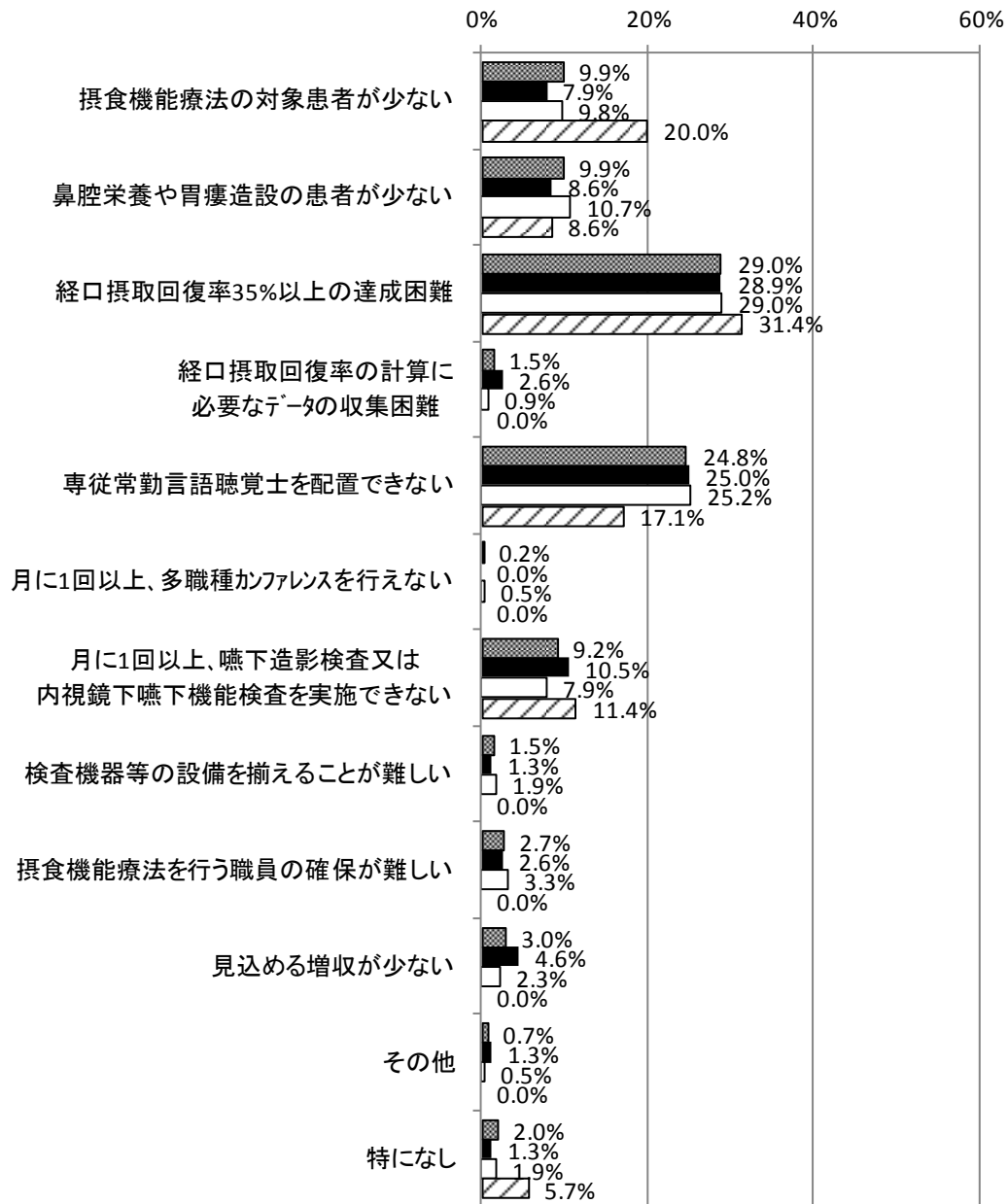


全体(n=404)
 回復期リハ病棟入院料1(n=152)
 回復期リハ病棟入院料2(n=214)
 回復期リハ病棟入院料3(n=35)

図表 166 経口摂取回復率 35%以上を達成することが困難である詳細（複数回答）



図表 167 経口摂取回復促進加算の届出をしていない最大の理由

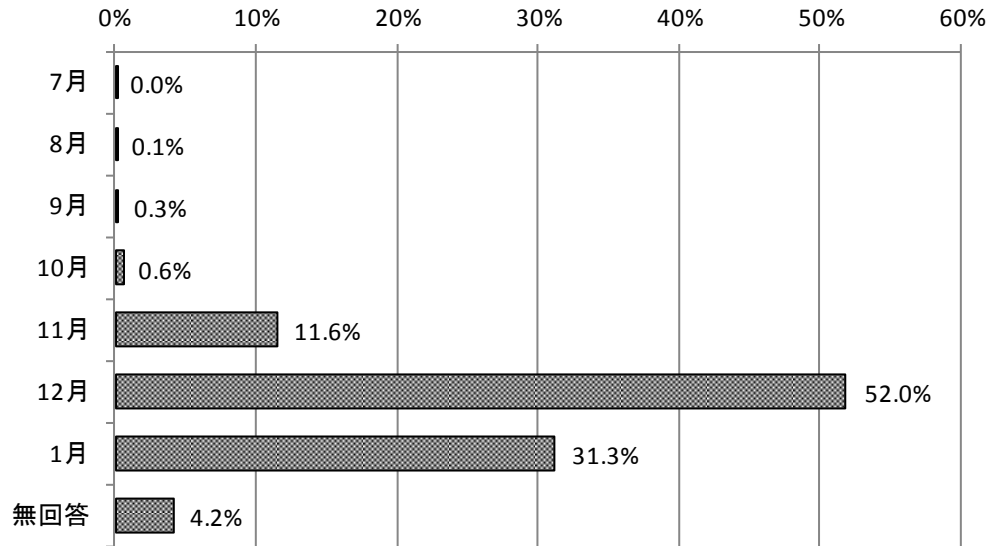


全体(n=404)
 回復期リハ病棟入院料1(n=152)
 回復期リハ病棟入院料2(n=214)
 回復期リハ病棟入院料3(n=35)

(4) 平成27年1月入棟患者の状況

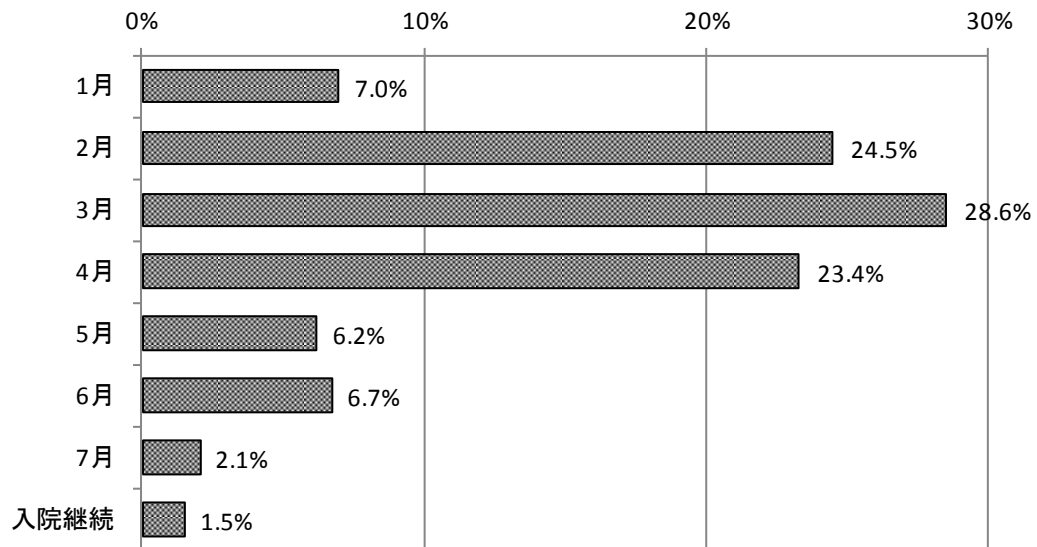
①リハビリテーション起算月

図表 168 リハビリテーション起算月 (n=6,101)



②退棟月

図表 169 退棟月 (n=6,101)



③在棟期間等

図表 170 在棟期間等

単位：日

	回答件数 (人数)	平均値	標準偏差	中央値
入棟日～退棟日	5,957	66.6	40.2	61.0
リハビリテーション起算日～入棟日	5,821	27.7	18.3	26.0
リハビリテーション起算日～退棟日	5,704	94.7	46.8	89.0

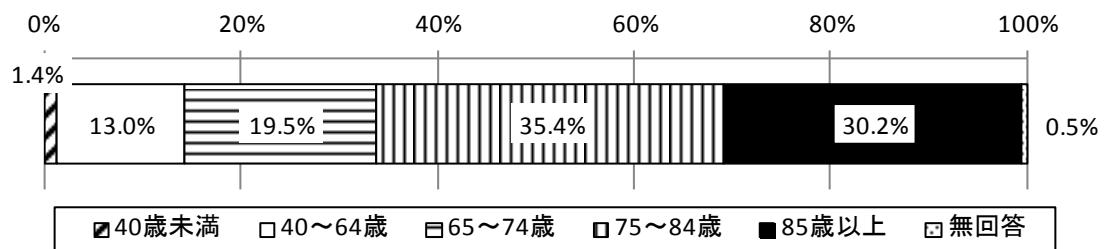
④年齢（入棟時点）

図表 171 年齢（入棟時点）

単位：歳

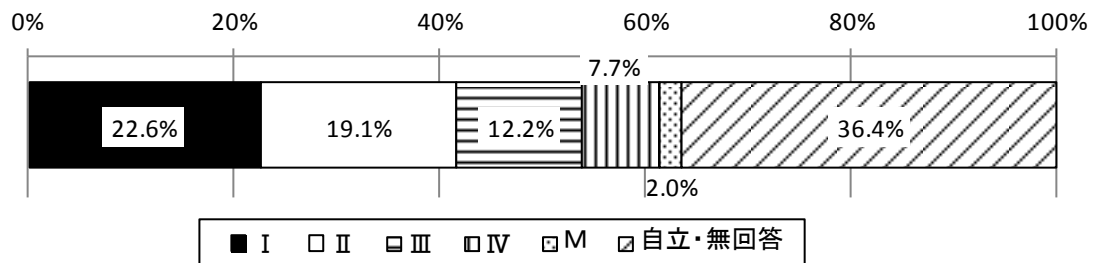
	回答件数 (人数)	平均値	標準偏差	中央値
年齢	6,071	77.0	12.6	80.0

図表 172 年齢分布（入棟時点）(n=6,101)



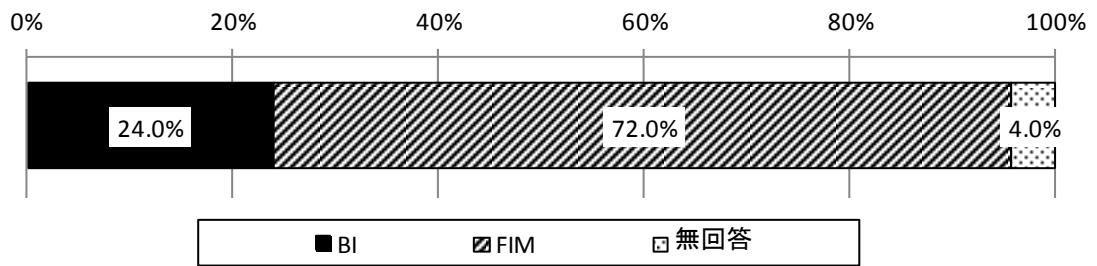
⑤最初の計画書の認知機能の評価

図表 173 最初の計画書の認知機能の評価 (n=6,101)



⑥ADL

図表 174 ADL の使用指標 (n=6, 101)



図表 175 退棟月別 入棟時の ADL の点数 (B I の場合)

単位：点

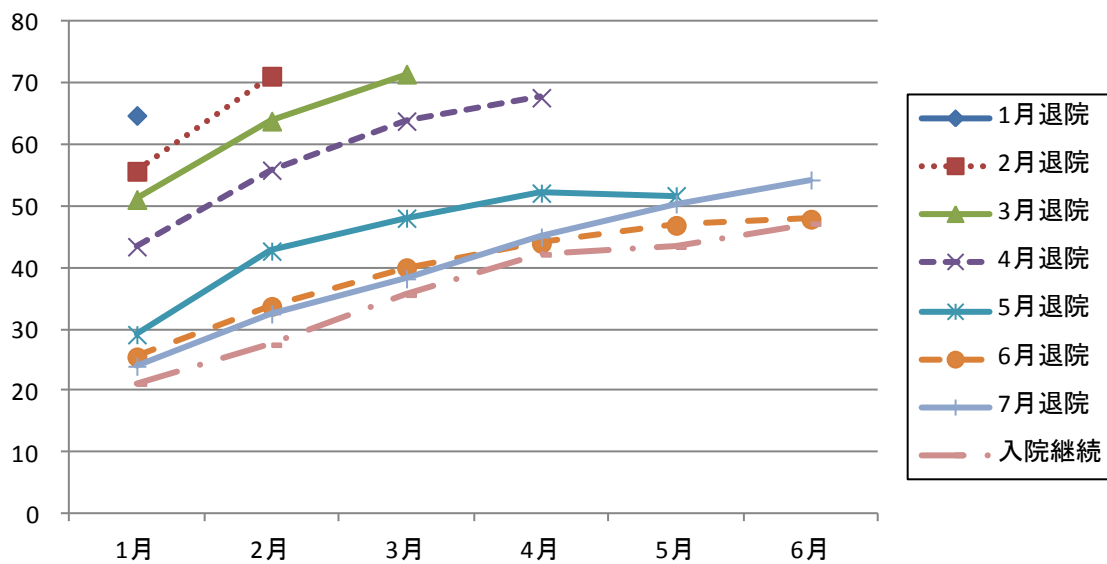
	回答件数 (人数)	平均	標準偏差	中央値
全体	1,440	48.4	29.0	50.0
1月	86	64.8	29.0	75.0
2月	435	55.7	29.1	60.0
3月	409	51.1	27.8	55.0
4月	328	43.4	25.1	45.0
5月	70	29.1	26.1	25.0
6月	80	25.5	22.9	20.0
7月	15	24.0	22.0	15.0
入院継続	17	21.2	20.2	20.0

図表 176 退棟月別、退棟月の ADL の点数（B I の場合）

単位：点

	回答件数 (人数)	平均	標準偏差	中央値
1月	86	64.8	29.0	75.0
2月	425	71.2	30.7	85.0
3月	385	71.5	28.4	85.0
4月	298	67.7	27.3	75.0
5月	61	51.7	35.4	50.0
6月	67	47.9	32.0	50.0

図表 177 退棟月別、ADL の点数（B I の場合）



図表 178 退棟月別 入棟時の ADL の点数 (F I Mの場合)

単位：点

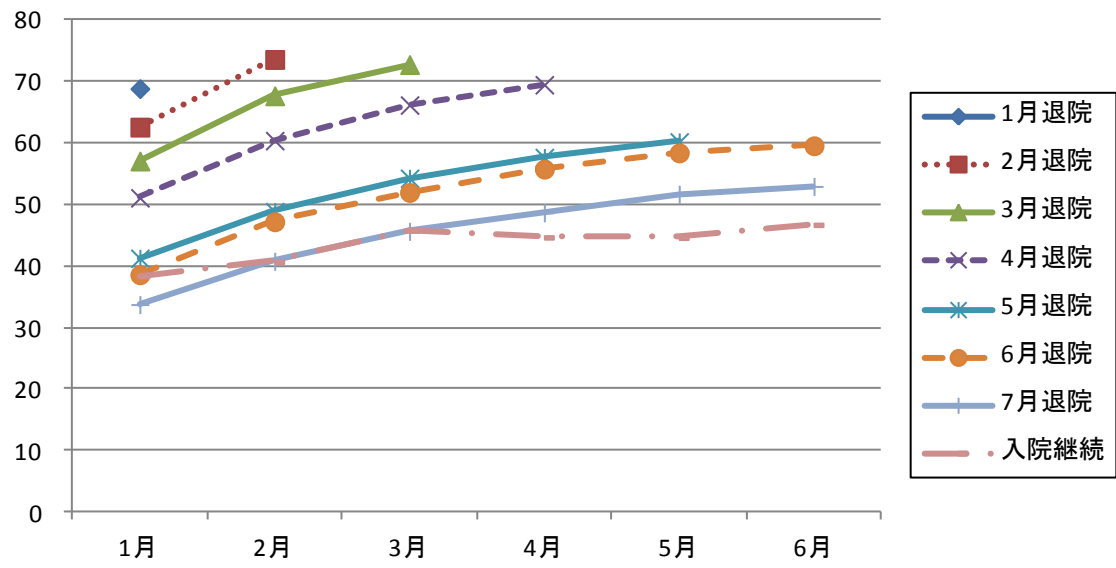
	回答件数 (人数)	平均	標準偏差	中央値
全体	4,329	54.2	27.2	54.0
1月	213	68.9	32.1	74.0
2月	1,003	62.6	27.1	66.0
3月	1,271	57.1	26.0	57.0
4月	1,054	51.1	24.7	50.0
5月	297	41.3	22.5	38.0
6月	315	38.6	23.1	34.0
7月	106	33.8	20.6	29.5
入院継続	70	38.4	27.5	31.5

図表 179 退棟月別、退棟月の ADL の点数 (F I Mの場合)

単位：点

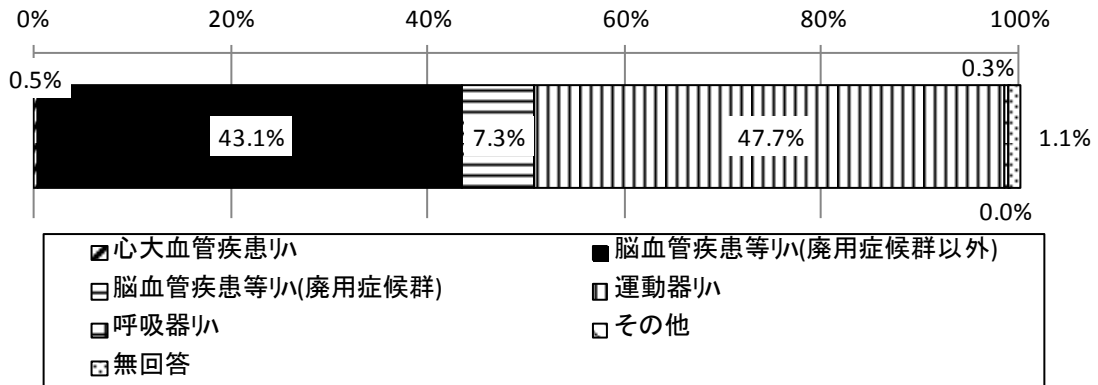
	回答件数 (人数)	平均	標準偏差	中央値
1月	213	68.9	32.1	74.0
2月	959	73.6	28.8	80.0
3月	1,185	72.8	27.3	78.0
4月	954	69.5	27.2	74.0
5月	276	60.2	28.0	65.0
6月	280	59.6	28.1	62.5

図表 180 退棟月別、ADL の点数（F I Mの場合）



⑦疾患別リハの種類

図表 181 疾患別リハの種類 (n=6,101)



⑧疾患別リハの実施単位数

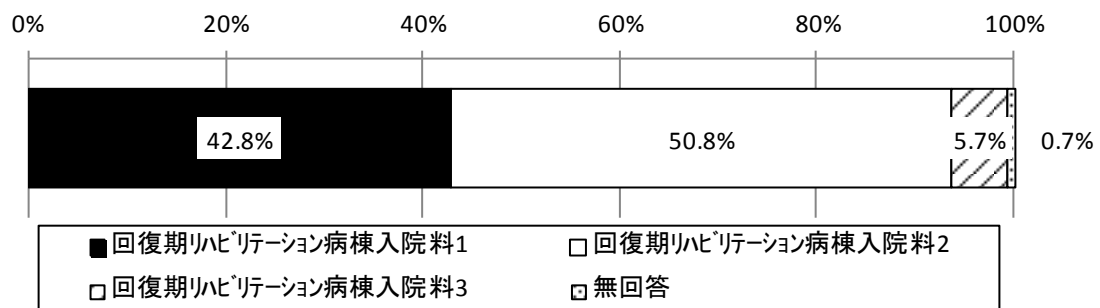
図表 182 疾患別リハの実施単位数

単位：単位

月	回答件数 (人数)	平均値	標準偏差	中央値
1月	5,939	73.6	52.9	64.0
2月	5,503	137.5	66.6	143.0
3月	3,994	144.4	77.0	148.5
4月	2,296	126.7	80.4	118.0
5月	927	165.2	78.0	178.0
6月	555	135.7	81.5	138.0

⑨入院病棟

図表 183 入院病棟 (n=6,101)



(5) 入棟時の状態（入棟時に A 項目が 1 点以上の患者）（平成 27 年 4 月～6 月）

①年齢

図表 184 年齢 (n=1,665)

単位：歳

	平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
年齢	76.9	13.5	80.0	106	12

②発症・手術後、入棟までの日数

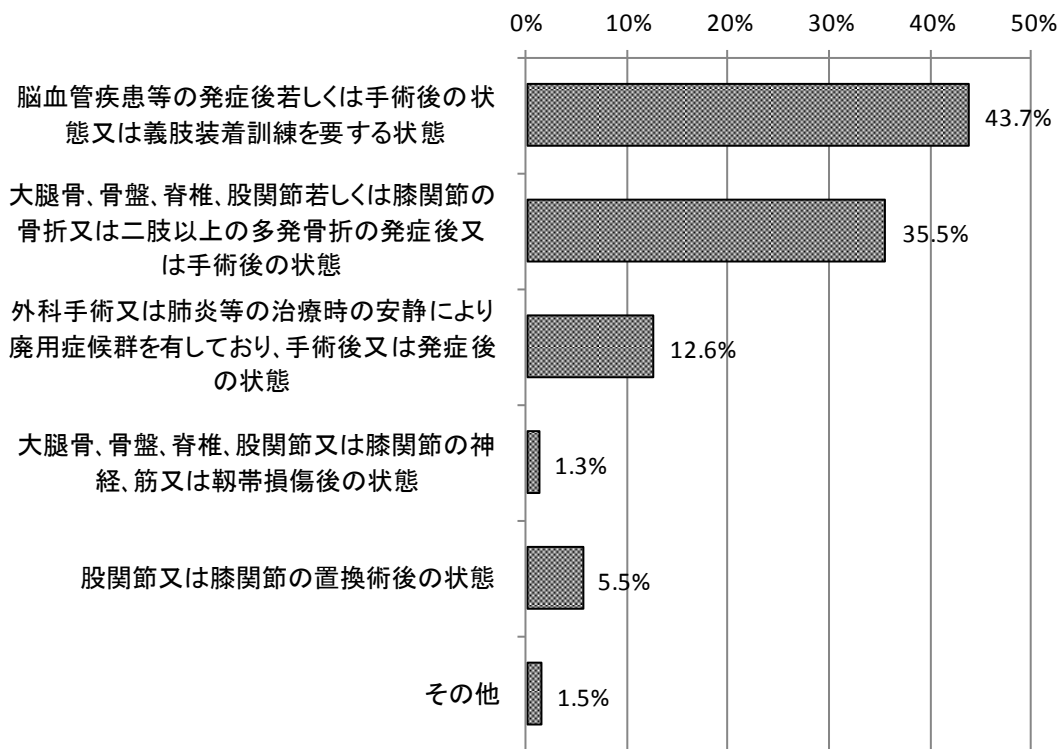
図表 185 発症・手術後、入棟までの日数 (n=1,629)

単位：日

	平均値	標準偏差	中央値
発症・手術後、入棟までの日数	26.5	18.6	23.0

③状態

図表 186 状態 (n=1,665)



④入棟時の A 得点

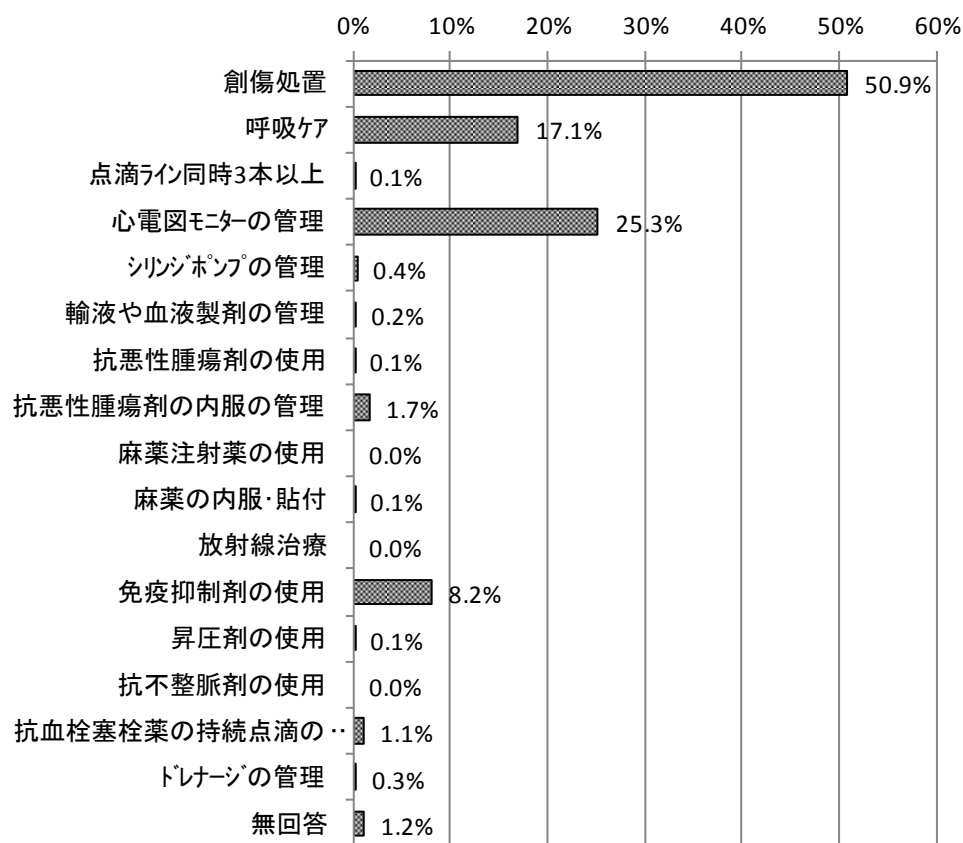
図表 187 入棟時の A 得点 (n=1,665)

単位：点

	平均値	標準偏差	中央値
入棟時の A 得点	1.2	0.4	1.0

⑤該当する A 項目

図表 188 該当する A 項目（複数回答）（n=1,665）



⑥入棟時の B 得点

図表 189 入棟時の B 得点（n=1,603）

単位：点

	平均値	標準偏差	中央値
入棟時の B 得点	8.2	5.1	9.0

(6) 入棟時の状態（入棟時に A 項目が 0 点の患者）（平成 27 年 4 月）

①年齢

図表 190 年齢 (n=2,453)

単位：歳

	平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
年齢	75.4	13.3	78.0	105	10

②発症・手術後、入棟までの日数

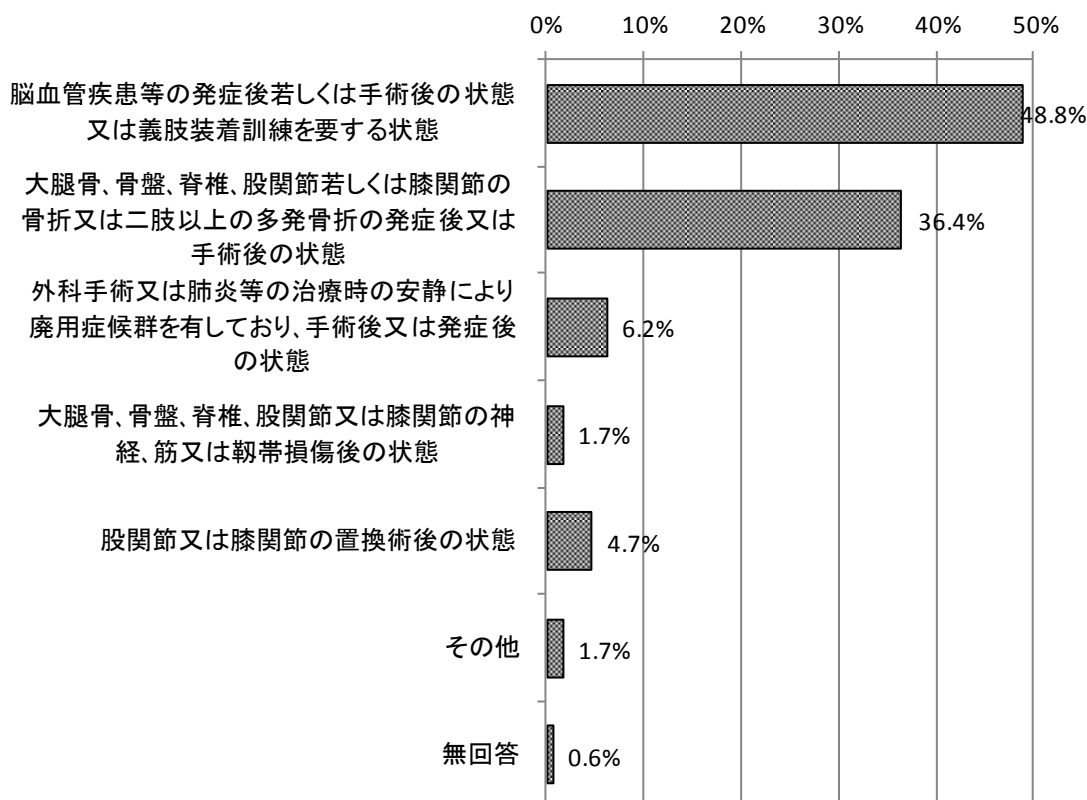
図表 191 発症・手術後、入棟までの日数 (n=2,424)

単位：日

	平均値	標準偏差	中央値
発症・手術後、入棟までの日数	27.7	17.0	25.0

③状態

図表 192 状態 (n=2,467)



④入棟時の B 得点

図表 193 入棟時の B 得点 (n=2,361)

単位：点

	平均値	標準偏差	中央値
入棟時の B 得点	6.4	4.6	6.0

リハビリテーション等に係る NDB 集計

(平成 27 年 5 月診療分)

各項目の算定件数

項目	入院	入院外
経口摂取回復促進加算	142	10 未満
リハビリテーション総合計画提供料	118	10 未満
リハビリテーション総合計画評価料 入院時訪問指導加算	815	10 未満
初期加算 (リハビリテーション料)	193382	60
早期リハビリテーション加算	293085	338

平成26年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成27年度調査）

リハビリテーションの実施状況調査 **病院票**

※ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、（ ）内には具体的な数値、用語等をお書きください。

（ ）内に数値を記入する設問で、該当なしは「0（ゼロ）」を、わからない場合は「-」をお書きください。

※特に断りのない場合は、平成27年6月30日時点の状況についてお書きください。

※本調査では、「維持期リハビリテーション（維持期リハ）」とは、標準的算定日数を超えた患者について、①治療を継続することにより状態の改善が期待できると医学的に判断される場合以外、②患者の疾患、状態等を総合的に勘案し、治療上有効であると医学的に判断される場合以外、が必要があって行われるリハビリテーションのことを指します。平成27年6月時点で、疾患別リハビリテーションが月13単位に限り算定できる状態が該当します。

1. 貴院の概要についてお伺いします。

貴院名をご記入ください。	()		
所在地をご記入ください。	() 都・道・府・県		
問1 貴院の開設者 について該当するものを1つお選びください。			
01 国（厚生労働省、(独)国立病院機構、国立大学法人、(独)労働者健康福祉機構、国立研究開発法人、(独)地域医療機能推進機構等）			
02 公的医療機関（都道府県、市町村、地方独立行政法人、日赤、済生会、北海道社会事業協会、厚生連、国民健康保険団体連合会）			
03 社会保険関係団体（健康保険組合及びその連合会、共済組合及びその連合会、国民健康保険組合）			
04 医療法人			
05 個人			
06 その他（公益法人、私立学校法人、社会福祉法人、医療生協、会社等）			
問2 病院機能評価* の認定を受けていますか。	01 有（はい）	02 無（いいえ）	03 手続き中
問3 貴院の同一法人（法人が異なっても実質的に同一経営の場合も含む）が、同一又は隣接の敷地内で運営している介護施設・事業所 として該当するものを全てお選びください。			
01 介護老人福祉施設	09 通所リハビリテーション（通所リハ）事業所		
02 介護老人保健施設	10 短期入所生活介護事業所		
03 訪問介護事業所	11 短期入所療養介護事業所		
04 訪問入浴介護事業所	12 特定施設入居者生活介護事業所		
05 訪問看護事業所（06以外）	13 居宅介護支援事業所		
06 訪問看護ステーション	14 小規模多機能型居宅介護事業所		
07 訪問リハビリテーション事業所	15 認知症対応型共同生活介護事業所		
08 通所介護事業所	16 その他（)		

* 公益財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価を指す。

問4 貴院において平成27年6月30日時点で従事している**職員数**をご記入ください。常勤職員については実人数、非常勤については常勤換算数^{※1}を記載してください。

	常 勤 (実人数)		非 常 勤 (常勤換算 ^{※1})	
		人		人
1) 医 師		人		人
【再掲】日本リハビリテーション医学会のリハビリテーション科専門医		人		人
2) 理学療法士		人		人
3) 作業療法士		人		人
4) 言語聴覚士		人		人
5) ソーシャルワーカー ^{※2}		人		人
【再掲】社会福祉士の資格保有者		人		人

※1. 非常勤職員の常勤換算の計算方法

貴院の1週間の所定労働時間を基本として、下記のように常勤換算して小数点第1位まで(小数点第2位を切り上げ)ご記入ください。

例: 1週間の所定労働時間が40時間の病院で、週4日(各日5時間)勤務の医師が1人いる場合

$$\text{非常勤職員数} = \frac{4日 \times 5時間 \times 1人}{40時間} = 0.5人$$

※2. ソーシャルワーカーとは、患者等が地域や家庭において自立した生活を送ることができるよう、患者や家族の抱える心理的・社会的な問題の解決・調整を援助し、社会復帰の促進を図るための業務の従事者のことをいいます。

問5 平成27年6月30日時点の**病床数と病棟数**をご記入ください。ない場合には、「0」とご記入ください。

	病床数		病棟数	
		床		棟
1) 一般病床(許可病床数)		床		棟
【再掲】7対1入院基本料		床		棟
【再掲】10対1入院基本料		床		棟
【再掲】回復期リハビリテーション病棟入院料1		床		棟
【再掲】回復期リハビリテーション病棟入院料2		床		棟
【再掲】回復期リハビリテーション病棟入院料3		床		棟
2) 療養病床(医療保険適用)		床		棟
【再掲】回復期リハビリテーション病棟入院料1		床		棟
【再掲】回復期リハビリテーション病棟入院料2		床		棟
【再掲】回復期リハビリテーション病棟入院料3		床		棟
3) 療養病床(介護保険適用)		床		棟
4) 精神病床		床		棟
5) 結核病床		床		棟
6) 感染症病床		床		棟

問6 貴院で平成27年6月30日時点で届出を行っている**リハビリテーション料等**について、該当する全てに○をつけてください。

01 心大血管疾患リハビリテーション料 (I)	02 心大血管疾患リハビリテーション料 (II)	
03 脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)	04 脳血管疾患等リハビリテーション料 (II)	05 脳血管疾患等リハビリテーション料 (III)
06 運動器リハビリテーション料 (I)	07 運動器リハビリテーション料 (II)	08 運動器リハビリテーション料 (III)
09 呼吸器リハビリテーション料 (I)	10 呼吸器リハビリテーション料 (II)	
11 がん患者リハビリテーション料	12 障害児(者)リハビリテーション料	13 認知症患者リハビリテーション料
14 難病患者リハビリテーション料	15 摂食機能療法	

2. **一般病棟（7対1と10対1）**におけるADL維持向上等体制加算の届出についてお伺いします。

7対1入院基本料または10対1入院基本料を算定する病棟がある場合にご回答ください。ない場合は、3.の設問に進んでください。

問7 ADL維持向上等体制加算を届け出た病棟はありますか。

01 有 → 病棟数 () 棟 02 無

(問7で「01 有」を選んだ場合)

問8 届け出るにあたり、**対応が困難だった要件**はありますか。(複数回答可)

- 00 特になし
- 01 病棟に、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士のいずれか1名以上の常勤配置を行うこと
- 02 病院で、リハビリテーション医療に関する3年以上の臨床経験を有し、リハビリテーション医療に係る研修を修了した常勤医師が1名以上勤務すること
- 03 病棟の直近1年間の新規入院患者のうち、「65歳以上の患者が8割以上」または「循環器系の疾患、新生物、消化器系、運動器系または呼吸器系の疾患の患者が6割以上」であること
- 04 直近1年間において、病棟を退院した患者のうち、入院時よりも退院時にADLの低下した者の割合が3%未満であること
- 05 病棟の入院患者のうち、院内で発生した褥瘡を保有している入院患者の割合が1.5%未満であること

(問7で「02 無」を選んだ場合)

問9 ADL維持向上等加算を**届け出していない理由**についてご回答ください。(複数回答可)

- 01 リハビリテーションが必要な患者が少ないから
- 02 リハビリテーションには特に注力していないから
- 03 施設基準の要件を満たせる見込みが立たないから
 - 具体的にはどの要件を満たすのが難しいですか
 - 31 病棟に、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士のいずれか1名以上の常勤配置を行うこと
 - 32 病院で、リハビリテーション医療に関する3年以上の臨床経験を有し、リハビリテーション医療に係る研修を修了した常勤医師が1名以上勤務すること
 - 33 病棟の直近1年間の新規入院患者のうち、「65歳以上の患者が8割以上」または「循環器系の疾患、新生物、消化器系、運動器系または呼吸器系の疾患の患者が6割以上」であること
 - 34 直近1年間において、病棟を退院した患者のうち、入院時よりも退院時にADLの低下した者の割合が3%未満であること
 - 35 病棟の入院患者のうち、院内で発生した褥瘡を保有している入院患者の割合が1.5%未満であること
- 04 体制整備にかかる費用に比して、見込める増収が少ないから
- 05 その他 (具体的に)

3. **回復期リハビリテーション病棟**における加算の届出や患者の受入状況等についてお伺いします。

回復期リハビリテーション病棟がある場合にご回答ください。ない場合は、4.の設問に進んでください。

(1) 体制強化加算について

(1)と(2)は、回復期リハビリテーション病棟入院料1を算定する病棟がある場合にご回答ください。ない場合は、設問(3)に進んでください。

問10 体制強化加算を届け出た病棟はありますか。	01 有⇒病棟数()棟	02 無
--------------------------	--------------	------

(問10で「01 有」を選んだ場合)

問11 届け出るにあたり、 対応が困難だった要件 はありますか。(複数回答可)	
00 特になし	
01 病棟に、リハビリテーション医療に関する3年以上の経験及びリハビリテーション医療に係る研修を修了した専従の常勤医師1名以上を配置すること	
02 退院調整に関する3年以上の経験を有する専従の常勤社会福祉士1名以上を配置すること	
問12 対応するために、 外来や訪問診療部門に影響 がありましたか。(複数回答可)	
00 特になし	
01 病棟に配置する専従の常勤医師の確保が難しかった	
02 病棟に専従の常勤医師が外来診療や訪問診療をできないため、外来等の医師の負担が増大した	
03 病棟に専従の常勤医師が外来診療や訪問診療をできないため、外来診療や訪問診療の提供を削減(患者数の縮小、通院・訪問間隔の延長等)した	
04 その他(具体的に)	
問13 体制強化加算を届け出るために、 職員を増員 しましたか。(複数回答可)	
00 増員していない	
01 医師を増員した	02 非常勤の医師を常勤にした
03 社会福祉士を増員した	04 非常勤の社会福祉士を常勤にした
05 その他(具体的に)	

(問10で「02 無」を選んだ場合)

問14 体制強化加算を 届け出していない理由 についてご回答ください。(複数回答可)
01 医師の配置について、基準に合致する体制を整備することが患者に及ぼすメリットを感じられないから
02 病棟に、リハビリテーション医療に関する3年以上の経験及びリハビリテーション医療に係る研修を修了した専従の常勤医師1名以上を配置することは困難であるから
03 病棟に、リハビリテーション医療に関する3年以上の経験及びリハビリテーション医療に係る研修を修了した専従の常勤医師1名以上を配置すると、外来や訪問診療部門に影響が出る恐れがあるから
04 社会福祉士の配置について、基準に合致する体制を整備することが患者に及ぼすメリットを感じられないから
05 退院調整に関する3年以上の経験を有する専従の常勤社会福祉士1名以上を配置することは困難であるから
06 体制整備にかかる費用に比して、見込める増収が少ないから
07 その他(具体的に)

(4) 患者の受入状況について

問 22	平成 27 年 1 月～6 月の半年間に回復期リハビリテーション病棟への転院受入を打診されたが、 断った、又は受け入れられなかった症例 はありますか。ある場合は その理由 をご回答ください。(複数回答可)
00	断ったことはない
01	患者のADLが低かった
02	患者に意識障害があった
03	重度の認知症であった
04	高次脳機能障害（認知症を除く）があった
05	精神疾患があった
06	患者が高齢であった
07	医学的理由で長期の入院が予想された
08	回復期リハビリテーション病棟での治療・リハビリテーションを要するほど重症ではなかった
09	独居など、自宅の介護力が低く、長期の入院が予想された
10	服用している薬剤が高額だった
11	経鼻経管栄養だった
12	気管切開を受けていた
13	リハビリテーション以外に、多くのまたは高度な医学的管理や処置が必要であった
14	医学的な理由または自宅における介護力以外の理由で、長期の入院が予想された
15	満床でベッドの空く見込みがなかった
16	その他（具体的に
問 23	上記のうち、 最もよくあったものを1つ 選び、番号を記入してください。

4. **入院患者**に対する各種リハビリテーション料に係る項目についてお伺いします。

問 24	脳血管疾患等リハビリテーション料または運動器リハビリテーション料を算定している患者について、平成 27 年 6 月分の実人数をご記入ください。	
1)	脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）	人
①	1)のうち、標準的算定日数を超えた患者	人
②	①のうち、疾患別リハビリテーション料について、治療を継続することにより状態の改善が期待できると医学的に判断される、又は、治療上有効であると医学的に判断される等の理由で、月13単位の算定上限の対象外となっている者	人
③	①のうち、維持期リハ*の患者（=①-②）	人
④	③のうち、要介護被保険者等	人
⑤	④のうち、現時点で在宅等への退院の見込みがあるが、退院後に介護保険でのリハビリテーションに移行することが困難と見込まれる患者（A）	人
2)	脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）	人
⑥	2)のうち、標準的算定日数を超えた患者	人
⑦	⑥のうち、疾患別リハビリテーション料について、治療を継続することにより状態の改善が期待できると医学的に判断される、又は、治療上有効であると医学的に判断される等の理由で、月13単位の算定上限の対象外となっている者	人
⑧	⑥のうち、維持期リハ*の患者（=⑥-⑦）	人
⑨	⑧のうち、要介護被保険者等	人
⑩	⑨のうち、現時点で在宅等への退院の見込みがあるが、退院後に、介護保険でのリハビリテーションに移行することが困難と見込まれる患者（A）	人
3)	運動器リハビリテーション料	人
⑪	3)のうち、標準的算定日数を超えた患者	人
⑫	⑪のうち、疾患別リハビリテーション料について、治療を継続することにより状態の改善が期待できると医学的に判断される、又は、治療上有効であると医学的に判断される等の理由で、月13単位の算定上限の対象外となっている者	人
⑬	⑪のうち、維持期リハ*の患者（=⑪-⑫）	人
⑭	⑬のうち、要介護被保険者等	人
⑮	⑭のうち、現時点で在宅等への退院の見込みがあるが、退院後に、介護保険でのリハビリテーションに移行することが困難と見込まれる患者（A）	人

(※前ページ問 24 の注：本調査では、「維持期リハビリテーション（維持期リハ）」とは、標準的算定日数を超えた患者について、①治療を継続することにより状態の改善が期待できると医学的に判断される場合以外、②患者の疾患、状態等を総合的に勘案し、治療上有効であると医学的に判断される場合以外、で必要があって行われるリハビリテーションのことを指します。平成 27 年 6 月時点で、疾患別リハビリテーションが月 13 単位に限り算定できる状態が該当します。

問 25 問 24 で維持期リハを受けている要介護被保険者等がいる場合で、退院後に介護保険のリハビリテーションに移行することが困難と見込まれる患者がいる場合（(A) の患者：二重線の部分）、その理由は何ですか。該当する番号全てに○をつけてください。（平成 27 年 6 月分）

- 01 患者にとって、要介護認定の申請が負担であるから
- 02 自院・近隣で通所リハを提供していないから
- 03 通所リハではリハビリの質が不明であるから
- 04 患者にとって、医療から介護へ移行することに対する心理的抵抗感が大きいから
- 05 介護保険によるリハビリテーションを利用すると支給限度額を超えるから
- 06 介護保険の事務負担が大きいから
- 07 退院後はリハビリテーションが不要とみられるから
- 08 介護保険によるリハビリテーションを行う場合に想定される場では患者の医学的リスクに対応できないから
- 09 介護保険によるリハビリテーションを行う場合に想定される場では、専門性の観点から、患者にとって医学的に必要なリハビリテーションが提供できないと考えられるから
(→具体的な状態：)
- 10 その他（具体的に)

問 26 上記の問 25 で 04 に該当する患者がいた場合、詳細をご記入ください。（平成 27 年 6 月分）

	年齢	心理的抵抗感の詳細 【選択肢】(複数回答可) 1 介護を受けるとい うことの社会的イ メージ 2 介護のリハビリテー ションの質に対する不安 3 介護サービス利用 者との心理的な壁 4 障害を受容する心 理的抵抗 5 その他(その内容 を具体的にご記入 ください)	主な傷病(1つ) 【選択肢】 1 脳血管疾患 2 廃用症候群 3 外傷 4 外傷以外の 整形外科疾患 5 その他	維持期リ ハとなっ てから3 か月以 内 である 【選択肢】 1 はい 2 いいえ	ADL (可能であればご記入ください)			
					Barthel Index		FIM (運動項目の91点満 点でご記入ください)	
					入院時	現在	入院時	現在
例	55歳	1, 3	1	2	30	60		
①	歳							
②	歳							
③	歳							
④	歳							
⑤	歳							
⑥	歳							
⑦	歳							
⑧	歳							
⑨	歳							
⑩	歳							

※記入欄が不足する場合にはコピーして、ご記入ください。

5. 貴院の外来患者の「維持期リハ」の実施状況等についてお伺いします。

問 27 平成 27 年 6 月の 1 か月間の外来患者数（実人数、貴院の全診療科の合計人数）をご記入ください。		人
--	--	---

問 28 外来患者で、脳血管疾患等リハビリテーション料または運動器リハビリテーション料を算定している患者について、平成 27 年 6 月分の実人数をご記入ください。

1) 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）		人
① 1) のうち、標準的算定日数を超えた患者		人
② ①のうち、疾患別リハビリテーション料について、治療を継続することにより状態の改善が期待できると医学的に判断される、又は、治療上有効であると医学的に判断される等の理由で、月 13 単位の算定上限の対象外となっている者		人
③ ①のうち、維持期リハ*の患者（=①-②）		人
④ ③のうち、要介護被保険者等（B）		人
⑤ ④のうち、介護保険でのリハビリテーションに移行することが困難と見込まれる患者（C）		人
2) 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）		人
⑥ 2) のうち、標準的算定日数を超えた患者		人
⑦ ⑥のうち、疾患別リハビリテーション料について、治療を継続することにより状態の改善が期待できると医学的に判断される、又は、治療上有効であると医学的に判断される等の理由で、月 13 単位の算定上限の対象外となっている者		人
⑧ ⑥のうち、維持期リハ*の患者（=⑥-⑦）		人
⑨ ⑧のうち、要介護被保険者等（B）		人
⑩ ⑨のうち、介護保険でのリハビリテーションに移行することが困難と見込まれる患者（C）		人
3) 運動器リハビリテーション料		人
⑪ 3) のうち、標準的算定日数を超えた患者		人
⑫ ⑪のうち、疾患別リハビリテーション料について、治療を継続することにより状態の改善が期待できると医学的に判断される、又は、治療上有効であると医学的に判断される等の理由で、月 13 単位の算定上限の対象外となっている者		人
⑬ ⑪のうち、維持期リハ*の患者（=⑪-⑫）		人
⑭ ⑬のうち、要介護被保険者等（B）		人
⑮ ⑭のうち、介護保険でのリハビリテーションに移行することが困難と見込まれる患者（C）		人

※本調査では、「維持期リハビリテーション（維持期リハ）」とは、標準的算定日数を超えた患者について、①治療を継続することにより状態の改善が期待できると医学的に判断される場合以外、②患者の疾患、状態等を総合的に勘案し、治療上有効であると医学的に判断される場合以外、が必要があって行われるリハビリテーションのことを指します。平成 27 年 6 月時点で、疾患別リハビリテーションが月 13 単位に限り算定できる状態が該当します。

問 29 問 28 で維持期の要介護被保険者（（B）の患者：点線の部分）のうち、標準算定期間を超えた期間別の人数をご記入ください。						
	3 か月未満	3 か月以上 1 年未満	1 年以上 2 年未満	2 年以上 3 年未満	3 年以上 5 年未満	5 年以上
1) 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）	人	人	人	人	人	人
2) 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）	人	人	人	人	人	人
3) 運動器リハビリテーション料	人	人	人	人	人	人

問 30 問 28 で維持期リハを受けている要介護被保険者等がいる場合で、介護保険のリハビリテーションに移行することが困難と見込まれる患者がいる場合（(C) の患者：二重線の部分）、その理由は何ですか。該当する番号全てに○をつけてください。

- 01 患者にとって、要介護認定の申請が負担であるから
- 02 自院・近隣で通所リハを提供していないから
- 03 通所リハではリハビリの質が不明であるから
- 04 患者にとって、医療から介護へ移行することに対する心理的抵抗感が大きいから
- 05 介護保険によるリハビリテーションを利用すると支給限度額を超えるから
- 06 介護保険の事務負担が大きいから
- 07 介護保険によるリハビリテーションを行う場合に想定される場では患者の医学的リスクに対応できないから
- 08 介護保険によるリハビリテーションを行う場合に想定される場では、専門性の観点から、患者にとって医学的に必要なリハビリテーションが提供できないと考えられるから
(→具体的な状態：)
- 09 その他（具体的に)

問 31 問 30 で 04 に該当する患者がいた場合、**詳細**をご記入ください。

	年齢	心理的抵抗感の詳細 【選択肢】(複数回答可) 1 介護を受けるとい うことの社会的イ メージ 2 介護のリハビリテー ションの質に対する不安 3 介護サービス利用 者との心理的な壁 4 障害を受容する心 理的抵抗 5 その他(その内容 を具体的にご記入く ださい)	主な傷病(1つ) 【選択肢】 1 脳血管疾患 2 廃用症候群 3 外傷 4 外傷以外の 整形外科疾患 5 その他	維持期リ ハとなっ てから3 か月以内 である 【選択肢】 1 はい 2 いいえ	ADL(可能であればご記入ください)			
					Barthel Index		FIM (運動項目の91点満 点でご記入ください)	
					外来リハ 開始時	現在	外来リハ 開始時	現在
①	歳							
②	歳							
③	歳							
④	歳							
⑤	歳							
⑥	歳							
⑦	歳							
⑧	歳							
⑨	歳							
⑩	歳							

※記入欄が不足する場合にはコピーして、ご記入ください。

6. 貴院における通所リハの実施状況についてお伺いします。

問 32 平成 25 年 6 月と平成 27 年 6 月の通所リハの実施の有無、実施日数、利用者延べ数*をご記入ください。

	平成 25 年 6 月		平成 27 年 6 月	
1) 通所リハの実施の有無	01 有	02 無	01 有	02 無
2) 通所リハの実施日数		日		日
3) 通所リハの利用者延べ数*		人		人

※利用者延べ数は、例えば 1 人の利用者が 6 月中に 5 回利用した場合は 5 人として計算してください。

≪問 33 は平成 27 年 6 月 30 日時点で、通所リハを実施していない場合にご回答ください≫

問 33 今後、通所リハを開設する意向はありますか。

01 有

02 無

03 わからない

問 34 通所リハを開設する意向がない理由として該当するもの全てに○をつけてください。

- 01 通所リハに専従する人員を確保できない
- 02 外来の医師の負担が重くなる
- 03 通所リハのために別途場所の確保が必要となる
- 04 通所リハの報酬では採算がとれない
- 05 利用者の送迎体制を整えることが困難
- 06 ケアマネジャーとの連携をとることが負担
- 07 介護報酬の請求事務の負担が大きい
- 08 患者にとって、医療から介護へ移行することに対する心理的抵抗感が大きい
- 09 患者にとって要介護認定の申請が負担である
- 10 みなし指定を受ける方法がわからない
- 11 医師にとって、通所リハを実施することに対する心理的抵抗感が大きい
- 12 その他 ()

7. 最後に、本調査に関連した事項でご意見等がございましたら、ご自由にご記入ください。

設問は以上です。ご協力まことにありがとうございました。

平成26年度診療報酬改定の結果検証に係る調査（平成27年度調査）

リハビリテーションの実施状況調査 診療所票

※ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、（ ）内には具体的な数値、用語等をお書きください。（ ）内に数値を記入する設問で、該当なしは「0（ゼロ）」を、わからない場合は「-」をお書きください。

※特に断りのない場合は、平成27年6月30日時点の状況についてお書きください。

※本調査では、「維持期リハビリテーション（維持期リハ）」とは、標準的算定日数を超えた患者について、①治療を継続することにより状態の改善が期待できると医学的に判断される場合以外、②患者の疾患、状態等を総合的に勘案し、治療上有効であると医学的に判断される場合以外、が必要があって行われるリハビリテーションのことを指します。平成27年6月時点で、疾患別リハビリテーションが月13単位に限り算定できる状態が該当します。

1. 貴院の概要についてお伺いします。

貴院名をご記入ください			
所在地をご記入ください	（ ）都・道・府・県		
問1 貴院の 開設者 について該当するものを1つお選びください。			
01 医療法人 02 個人 03 その他（ ）			
問2 貴院の同一法人（法人が異なっても実質的に同一経営の場合も含む）が、同一又は隣接の敷地内で運営している 介護施設・事業所 として該当するものを全てお選びください。			
01 介護老人福祉施設	09 通所リハビリテーション（通所リハ）事業所		
02 介護老人保健施設	10 短期入所生活介護事業所		
03 訪問介護事業所	11 短期入所療養介護事業所		
04 訪問入浴介護事業所	12 特定施設入居者生活介護事業所		
05 訪問看護事業所（06以外）	13 居宅介護支援事業所		
06 訪問看護ステーション	14 小規模多機能型居宅介護事業所		
07 訪問リハビリテーション事業所	15 認知症対応型共同生活介護事業所		
08 通所介護事業所	16 その他（具体的に ）		
問3 貴院において平成27年6月30日時点で従事している 職員数 をご記入ください。常勤職員については実人数、非常勤については常勤換算数 ^{※1} を記載してください。			
	常 勤（実人数）	非 常 勤（常勤換算 ^{※1} ）	
1) 医 師		人	人
【再掲】日本リハビリテーション医学会のリハビリテーション科専門医		人	人
2) 理学療法士		人	人
3) 作業療法士		人	人
4) 言語聴覚士		人	人
5) ソーシャルワーカー ^{※2}		人	人
【再掲】社会福祉士の資格保有者		人	人

※1. **非常勤職員の常勤換算の計算方法**

貴院の1週間の所定労働時間を基本として、下記のように常勤換算して小数点第1位まで（小数点第2位を切り上げ）ご記入ください。

例：1週間の所定労働時間が40時間の病院で、週4日（各日5時間）勤務の医師が1人いる場合

$$\text{非常勤職員数} = \frac{4 \text{日} \times 5 \text{時間} \times 1 \text{人}}{40 \text{時間}} = 0.5 \text{人}$$

※2. **ソーシャルワーカー**とは、患者等が地域や家庭において自立した生活を送ることができるよう、患者や家族の抱える心理的・社会的な問題の解決・調整を援助し、社会復帰の促進を図るための業務の従事者のことをいいます。

問4 貴院は 病床 を有していますか。	01 有➡ () 床	02 無
問5 貴院で平成27年6月30日時点に届出を行っている リハビリテーション料等 について、該当する全てに○をつけてください。		
01 心大血管疾患リハビリテーション料 (I)	02 心大血管疾患リハビリテーション料 (II)	
03 脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)	04 脳血管疾患等リハビリテーション料 (II)	05 脳血管疾患等リハビリテーション料 (III)
06 運動器リハビリテーション料 (I)	07 運動器リハビリテーション料 (II)	08 運動器リハビリテーション料 (III)
09 呼吸器リハビリテーション料 (I)	10 呼吸器リハビリテーション料 (II)	
11 がん患者リハビリテーション料	12 障害児 (者) リハビリテーション料	13 認知症患者リハビリテーション料
14 難病患者リハビリテーション料	15 摂食機能療法	

2. 貴院の**外来患者**の維持期リハの実施状況等についてお伺いします。

問6 平成27年6月の1か月間の 外来患者数 をご記入ください。		人
問7 外来患者で、脳血管疾患等リハビリテーション料または運動器リハビリテーション料を算定している患者について、平成27年6月分の実人数 をご記入ください。		
1) 脳血管疾患等リハビリテーション料 (廃用症候群以外)		人
① 1)のうち、標準的算定日数を超えた患者		人
② ①のうち、疾患別リハビリテーション料について、治療を継続することにより状態の改善が期待できると医学的に判断される、又は、治療上有効であると医学的に判断される等の理由で、月13単位の算定上限の対象外となっている者		人
③ ①のうち、維持期リハ*の患者 (=①-②)		人
④ ③のうち、要介護被保険者等 (A)		人
⑤ ④のうち、介護保険でのリハビリテーションに移行することが困難と見込まれる患者 (B)		人
2) 脳血管疾患等リハビリテーション料 (廃用症候群)		人
⑥ 2)のうち、標準的算定日数を超えた患者		人
⑦ ⑥のうち、疾患別リハビリテーション料について、治療を継続することにより状態の改善が期待できると医学的に判断される、又は、治療上有効であると医学的に判断される等の理由で、月13単位の算定上限の対象外となっている者		人
⑧ ⑥のうち、維持期リハ*の患者 (=⑥-⑦)		人
⑨ ⑧のうち、要介護被保険者等 (A)		人
⑩ ⑨のうち、介護保険でのリハビリテーションに移行することが困難と見込まれる患者 (B)		人
3) 運動器リハビリテーション料		人
⑪ 3)のうち、標準的算定日数を超えた患者		人
⑫ ⑪のうち、疾患別リハビリテーション料について、治療を継続することにより状態の改善が期待できると医学的に判断される、又は、治療上有効であると医学的に判断される等の理由で、月13単位の算定上限の対象外となっている者		人
⑬ ⑪のうち、維持期リハ*の患者 (=⑪-⑫)		人
⑭ ⑬のうち、要介護被保険者等 (A)		人
⑮ ⑭のうち、介護保険でのリハビリテーションに移行することが困難と見込まれる患者 (B)		人

※本調査では、「**維持期リハビリテーション (維持期リハ)**」とは、標準的算定日数を超えた患者について、①治療を継続することにより状態の改善が期待できると医学的に判断される場合以外、②患者の疾患、状態等を総合的に勘案し、治療上有効であると医学的に判断される場合以外、必要があつて行われるリハビリテーションのことを指します。平成27年6月時点で、疾患別リハビリテーションが月13単位に限り算定できる状態が該当します。

問8 問7で維持期の要介護被保険者((A)の患者:点線の部分)について、標準算定期間を超えた期間別の人数をご記入ください。						
	3か月未満	3か月以上 1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上
1) 脳血管疾患等リハビリテーション料 (廃用症候群以外)	人	人	人	人	人	人
2) 脳血管疾患等リハビリテーション料 (廃用症候群)	人	人	人	人	人	人
3) 運動器リハビリテーション料	人	人	人	人	人	人

問9 問7で維持期リハを受けている要介護被保険者等がいる場合で、介護保険のリハビリテーションに移行することが困難と見込まれる患者がいる場合((B)の患者:二重線の部分)、その理由は何ですか。該当する番号全てに○をつけてください。

- 01 患者にとって、要介護認定の申請が負担であるから
- 02 自院・近隣で通所リハを提供していないから
- 03 通所リハではリハビリの質が不明であるから
- 04 患者にとって、医療から介護へ移行することに対する心理的抵抗感が大きいから
- 05 介護保険によるリハビリテーションを利用すると支給限度額を超えるから
- 06 介護保険の事務負担が大きいから
- 07 介護保険によるリハビリテーションを行う場合に想定される場では患者の医学的リスクに対応できないため
- 08 介護保険によるリハビリテーションを行う場合に想定される場では、専門性の観点から、患者にとって医学的に必要なリハビリテーションが提供できないと考えられるから
(→具体的な状態:)
- 09 その他(具体的に)

問10 問9で04に該当する患者がいた場合、詳細をご記入ください。

	年齢	心理的抵抗感の詳細 【選択肢】(複数回答可) 1 介護を受けるとい うことの社会的イ メージ 2 介護のリハビリテー ションの質に対する不安 3 介護サービス利用者 との心理的な壁 4 障害を受容する心 理的抵抗 5 その他(その内容を 具体的にご記入くだ さい)	主な傷病(1つ) 【選択肢】 1 脳血管疾患 2 廃用症候群 3 外傷 4 外傷以外の 整形外科疾患 5 その他	維持期リ ハとなっ てから3 か月以内 である 【選択肢】 1 はい 2 いいえ	ADL(可能であればご記入ください)			
					Barthel Index		FIM (運動項目の91点満 点でご記入ください)	
					外来リハ 開始時	現在	外来リハ 開始時	現在
例	55歳	1, 3	1	2	30	60		
①	歳							
②	歳							
③	歳							
④	歳							
⑤	歳							
⑥	歳							
⑦	歳							
⑧	歳							
⑨	歳							
⑩	歳							

※記入欄が不足する場合にはコピーして、ご記入ください。

3. 貴院における通所リハの実施状況についてお伺いします。

問 11 平成 25 年 6 月と平成 27 年 6 月の通所リハの実施の有無、実施日数、利用者延べ数[※]をご記入ください。

	平成 25 年 6 月		平成 27 年 6 月	
	01 有	02 無	01 有	02 無
1) 通所リハの実施の有無				
2) 通所リハの実施日数		日		日
3) 通所リハの利用者延べ数 [※]		人		人

※利用者延べ数は、例えば 1 人の利用者が 6 月中に 5 回利用した場合は 5 人として計算してください。

《問 12 は平成 27 年 6 月 30 日時点で、通所リハを実施していない場合にご回答ください》

問 12 今後、通所リハを開設する意向はありますか。

01 有

02 無

03 わからない

問 13 通所リハを開設する意向がない理由として該当するもの全てに○をつけてください。

- 01 通所リハに専従する人員を確保できない
- 02 外来の医師の負担が重くなる
- 03 通所リハのために別途場所の確保が必要となる
- 04 通所リハの報酬では採算がとれない
- 05 利用者の送迎体制を整えることが困難
- 06 ケアマネジャーとの連携をとることが負担
- 07 介護報酬の請求事務の負担が大きい
- 08 患者にとって、医療から介護へ移行することに対する心理的抵抗感が大きい
- 09 患者にとって要介護認定の申請が負担である
- 10 みなし指定を受ける方法がわからない
- 11 医師にとって、通所リハを実施することに対する心理的抵抗感が大きい
- 12 その他（具体的に _____)

4. 最後に、本調査に関連した事項でご意見等がございましたら、ご自由にご記入ください。

設問は以上です。ご協力まことにありがとうございました。

平成26年度診療報酬改定の結果検証に係る調査（平成27年度調査）
リハビリテーションの実施状況調査 一般病棟票

※ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、（ ）内には**具体的な数値、用語等**をお書きください。
 （ ）内に数値を記入する設問で、該当なしは「0（ゼロ）」を、わからない場合は「-」をお書きください。
 ※特に断りのない場合は、平成27年6月30日時点の状況についてお書きください。

（1）病棟の概要についておうかがいします

問1 貴棟で 算定している診療報酬 として該当するものいずれかに○をつけてください。 なお、いずれにも該当しない場合は、本調査の対象病棟ではありません。			
01 一般病棟 7対1 入院基本料	02 一般病棟 10対1 入院基本料	03 特定機能病院一般病棟 7対1 入院基本料	04 特定機能病院一般病棟 10対1 入院基本料
05 専門病院 7対1 入院基本料	06 専門病院 10対1 入院基本料		
問2 貴棟の 病床数 をご記入ください。（平成27年6月30日時点）		<input style="width: 90%;" type="text"/>	床
問3 貴棟の平成25年6月、平成27年6月時点の 平均在院日数 と 在宅復帰率 をご記入ください。			
	平成25年6月	平成27年6月	
1) 平均在院日数*	<input style="width: 80%;" type="text"/> 日	<input style="width: 80%;" type="text"/> 日	
2) 在宅復帰率	<input style="width: 80%;" type="text"/> %	<input style="width: 80%;" type="text"/> %	

※**平均在院日数**は、該当の病床に入院していた患者について、以下の式に基づき、小数点第2位を切り上げ小数点第1位までご記入ください。

$$\text{平均在院日数} = \frac{\text{6月中の在院患者延数}}{\text{(6月中の新入院患者数+6月中の退院患者数)} \times 0.5}$$

※**在宅復帰率**は、1月1日～6月30日までの期間について、退院患者のうち、自宅、他院の回復期リハ病棟、他院の地域包括ケア病棟（病室）、他院の療養病床（在宅復帰機能強化加算を届け出ている病棟に限る）、居住系介護施設または介護老人保健施設（在宅強化型介護老人保健施設または在宅復帰・在宅療養視線機能加算を届け出ている場合に限る）に退院した者の割合をご記入ください。自院への転棟症例は計算には含めません。

（2）ADL維持向上等体制加算についておうかがいします

問4 貴棟は ADL維持向上等体制加算 を届け出ていますか。（平成27年6月分）	
01 有	02 無（⇒問5へ進んでください）
問4-1（問4で01と回答した場合）加算を届け出ることにより、病棟スタッフのリハビリテーションに対する 意識の変化 はありましたか。	
01 有⇒具体的に（ <input style="width: 60%;" type="text"/> ）	
02 無	
問4-2 加算の届出に当たり、 いずれの職種を常勤専従で配置 していますか。（複数回答可）	
01 理学療法士 02 作業療法士 03 言語聴覚士	
問4-3 常勤専従で配置されたリハビリ職員が行っている 業務 として当てはまるもの全てに○をつけてください。（複数回答可）	
01 患者本人への訓練・指導	
02 離床の促進	
03 疾患別リハビリテーションを必要とする患者の洗い出し、他の職種への提案	
04 入院患者のADL能力に関するスタッフ間の情報共有	
05 病棟生活中に起こりうるリスクに関するスタッフ間の情報共有	
06 退院先の環境の把握	
07 退院後に起こりうるリスクに関するスタッフ間の情報共有	
08 転棟・転落リスクを減らす病棟環境整備	
09 看護、介護方法の他の職種への提案	
10 決まっていない、検討中	

(3) 在棟患者の状況等についておうかがいします

問5 ①貴棟の 在棟患者数 をご記入ください。(平成27年6月30日0時時点)		人										
②貴棟の在棟患者のうち、「疾患別リハビリテーション ^{注2} 」、「摂食機能療法」、「難病患者リハビリテーション」、「障害児(者)リハビリテーション」、「がん患者リハビリテーション」、「認知症患者リハビリテーション」の いずれのリハビリテーションも提供されていない患者数 をご記入ください。		人										
③②の患者について、 リハビリテーションを提供されていない理由別に、重症度、医療・看護必要度の「患者の状態等」(B得点)の得点別にあてはまる人数 を記載してください。												
	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	11点	12点
1) 届け出ているリハビリテーション料の対象ではない												
2) 1)には当てはまらないが、医学的理由でリハビリテーションを実施することが不相当である												
3) 1)及び2)には当てはまらないが、家族・本人の希望でリハビリテーションが実施できない												
4) その他 (具体的に：)												

注1：③のすべての欄の人数の合計が②の人数と一致することをご確認ください。

注2：「疾患別リハビリテーション」とは「心大血管リハビリテーション」「脳血管疾患等リハビリテーション」「運動器リハビリテーション」「呼吸器リハビリテーション」のことです。

(4) 患者の嚥下機能の維持、向上等についておうかがいします

問6 在院患者の 嚥下機能の維持、向上に係る取り組み について、当てはまるものに全てに○をつけてください。
01 医師、看護師、言語聴覚士等が、患者の嚥下機能低下を共通の方法でスクリーニングしている
02 嚥下機能の低下が疑われる患者に対して嚥下造影検査や内視鏡下嚥下機能検査を行い、嚥下機能（誤嚥や咽頭残留など）の評価を行っている
03 摂食・嚥下障害看護の認定看護師が病棟の入院患者の摂食・嚥下機能の評価、誤嚥性肺炎等の予防、摂食・嚥下訓練の方法の選択等に参加している
04 必要に応じて、ベッドサイドにおける嚥下障害の評価を依頼することができる
05 嚥下機能障害を有する患者に対して、口腔清掃を指導あるいは介助している
06 嚥下機能障害を有する患者に対して、摂食機能療法（口腔ケア以外）を実施している
07 嚥下機能の低下した患者に対し、誤嚥しにくいように物性を調整した嚥下調整食を提供している →〔07-1 一般食を砕くなどした食事（ミキサー食等）やゼリー食を提供している〕 〔07-2 外見、風味等、食欲にも配慮した別の献立や調理法により、嚥下調整食を提供している〕
08 嚥下について多職種が参加するカンファレンスを定期的開催している
09 退院後も嚥下しやすい、誤嚥に配慮した食事がとれるよう、調理方法等を指導している
10 食事の摂取方法（食事の姿勢、食器の工夫、介助方法）を指導している
11 退院時に、患者にあった口腔清掃の方法や意義を説明して指導している
12 その他（具体的に)
13 特になし

問7 貴棟は、摂食機能療法の経口摂取回復促進加算の届出をしていますか。

01 届出をしていない 02 届出をしている

問8 届出をしていない理由として、当てはまるもの全てに○をつけてください。

01 摂食機能療法の対象となる患者が少ないから。

02 鼻腔栄養を実施している患者や胃瘻を造設している患者が少ないから。

03 経口摂取回復率 35%以上を達成することが困難と思われるから

→ 03-1 嚥下機能の低下が進行する疾患の患者が多いから)
 ↳ (具体的に)

03-2 症状が固定し嚥下機能の回復が期待できない患者が多いから)
 03-3 摂食機能療法を実施すること自体が困難な患者が多いから)
 03-4 その他 (具体的に)

04 経口摂取回復率の計算に必要なデータを収集することが困難であるため)
 (具体的に)

05 摂食機能療法専従の常勤言語聴覚士を1名以上配置できないから)

06 月に1回以上、医師、歯科医師、言語聴覚士等の多職種によるカンファレンスを行えないから)

07 月に1回以上、嚥下造影検査又は内視鏡下嚥下機能検査を実施できないから)

08 検査機器等の設備を揃えることが難しいから)

09 摂食機能療法を行う職員の確保が難しいから)

10 見込める増収が少ないから)

11 その他 (具体的に)

12 特になし)

問8-1 上記のうち、届出をしていない最大の理由を1つ選び、番号を記入してください。

(5) 患者への予後等の説明や退院時の支援等についておうかがいします

問9 退院予定患者について、行っている取り組み全てを選んでください。(複数回答可)

01 要支援・要介護認定の有無を確認している

11 認定を受けていない場合には要支援・要介護状態であるかを確認している

12 認定を受けている場合には、介護支援専門員の有無を確認している

13 認定を受けている場合にはケアプランの内容を確認している

14 認定を受けていて介護支援専門員がいる場合には連絡をして、現在の状態や退院後に必要と思われる介護について連絡している

02 退院後に自院以外がリハビリテーションを提供する予定がある場合に、現在のADLの評価、リハビリテーションの目標等について伝えている

21 現在のADLの評価、リハビリテーションの目標等を伝えるにあたり、文書の送付のみならず、退院後にリハビリテーションを提供する施設等の職員、及び患者または患者家族を交えたカンファレンスを開催している

問10 リハビリテーション総合計画書を作成し、その内容を患者に説明する際、**身体機能やADLの予後の見通しを説明に含めていますか。**

01 ほとんどの場合で含める 02 どちらかといえば含める 03 どちらかといえば含めない

04 ほとんどの場合で含めない 05 通常はリハビリテーション総合計画書を作成しない

問10-1 (問10で、01、02を回答した場合) その場合、**主に誰が説明**しますか。(主な1つに○)

01 医師 02 看護師 03 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士 04 社会福祉士

05 その他 (具体的に :) 06 特に決まっていない

問 11 平成 27 年 1 月～6 月の半年間に、「回復期リハビリテーション病棟」に転院受け入れを打診したが、**断られた症例**はありましたか。ある場合は、該当の理由を全てご回答ください。

01 打診したことがない	12 服用している薬剤が高額だった
02 打診したが断られたことはない	13 経鼻経管栄養だった
03 患者のADLが低かった	14 気管切開を受けていた
04 患者に意識障害があった	15 リハビリテーション以外に、多くのまたは高度な医学的管理や処置が必要であった
05 重度の認知症であった	16 医学的な理由または自宅における介護力以外の理由で、長期の入院が予想された
06 高次脳機能障害（認知症を除く）があった	17 満床でベッドの空く見込みがなかった
07 精神疾患があった	18 その他
08 患者が高齢だった	（具体的に：）
09 医学的理由で長期の入院が予想された	
10 回復期リハビリテーション病棟での治療・リハビリテーションを要するほど重症ではなかった	19 分からない
11 独居など、自宅の介護力が低く、長期の入院が予想された	

問 11-1 上記のうち、**最もよくあったものを1つ**選び、番号を記入してください。

問 12 平成 27 年 1 月～6 月の半年間に、**回復期リハビリテーション病棟への転院の適応**と考えられたが、**紹介しなかった（できなかった）症例**はありましたか。ある場合は該当の理由を全てご回答ください。

00 そのような症例はない	06 在宅復帰が見込めそうにないから
01 過去に同様の事例で断られた例が多数あったため	07 老人保健施設等、他の施設もリハビリテーションができるから
02 患者、家族の希望	08 その他
03 周辺に回復期リハビリテーション病棟を持つ医療機関がなかったため	（具体的に：）
04 待機時間が長いから	
05 高額な薬剤や治療の必要があるから	09 分からない

問 12-1 上記のうち、**最もよくあったものを1つ**選び、番号を記入してください。

問 13 平成 27 年 1 月～6 月の半年間に、「**地域包括ケア病棟**」に転院受け入れを打診したが、**断られた症例**はありましたか。ある場合は、該当の理由を全てご回答ください。

01 打診したことがない（周辺の地域包括ケア病棟を知らない／知っているが打診したことがない）	11 服用している薬剤が高額だった
02 打診したが断られたことはない	12 経鼻経管栄養だった
03 患者のADLが低かった	13 気管切開を受けていた
04 患者に意識障害があった	14 多くのまたは高度な医学的管理や処置が必要であった
05 重度の認知症であった	15 医学的な理由または自宅における介護力以外の理由で、長期の入院が予想された
06 高次脳機能障害（認知症を除く）があった	16 満床でベッドの空く見込みがなかった
07 精神疾患があった	17 その他
08 患者が高齢だった	（具体的に：）
09 医学的理由で長期の入院が予想された	
10 独居など、自宅の介護力が低く、長期の入院が予想された	18 分からない

問 13-1 上記のうち、**最もよくあったものを1つ**選び、番号を記入してください。

設問は以上です。ご協力まことにありがとうございました。

平成26年度診療報酬改定の結果検証に係る調査（平成27年度調査）
リハビリテーションの実施状況調査 回復期リハ病棟票

※ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、（ ）内には具体的な数値、用語等をお書きください。（ ）内に数値を記入する設問で、該当なしは「0（ゼロ）」を、わからない場合は「-」をお書きください。

※特に断りのない場合は、平成27年6月30日時点の状況についてお書きください。

（1）貴棟の概要についておうかがいします

問1 貴棟で届出している診療報酬として該当するもの1つに○をつけてください。			
01 回復期リハビリテーション病棟入院料1			
02 回復期リハビリテーション病棟入院料2			
03 回復期リハビリテーション病棟入院料3			
問2 貴棟の医療法上の病床種別として、該当するいずれかに○をつけてください。			
01 一般病床		02 療養病床	
問3 貴棟が算定した加算として該当するものに○をつけてください。（平成27年6月分）（複数回答可）			
01 体制強化加算		02 リハビリテーション総合計画評価料 入院時訪問指導加算	
問4 貴棟の病床数をご記入ください。（平成27年6月30日時点）			床
問5 貴棟の平成25年6月、平成27年6月時点の平均在院日数 ^{※1} と在宅復帰率 ^{※2} 、ADLが向上した重症患者の割合 ^{※3} をご記入ください。			
	平成25年6月	平成27年6月	
1) 平均在院日数 ^{※1}	日	日	
2) 在宅復帰率 ^{※2}	%	%	
3) ADLが向上した重症患者の割合 ^{※3}	%	%	

※1 平均在院日数は、該当の病床に入院していた患者について、以下の式に基づき、小数点第2位を切り上げ小数点第1位までご記入ください。

$$\text{平均在院日数} = \frac{\text{6月中の在院患者延数}}{(\text{6月中の新入院患者数} + \text{6月中の退院患者数}) \times 0.5}$$

※2 在宅復帰率は1月1日～6月30日までの期間について、退院患者（死亡退院、再入院患者、病状の急性増悪等により他の保険医療機関での治療が必要になり転院し患者を除く）のうち、自宅、居住系介護施設等に退院した患者の割合をご記入ください。

※3 ADLが向上した重症患者の割合は、7月1日～6月30日までの期間についてご記入ください。ただし、新規に回復期リハビリテーション病棟入院料の届け出を行うなど、1年に満たない場合には、その届出日以降の期間の結果について記入してください。

$$\text{重症患者回復率} = \frac{\text{分母のうち、退院時（転院時を含む）に日常生活機能評価が3点以上改善した人数}}{\text{1年間の退院患者のうち、入院時に日常生活機能評価が10点以上の重症患者の数}}$$

(2) 患者への予後等の説明や退院時の支援等についておうかがいします

問6 退院予定患者について、行っている取り組みをいくつでも選んでください。(複数回答可)	
01 要支援・要介護認定の有無を確認している	
11 認定を受けていない場合には要支援・要介護状態であるかを確認している	
12 認定を受けている場合には、介護支援専門員の有無を確認している	
13 認定を受けている場合にはケアプランの内容を確認している	
14 認定を受けていて介護支援専門員がいる場合には連絡をして、現在の状態や退院後に必要と思われる介護について連絡している	
02 退院後に自院以外がリハビリテーションを提供する予定がある場合に、現在のADLの評価、リハビリテーションの目標等について伝えている	
21 現在のADLの評価、リハビリテーションの目標等を伝えるにあたり、文書の送付のみならず、退院後にリハビリテーションを提供する施設等の職員、及び患者または患者家族を交えたカンファレンスを開催している	
03 退院後に自院の外来や訪問診療等でフォローアップしない患者についても、退院後、一定期間後に居宅を訪問する等によって予後を確認している	
問7 リハビリテーション総合計画書を作成し、その内容を患者に説明する際、 身体機能やADLの予後の見通しを説明に含めていますか。	
01 ほとんどの場合で含める	02 どちらかといえば含める
03 どちらかといえば含めない	
04 ほとんどの場合で含めない	05 通常はリハビリテーション総合計画書を作成しない
問7-1 (問7で、01、02を回答した場合) その場合、 主に誰が説明 しますか。(主な1つに○)	
01 医師	02 看護師
03 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士	04 社会福祉士
05 その他(具体的に:)	06 特に決まっていない

(3) 患者の状況等についておうかがいします

問8 1) 貴棟の 在棟患者数 をご記入ください。(平成27年6月30日0時時点) ※2) -1及び3)の①~⑧、5)の①~⑦、6)①~⑦のそれぞれの合計人数と一致しているかをご確認ください。		人
2) 貴棟の在棟患者のうち、 回復期リハビリテーション病棟入院料を算定 している人数をご記入ください。		人
2) -1 2) で記載した回復期リハビリテーション病棟入院料を 算定している患者 について、①~⑤のいずれかに計上してください。		
脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント手術後、脳腫瘍、		
① 脳炎、急性脳症、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷等の発症後若しくは手術後の状態又は義肢装着訓練を要する状態		人
② 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節若しくは膝関節の骨折又は二肢以上の多発骨折の発症後又は手術後の状態		人
③ 外科手術又は肺炎等の治療時の安静により廃用症候群を有しており、手術後又は発症後の状態		人
④ 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の神経、筋又は靭帯損傷後の状態		人
⑤ 股関節又は膝関節の置換術後の状態		人
3) 回復期リハビリテーション病棟入院料を 算定していない患者 について、⑥~⑧のいずれかに計上してください。		
⑥ 上記2) -1の①~⑤以外の状態		人
⑦ 上記2) -1の①~⑤の状態に当てはまるが、入院時点で発症等から時間が経っており、回復期リハビリテーション病棟入院料を算定できなかった		人
⑧ 入院時は回復期リハビリテーション病棟入院料を算定していたが、入院期間が長期となり算定できなくなった		人

4) 2) - 1の③に計上した患者について、対象となるリハビリテーション料について①～⑦のいずれかに計上してください。						
① 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）					人	
② 心大血管疾患リハビリテーション料					人	
③ 運動器リハビリテーション料					人	
④ 呼吸器リハビリテーション料					人	
⑤ 障害児（者）リハビリテーション料					人	
⑥ がん患者リハビリテーション料					人	
⑦ 上記①～⑥に該当しない					人	
5) 摂食・嚥下障害の臨床的重症度*に関する分類別人数をご記入ください。						
誤嚥あり				誤嚥なし		
① 唾液誤嚥	② 食物誤嚥	③ 水分誤嚥	④ 機会誤嚥	⑤ 口腔問題	⑥ 軽度問題	⑦ 正常範囲
人	人	人	人	人	人	人

【※摂食・嚥下障害の臨床的重症度の定義】

- ① 唾液誤嚥：唾液を含めてすべてを誤嚥し、呼吸状態が不良、あるいは、嚥下反射が全く惹起されず、呼吸状態が不良
- ② 食物誤嚥：あらゆるものを誤嚥し嚥下できないが、呼吸状態は安定
- ③ 水分誤嚥：水分を誤嚥するが、工夫した食物は誤嚥しない
- ④ 機会誤嚥：時々、誤嚥する、もしくは咽頭残留が著名で臨床上誤嚥が疑われる
- ⑤ 口腔問題：誤嚥はないが、主として口腔期障害により摂食に問題がある
- ⑥ 軽度問題：主観的問題を含めなんらかの問題がある
- ⑦ 正常範囲：臨床的に問題なし

6) 食事の状態別患者数：在棟患者について、①～⑦のいずれか近いもの1つに計上してください。		
① 全量経口栄養の患者：胃瘻なし		人
② 全量経口栄養の患者：胃瘻はあるが過去1か月使っていない		人
③ 主に経口栄養の患者		人
④ 主に経管栄養の患者：経鼻胃経管栄養法		人
⑤ 主に経管栄養の患者：間欠的経管栄養法		人
⑥ 主に胃瘻栄養の患者		人
⑦ 主に経静脈栄養の患者		人

問 9 在院患者の嚥下機能の維持、向上に係る取り組みについて、当てはまるものに全てに○をつけてください。

- 01 医師、看護師、言語聴覚士等が、患者の嚥下機能低下を共通の方法でスクリーニングしている
- 02 嚥下機能の低下が疑われる患者に対して嚥下造影検査や内視鏡下嚥下機能検査を行い、嚥下機能（誤嚥や咽頭残留など）の評価を行っている
- 03 摂食・嚥下障害看護の認定看護師が病棟の入院患者の摂食・嚥下機能の評価、誤嚥性肺炎等の予防、摂食・嚥下訓練の方法の選択等に参加している
- 04 必要に応じて、ベッドサイドにおける嚥下障害の評価を依頼することができる
- 05 嚥下機能障害を有する患者に対して、口腔清掃を指導あるいは介助している
- 06 嚥下機能障害を有する患者に対して、摂食機能療法（口腔ケア以外）を実施している
- 07 嚥下機能の低下した患者に対し、誤嚥しにくいように物性を調整した嚥下調整食を提供している
→〔07-1 一般食を砕くなどした食事（ミキサー食等）やゼリー食を提供している〕
〔07-2 外見、風味等、食欲にも配慮した別の献立や調理法により、嚥下調整食を提供している〕
- 08 嚥下について多職種が参加するカンファレンスを定期的で開催している
- 09 退院後も嚥下しやすい、誤嚥に配慮した食事がとれるよう、調理方法等を指導している
- 10 食事の摂取方法（食事の姿勢、食器の工夫、介助方法）を指導している
- 11 退院時に、患者にあった口腔清掃の方法や意義を説明して指導している
- 12 その他（具体的に)
- 13 特になし

問 10 貴棟は、摂食機能療法の経口摂取回復促進加算の届出をしていますか。

- 01 届出をしていない 02 届出をしている

問 11 届出をしていない理由として、当てはまるもの全てに○をつけてください。

- 01 摂食機能療法の対象となる患者が少ないから。
- 02 鼻腔栄養を実施している患者や胃瘻を造設している患者が少ないから。
- 03 経口摂取回復率 35%以上を達成することが困難と思われるから
→〔03-1 嚥下機能の低下が進行する疾患の患者が多いから〕
 ↳（具体的に)
〔03-2 症状が固定し嚥下機能の回復が期待できない患者が多いから〕
〔03-3 摂食機能療法を実施すること自体が困難な患者が多いから〕
〔03-4 その他（具体的に)〕
- 04 経口摂取回復率の計算に必要なデータを収集することが困難であるため
（具体的に)
- 05 摂食機能療法専従の常勤言語聴覚士を1名以上配置できないから
- 06 月に1回以上、医師、歯科医師、言語聴覚士等の多職種によるカンファレンスを行えないから
- 07 月に1回以上、嚥下造影検査又は内視鏡下嚥下機能検査を実施できないから
- 08 検査機器等の設備を揃えることが難しいから
- 09 摂食機能療法を行う職員の確保が難しいから
- 10 見込める増収が少ないから
- 11 その他（具体的に)
- 12 特になし

問 11-1 上記のうち、届出をしていない最大の理由を1つ選び、番号を記入してください。

問 12 平成 27 年 1 月に貴棟に入棟した患者で、入棟時に回復期リハビリテーション病棟入院料を算定していた患者で、かつ疾患別リハビリテーションを実施し、リハビリテーション総合計画評価料を算定している者、または廃用症候群の者についてご記入ください。(既に退院した患者も調査の対象です。)

①入棟日 ※1月の場合のみ調査対象者です	②退院月日 入院継続中の場合は、空欄のままにしてください			③年齢 (入棟時点)	④最初の計画書の認知機能の評価 【選択肢】 1 I 2 II 3 III 4 IV 5 M	⑤ADL ※なお、BIまたはFIMのいずれかで評価していますか。該当するものに○をしてください (1 BI ・2 FIM) また、FIMを選択した場合は、運動項目91点満点でご記入ください						⑥疾患別リハの種類【選択肢】 1 心大血管疾患リハ 2 脳血管疾患等リハ (廃用症候群以外) 3 脳血管疾患等リハ (廃用症候群) 4 運動器リハ 5 呼吸器リハ 6 その他	⑦疾患別リハの実施単位数						⑧リハビリテーション起算日	
	日	月	日			歳	入棟時	2月	3月	4月	5月		6月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	月
例	15	2	28	67	1	40	50					1	100	182				12	10	
1																				
2																				
3																				
4																				
5																				
6																				
7																				
8																				
9																				
10																				
11																				
12																				
13																				
14																				
15																				
16																				
17																				
18																				
19																				
20																				

※ADLについて、廃用症候群の場合は「廃用症候群にかかる評価表」の評価点数、リハビリテーション総合実施計画を策定する患者の場合は当該「計画書」にある評価を用いてください。

退院月以降の記入は不要です。認知機能の評価も、評価表や計画書から転記してください。

※リハビリテーション起算日は、原疾患の発症、手術、急性増悪等、リハビリテーションの標準的算定日数を計算するときの起算日となる日です。

※記入欄が不足する場合にはコピーして、ご記入ください。

(問 13 と問 14 は、回復期リハ病棟入院基本料「I」の場合のみ、ご回答ください)

問 13 平成 27 年 4 月～6 月に貴棟へ入棟した患者のうち、入棟時に A 項目が 1 点以上の患者全員について、1 人ずつ、入棟時の状態等をご記入ください。

	①年齢	②発症・手術後、入棟までの日数	③状態 (選択肢は7頁)	④入棟時の A 得点	⑤該当する A 項目 (選択肢は7頁)	⑥入棟時の B 得点
例	70	45 日	4	1 点	10	0 点
1	歳	日		点		点
2	歳	日		点		点
3	歳	日		点		点
4	歳	日		点		点
5	歳	日		点		点
6	歳	日		点		点
7	歳	日		点		点
8	歳	日		点		点
9	歳	日		点		点
10	歳	日		点		点
11	歳	日		点		点
12	歳	日		点		点
13	歳	日		点		点
14	歳	日		点		点

※記入欄が不足する場合にはコピーして、ご記入ください。

問 14 平成 27 年 4 月に貴棟へ入棟した患者のうち、入棟時に A 項目が 0 点の患者全員について、1 人ずつ、入棟時の状態等をご記入ください。

	①年齢	②発症・手術後、入棟までの日数	③状態 (選択肢は7頁)	④入棟時の B 得点
1	歳	日		点
2	歳	日		点
3	歳	日		点
4	歳	日		点
5	歳	日		点
6	歳	日		点
7	歳	日		点
8	歳	日		点
9	歳	日		点
10	歳	日		点
11	歳	日		点
12	歳	日		点
13	歳	日		点
14	歳	日		点
15	歳	日		点

※記入欄が不足する場合にはコピーして、ご記入ください。

【③状態の選択肢】

1	脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント手術後、脳腫瘍、脳炎、急性脳症、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷等の発症後若しくは手術後の状態又は義肢装着訓練を要する状態
2	大腿骨、骨盤、脊椎、股関節若しくは膝関節の骨折又は二肢以上の多発骨折の発症後又は手術後の状態
3	外科手術又は肺炎等の治療時の安静により廃用症候群を有しており、手術後又は発症後の状態
4	大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の神経、筋又は靭帯損傷後の状態
5	股関節又は膝関節の置換術後の状態
6	1～5以外の状態

【⑤A項目の選択肢：複数回答可】

10	創傷処置（創傷の処置、または褥瘡の処置）
20	呼吸ケア（喀痰吸引の場合を除く）
30	点滴ライン同時3本以上
40	心電図モニターの管理
50	シリンジポンプの管理
60	輸液や血液製剤の管理
70	抗悪性腫瘍剤の使用（注射剤のみ）
71	抗悪性腫瘍剤の内服の管理
72	麻薬注射薬の使用（注射剤のみ）
73	麻薬の内服・貼付
74	放射線治療
75	免疫抑制剤の使用
76	昇圧剤の使用（注射剤のみ）
77	抗不整脈剤の使用（注射剤のみ）
78	抗血栓塞栓薬の持続点滴の使用
79	ドレナージの管理

設問は以上です。ご協力まことにありがとうございました。